

河川水質環境基準に係る類型指定について

(部会報告)

平成 28 年 11 月

大阪府環境審議会水質部会

目次

はじめに	1
1. 類型指定の状況	2
(1) 生活環境の保全に関する項目	2
(2) 水生生物の保全に関する項目	4
2. 水域の利用の状況	5
3. 水質等の状況	7
(1) 生活環境の保全に関する項目	7
(2) 水生生物の保全に関する項目	26
(3) 魚類の生息の状況	28
4. 類型指定の基本的な考え方	29
(1) BOD等5項目に係る類型指定	29
(2) 水生生物の保全に関する3項目に係る類型指定	31
5. 新規指定及び改定を検討する河川の抽出	33
(1) BOD等5項目に係る類型指定	33
(2) 水生生物の保全に関する3項目に係る類型指定	34
6. 河川水域ごとの検討の項目	35
(1) 新規指定及び改定の検討を行うために抽出した河川水域	35
(2) その他	35
7. 河川水域ごとの検討結果	36
(1) 新規指定	37
(2) 上位類型への改定	40
(3) その他	59
8. まとめ	61
おわりに	63

はじめに

水質汚濁に係る環境基準については、環境基本法（平成5年法律第91号）第16条第1項の規定に基づき、昭和46年環境庁告示第59号「水質汚濁に係る環境基準について」により、人の健康の保護及び生活環境の保全に関する環境基準が定められている。

このうち、生活環境の保全に関する環境基準は、水域の利用目的に対応して、生物化学的酸素要求量（BOD）等と水生生物の保全に関する項目ごとに複数の類型が設けられており、これらのいずれかの類型を当てはめ、水域の類型を指定することとなっている。

類型指定については、2以上の都道府県の区域にわたる水域であって政令で定められたものについては政府が、それ以外の水域については都道府県知事がそれぞれ水域の利用目的や水質汚濁の状況等を勘案して行うとともに、これらの事情の変化に応じて適宜改定することとされている。

現在の大阪府内の河川の類型については、平成21年6月に見直しを行い、BOD等は68河川81水域に対し、水生生物の保全に関する項目は58河川63水域に対し、それぞれ指定を行っている。

見直した類型に基づく評価を平成22年度に開始してから5年が経過しており、より一層の水質保全を図るため、水域の利用目的や水質汚濁の状況等の事情の変化を踏まえて、適切な見直しを行う必要があることから、平成28年3月に、大阪府知事が、水質汚濁防止法第21条第1項の規定に基づき、「河川水質環境基準に係る類型指定について」本環境審議会に諮問した。

本審議会では、本件について専門的見地からの検討を行うため、水質部会において、4回にわたり審議を行ってきた。

本報告は、水質部会において、水域の利用状況や水質の状況等を踏まえ、慎重に審議した結果を取りまとめたものである。

1. 類型指定の状況

(1) 生活環境の保全に関する項目

生活環境の保全に関する項目（水素イオン濃度（pH）、生物化学的酸素要求量（BOD）、溶存酸素量（DO）、浮遊物質（SS）、大腸菌群数の5項目。以下「BOD等5項目」という。）の河川水質環境基準については、水道、水産、農業用水など利用目的に対応してAA～Eの6つの類型が設定されている。大阪府内の河川では、表1に示すとおり、昭和45年以降、順次、類型指定・改定を行ってきた。平成28年4月現在では、環境大臣が淀川、神崎川、猪名川及び大和川の4河川7水域について、大阪府知事がその他の64河川74水域について、それぞれ指定している。

大阪府では、これまで上位類型への改定を積極的に行ってきた結果、全体に占める上位類型（A類型、B類型）の水域数の割合が、昭和45年当初は19%であったのに対し、現在では69%となっている。

表1 BOD等の類型指定・改定の経緯と現在の指定状況（1）

指定・改定年月	概要	指定水域数						計
		AA	A	B	C	D	E	
① 昭和45年9月	国が淀川、大和川等の主要河川（20河川26水域）を類型指定（その後、淀川、神崎川、猪名川、大和川を除く16河川は府に移管）	0	1	4	2	4	15	26
② 昭和48年3月	府が泉州の主要河川（20河川23水域）を類型指定	0	10	10	2	5	22	49
③ 昭和50年10月	府が淀川、大和川の支川（13河川16水域）を類型指定	0	12	19	4	6	24	65
④ 昭和53年4月	府が十三間堀川（河川形態喪失）の類型指定を解除	0	12	19	4	6	23	64
⑤ 平成4年2月	府が水無瀬川等9河川9水域を類型指定 安威川下流(2)及び大阪市内河川の11水域の類型を改定 大川の指定範囲を拡大（大川→大川及び城北川）	0	14	20	19	4	16	73
⑥ 平成13年3月	国が神崎川及び猪名川下流(2)の類型を改定	0	14	21	19	5	14	73
⑦ 平成14年6月	府が安威川下流(1)～(3)等9水域の類型を改定	0	17	23	15	5	13	73
⑧ 平成15年3月	国が淀川下流(2)の類型を改定	0	17	23	16	4	13	73
⑨ 平成15年5月	府が神崎川の2次支川等7河川7水域を類型指定 寝屋川等13水域の類型を改定	0	22	27	14	10	7	80
⑩ 平成21年3月	国が猪名川上流の類型を改定	0	23	26	14	10	7	80
⑪ 平成21年6月	府が寝屋川等15河川17水域の類型を改定	0	29	27	8	13	4	81

表1 BOD等の類型指定・改定の経緯と現在の指定状況(2)

水系	河川水域名	区 域	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	現在
			S45	S48	S50	S53	H4	H13	H14	H15	H15	H21	H21	
淀川	淀川下流(1)	宇治川合流点から長柄堰まで	Bハ	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	Bハ
	淀川下流(2)	長柄堰より下流	Dイ	→	→	→	→	→	→	Cイ	→	→	→	Cイ
	船橋川	全域			Bハ	→	→	→	→	→	→	→	→	Bハ
	穂谷川	全域			Bハ	→	→	→	→	→	→	→	→	Bハ
	檜尾川	全域			Bロ	→	→	→	→	→	→	→	→	Bイ
	天野川	奈良県界より下流			Bハ	→	→	→	→	→	→	→	→	Bハ
	芥川(1)	京都府界から塚脇橋まで			Aイ	→	→	→	→	→	→	→	→	Aイ
	芥川(2)	塚脇橋より下流			Bロ	→	→	→	→	→	Aイ	→	→	Aイ
	水無瀬川	全域					Aイ	→	→	→	→	→	→	Aイ
	神崎川	安威川、猪名川を除く神崎川	Eハ	→	→	→	→	Bロ	→	→	→	→	→	Bロ
神崎川	安威川上流	茨木市取水口より上流	Aイ	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	Aイ
	安威川下流(1)	茨木市取水口から戸伏まで	Bハ	→	→	→	→	→	Bイ	→	→	→	→	Aイ
	安威川下流(2)	戸伏から大正川合流点まで	Dハ	→	→	→	Cイ	→	Bロ	→	→	→	→	Aイ
	安威川下流(3)	大正川合流点より下流	Eハ	→	→	→	→	Cイ	→	Bロ	→	→	→	Bロ
	佐保川及び茨木川	全域					Cイ	→	Bイ	→	→	→	→	Aイ
	大正川	全域					Cロ	→	Bロ	→	→	→	→	Aイ
	勝尾寺川	全域					Cロ	→	Bロ	→	→	→	→	Aロ
	猪名川上流	箕面川合流点より上流	Bハ	→	→	→	→	→	→	→	→	Aイ	→	Aイ
	猪名川下流(2)	藤川分岐点から藤川合流点まで	Eハ	→	→	→	→	Dイ	→	→	→	→	→	Dイ
	箕面川(1)	箕面市取水口より上流			Aイ	→	→	→	→	→	→	→	→	Aイ
	箕面川(2)	箕面市取水口から兵庫県界まで			Bロ	→	→	→	Aイ	→	→	→	→	Aイ
	余野川	全域			Bイ	→	→	→	Aイ	→	→	→	→	Aイ
	千里川	全域			Cロ	→	→	→	Aイ	→	→	→	→	Aイ
	田尻川	兵庫県界より上流									Aイ	→	→	Aイ
	一庫・大路次川	京都府界から兵庫県界まで									Aイ	→	→	Aイ
山辺川	全域									Aイ	→	→	Aイ	
寝屋川	寝屋川(1)	住道大橋より上流	Eハ	→	→	→	→	→	→	Dハ	→	→	Cイ	Cイ
	寝屋川(2)	住道大橋より下流												Dハ
	恩智川	全域	Eハ	→	→	→	→	→	→	Dハ	→	→	Dイ	Dイ
	古川	全域					Eハ	→	→	Dハ	→	→	Dロ	Dロ
	第二寝屋川	全域			Eハ	→	→	→	→	Dハ	→	→	Dイ	Dイ
	平野川分水路	全域					Eイ	→	→	Dイ	→	→	→	Dイ
大 阪 市 内 河 川	大川(大川+城北川)	大川全域及び城北川全域	Cイ	→	→	→	城北川追加	→	→	Bイ	→	→	Bイ	
大 和 川	堂島川	全域	Dイ	→	→	→	Cイ	→	→	Bイ	→	→	→	Bイ
	土佐堀川	全域	Eハ	→	→	→	Cハ	→	→	→	→	→	→	Cイ
	道頓堀川	全域	Eハ	→	→	→	Cイ	→	→	Bハ	→	→	→	Bイ
	正蓮寺川	全域	Eロ	→	→	→	Cイ	→	→	→	→	→	→	Bイ
	六軒家川	全域	Eハ	→	→	→	Cイ	→	→	Bイ	→	→	→	Bイ
	安治川	全域	Eイ	→	→	→	Cイ	→	→	Bイ	→	→	→	Bイ
	尻無川	全域	Eロ	→	→	→	Cイ	→	→	→	→	→	→	Bイ
	木津川	全域	Eハ	→	→	→	Cイ	→	→	→	→	→	→	Bイ
	木津川運河	全域	Eハ	→	→	→	Cイ	→	→	→	→	→	→	Bイ
	住吉川	全域	Eハ	→	→	→	Cハ	→	→	→	→	→	→	Bロ
	東横堀川	全域									Cイ	→	→	Bイ
	十三軒堀川	全域	Eハ	→	→	解除								Bイ
	大 和 川	石川	全域	Bハ	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
千早川		全域			Bイ	→	→	→	→	Aイ	→	→	→	Aイ
天見川		全域					Bイ	→	→	→	→	→	→	Bイ
石見川		全域					Aイ	→	→	→	→	→	→	Aイ
飛鳥川		全域								Cロ	→	→	→	Cロ
梅川		全域								Cロ	→	→	→	Aイ
佐備川		全域								Cイ	→	→	→	Cイ
大和川中流		桜井市初瀬取入口から浅香山まで	Cハ	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	Cハ
大和川下流		浅香山より下流	Dハ	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	Dハ
東除川		全域			Cハ	→	→	→	→	→	→	→	→	Cロ
泉 州 諸 河 川	西除川(1)	狭山池流出端より上流			Bハ	→	→	→	→	→	→	→	→	Bロ
	西除川(2)	狭山池流出端より下流			Dハ	→	→	→	→	→	→	→	→	Dロ
	石津川	全域		Eハ	→	→	→	→	→	→	→	→	→	Dイ
	和田川	全域					Cハ	→	→	→	→	→	→	Cロ
	大津川上流	泉大津市高津取水口より上流	Bロ	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	Bロ
	大津川下流	泉大津市高津取水口より下流	Dハ	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	Dイ
	牛滝川	全域			Bハ	→	→	→	→	→	→	→	→	Bロ
	松尾川	全域			Bハ	→	→	→	→	→	→	→	→	Bハ
	横尾川	全域			Bイ	→	→	→	→	→	→	→	→	Bイ
	父鬼川	全域			Aイ	→	→	→	→	→	→	→	→	Aイ
	春木川	全域			Eハ	→	→	→	→	→	→	→	→	Dイ
	津田川	全域			Eハ	→	→	→	→	→	→	→	→	Eイ
	近木川上流	柘谷川合流点より上流	Eハ	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	Bイ
	近木川下流	柘谷川合流点より下流	Eハ	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	Dイ
	佐野川	全域			Eハ	→	→	→	→	→	→	→	→	Eイ
見出川	全域			Eハ	→	→	→	→	→	→	→	→	Eイ	
泉 州 諸 河 川	櫻井川上流	兎田橋より上流			Bイ	→	→	→	→	→	→	→	→	Bイ
	櫻井川下流	兎田橋より下流			Eハ	→	→	→	→	→	→	→	→	Eイ
	金熊寺川	全域			Aイ	→	→	→	→	→	→	→	→	Aイ
	男里川	全域			Aイ	→	→	→	→	→	→	→	→	Aイ
	菟碓川	全域			Aイ	→	→	→	→	→	→	→	→	Aイ
	山中川	全域			Aイ	→	→	→	→	→	→	→	→	Aイ
	番川	全域			Aイ	→	→	→	→	→	→	→	→	Aイ
	大川	全域			Aイ	→	→	→	→	→	→	→	→	Aイ
	東川	全域			Aイ	→	→	→	→	→	→	→	→	Aイ
	西川	全域			Aイ	→	→	→	→	→	→	→	→	Aイ

※網掛けは、国が類型を指定する河川水域を示す。

(2) 水生生物の保全に関する項目

水生生物の保全に関する項目（全亜鉛、ノニルフェノール、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩（LAS）の3項目。以下「水生生物の保全に関する3項目」という。）の河川水質環境基準については、水生生物の生息状況に対応して生物A、生物特A、生物B、生物特Bの4つの類型が設定されている。大阪府内の河川では、表2に示すとおり、平成18年以降、順次、類型指定を行ってきている。平成28年4月現在では、環境大臣が淀川、神崎川、猪名川及び大和川の4河川4水域について、大阪府知事がその他の54河川59水域について、それぞれ指定している。

表2 水生生物の保全に関する項目の類型指定の経緯と現在の指定状況

指定・改定年月	概要	指定水域数				
		生物A	生物特A	生物B	生物特B	計
① 平成18年6月	国が大和川（全域）を類型指定	0	0	1	0	1
② 平成21年6月	府が54河川59水域を類型指定	9	0	51	0	60
③ 平成21年11月	国が淀川（全域）、神崎川（安威川、猪名川を除く神崎川）、猪名川(2)（ゴルフ橋より下流）を類型指定	9	0	54	0	63

水系	河川水域名	区 域	①	②	③	現在
			H18	H21	H21	
淀川	淀川下流(1)	宇治川合流点から長柄堰まで			生物B-I	生物B-I
	淀川下流(2)	長柄堰より下流				
	船橋川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	穂谷川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	樽尾川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	天野川	奈良県界より下流		生物B-I	→	生物B-I
	芥川(1)	京都府界から塚脇橋まで		生物A-I	→	生物A-I
	芥川(2)	塚脇橋より下流		生物B-I	→	生物B-I
	水無瀬川	全域		生物A-I	→	生物A-I
	神崎川	安威川、猪名川を除く神崎川			生物B-I	生物B-I
神崎川	安威川上流	茨木市取水口より上流		生物A-I	→	生物A-I
	安威川下流(1)	茨木市取水口から戸伏まで		生物B-I	→	生物B-I
	安威川下流(2)	戸伏から大正川合流点まで		生物B-I	→	生物B-I
	安威川下流(3)	大正川合流点より下流		生物B-I	→	生物B-I
	佐保川及び茨木川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	大正川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	勝尾寺川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	猪名川上流	箕面川合流点より上流			生物B-I	生物B-I
	猪名川下流(2)	藤川分岐点から藤川合流点まで				
	箕面川(1)	箕面市取水口より上流		生物A-I	→	生物A-I
	箕面川(2)	箕面市取水口から兵庫県界まで		生物B-I	→	生物B-I
	余野川	全域		生物A-I	→	生物A-I
	千里川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	田尻川	兵庫県界より上流		生物A-I	→	生物A-I
	一庫・大路次川	京都府界から兵庫県界まで		生物A-I	→	生物A-I
山辺川	全域		生物A-I	→	生物A-I	
寝屋川	寝屋川(1)	住道大橋より上流		生物B-II	→	生物B-II

水系	河川水域名	区 域	①	②	③	現在
			H18	H21	H21	
大阪市内河川	大川（大川+城北川）	大川全域及び城北川全域			生物B-I	生物B-I
	堂島川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	土佐堀川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	道頓堀川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	正蓮寺川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	六軒家川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	安治川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	尻無川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	大津川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	大津川運河	全域		生物B-I	→	生物B-I
	住吉川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	東横堀川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	石川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	千早川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	天見川	全域		生物B-I	→	生物B-I
大和川水系	石見川	全域		生物A-I	→	生物A-I
	飛鳥川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	梅川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	佐備川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	大和中流	桜井市初瀬取入口から浅香山まで		生物B-I	→	生物B-I
	大和下流	浅香山より下流			→	
	東除川	全域		生物B-II	→	生物B-II
	西除川(1)	狭山池流出端より上流		生物B-I	→	生物B-I
	和田川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	大津川上流	泉大津市高津取水口より上流		生物B-I	→	生物B-I
泉州諸河川	牛滝川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	松尾川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	槇尾川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	父鬼川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	近木川上流	稻谷川合流点より上流		生物B-I	→	生物B-I
	櫻井川上流	魂田橋より上流		生物B-I	→	生物B-I
	金熊寺川	全域		生物B-II	→	生物B-II
	男里川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	菟畷川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	山中川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	番川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	大川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	東川	全域		生物B-I	→	生物B-I
	西川	全域		生物B-I	→	生物B-I

※網掛けは、国が類型を指定する河川水域を示す。

2. 水域の利用の状況

府内河川における利水等の状況は表3に示すとおりであり、前回類型指定の見直しを行った平成21年からの変化はない。

表3 府内河川における利水等の状況

利水等の状況 水系	上水道水源	漁業権 (アユ・マスの遊漁を実施)	利水
淀川水系	・淀川下流(1) ・水無瀬川	・芥川(1) ・水無瀬川	・農業用水
神崎川水系	・猪名川上流 ・箕面川(1)	・一庫・大路次川 ・山辺川 ・余野川 ・安威川	・農業用水 ・工業用水
寝屋川水系			・農業用水 ・工業用水
大阪市内河川			・工業用水
大和川水系	・石川 ・石見川		・農業用水
泉州諸河川	・近木川上流 ・父鬼川		・農業用水

また、府内河川における河川環境の活用や保全の取組の状況は表4に示すとおりであり、前回類型指定の見直しを行った平成21年以降も、活発な取組が進められている。

表4 府内河川における河川環境の活用や保全の取組の状況(1)

水系	取組の状況
淀川水系	<ul style="list-style-type: none"> ・芥川上流の摂津峡では、平成23年にハイキングコースが追加で整備されるなど、自然探勝の場として利用されている。 ・天野川で遊歩道が整備され、芥川で河川公園が整備されるなど、散策の場や水とふれあえる場として利用されている。 ・芥川では、アユをシンボルとした河川環境保全の取組が行われている。 ・地域の団体等が河川の一定区間の美化活動を継続的に行うアドプト・リバーの実施箇所数が16箇所(平成21年度末)から21箇所(平成27年12月)に増加している。
神崎川水系	<ul style="list-style-type: none"> ・箕面川では、箕面滝の周辺に箕面公園が整備され、自然探勝の場として利用されている。平成22年からは川床を設置し、新たな魅力づくり・賑わいづくりが進められている。 ・神崎川で遊歩道が整備され、千里川で親水空間が整備されるなど、散策の場や水とふれあえる場として利用されている。 ・アドプト・リバーの実施箇所数が35箇所(平成21年度末)から44箇所(平成27年12月)に増加している。

表 4 府内河川における河川環境の活用や保全の取組の状況（2）

水系	取組の状況
寝屋川水系	<ul style="list-style-type: none"> ・最下流部にあたる京橋口付近では、緑地を施した遊歩道や階段護岸等が整備され都心部のオアシス的存在として利用されているほか、観光船も運行されている。中流域では、治水緑地等が整備され、散策の場等として利用されている。 ・寝屋川上流域では、地域住民と連携して生物の生息にも配慮した親水空間の整備が進められており、平成 25 年には 3 箇所目の施設が完成し、水とふれあえる場として利用されている。 ・アドプト・リバーの実施箇所数が 21 箇所（平成 21 年度末）から 36 箇所（平成 27 年 12 月）に増加している。
大阪市内河川	<ul style="list-style-type: none"> ・水の回廊を活用して水都大阪を推進する取組が平成 21 年から本格化しており、各地で遊歩道や船着場が整備され、散策の場や観光の拠点として利用されている。また、平成 23 年には毛馬桜之宮公園貯木場跡の水辺を活用して砂浜が整備され、水とふれあえる場として利用されている。 ・アドプト・リバーの実施箇所数が 8 箇所（平成 21 年度末）から 9 箇所（平成 27 年 12 月）に増加している。
大和川水系	<ul style="list-style-type: none"> ・石見川では、川沿いにハイキングコースが整備され、自然探勝の場として利用されている。 ・石川で河川公園が整備されるなど、散策の場や水とふれあえる場として利用されている。 ・石川では、平成 24 年から、地元の高校生が中心となって、上流域へのアユの遡上を目指した取組が進められている。 ・アドプト・リバーの実施箇所数が 14 箇所（平成 21 年度末）から 21 箇所（平成 27 年 12 月）に増加している。
泉州諸河川	<ul style="list-style-type: none"> ・大津川や春木川では遊歩道が整備され、松尾川や牛滝川上流域では親水空間が整備されるなど、散策の場や水とふれあえる場として利用されている。 ・近木川の河口部において自然の再生を図るため、汽水ワンドが整備されている。 ・春木川の下流や、佐野川の上流に位置する住吉川では、水とふれあえる場の整備が計画されている。 ・石津川では、アユをシンボルとした河川環境の改善に向けた取組が進められている。 ・アドプト・リバーの実施箇所数が 46 箇所（平成 21 年度末）から 70 箇所（平成 27 年 12 月）に増加している。

3. 水質等の状況

(1) 生活環境の保全に関する項目

① BOD

(ア) 環境基準達成率の推移

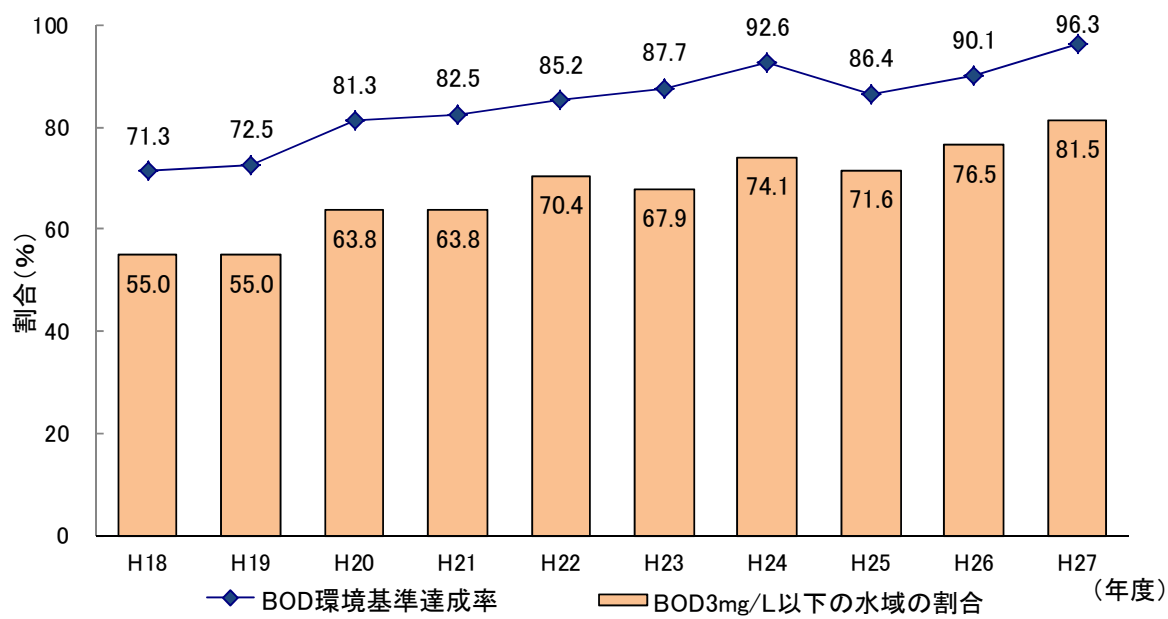
BODの環境基準達成率の推移は表5に示すとおりである。環境基準達成率は、現在の類型に基づく評価を開始した平成22年度には85.2%であったところ、平成27年度には96.3%となり、また、A類型の達成率が平成26年度に初めて100%となるなど、経年的に見ると達成率は上昇している。

また、平成23年に策定した「大阪21世紀の新環境総合計画」では、平成32年度(2020年度)の目標を「BOD3mg/L以下(B類型の環境基準値)を満たす河川の割合を8割にする」としている。BOD3mg/L以下の水域の割合の推移は、図1に示すとおりであり、平成27年度は約8割となり、この目標を達成している。

表5 水質環境基準(BOD)の達成率の推移

年度 項目 類型(基準値)	平成22		平成23		平成24		平成25		平成26		平成27	
	達成 状況	達成 率 (%)	達成 状況	達成 率 (%)	達成 状況	達成 率 (%)	達成 状況	達成 率 (%)	達成 状況	達成 率 (%)	達成 状況	達成 率 (%)
	A 2mg/L 以下	27 — 29	93.1	26 — 29	89.7	28 — 29	96.6	27 — 29	93.1	29 — 29	100	29 — 29
B 3mg/L 以下	22 — 27	81.5	20 — 27	74.1	24 — 27	88.9	22 — 27	81.5	23 — 27	85.2	25 — 27	92.6
C 5mg/L 以下	6 — 8	75.0	8 — 8	100	7 — 8	87.5	6 — 8	75.0	6 — 8	75.0	8 — 8	100
D 8mg/L 以下	10 — 13	76.9	13 — 13	100	12 — 13	92.3	12 — 13	92.3	11 — 13	84.6	12 — 13	92.3
E 10mg/L 以下	4 — 4	100	4 — 4	100	4 — 4	100	3 — 4	75.0	4 — 4	100	4 — 4	100
全 類 型	69 — 81	85.2	71 — 81	87.7	75 — 81	92.6	70 — 81	86.4	73 — 81	90.1	78 — 81	96.3

(注) 達成状況の上段は達成水域数、下段は類型別の全水域数を示す。



※府内全 81 水域における割合を示す。

図 1 水質環境基準（BOD）の達成率及び
BOD 3 mg/L 以下の水域の割合の推移

(イ) BODの経年変化と類型指定・改定状況

BOD75%値及び年平均値の経年変化と類型指定・改定状況は、表6及び表7に示すとおりである。また、府が類型指定を行う水域の水質の状況は以下のとおりである。

(淀川水系)

淀川水系は、計9水域のうち淀川本川の2水域について国が類型指定を行い、船橋川など7水域について府が類型指定を行っている。

船橋川、穂谷川、檜尾川、天野川（いずれもB類型）のBOD75%値及び年平均値はともに改善傾向にある。

芥川(1)、芥川(2)、水無瀬川の3水域は現在のA類型を達成している。特に、芥川(1)及び水無瀬川は上位のAA類型の基準値(1mg/L)以下であり、良好な水質が維持されている。

表6-1 BOD75%値の経年変化と類型指定改定状況（淀川水系）

水系	河川水域名(環境基準点)	H11の 類型	H12・15 国見直し	H14・15 府見直し	BODの75%値(mg/L)						H21 府見直し	BODの75%値(mg/L)						現在の 類型	
					H16	H17	H18	H19	H20	H21		H22	H23	H24	H25	H26	H27		
淀川	淀川下流(1)(枚方大橋流心)	Bハ			1.1	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1		1.3	1.1	1.4	1.2	1.0	1.1	Bハ	
	(枚方大橋左岸)				1.2	1.6	1.3	1.4	1.3	1.2		1.2	1.3	1.3	1.3	1.1	1.1		
	(枚方大橋右岸)				1.0	1.6	1.3	1.0	1.2	1.1		1.3	1.2	1.2	1.3	1.1	1.1		
	(鳥飼大橋流心)				1.5	1.6	1.1	1.1	1.2	1.1		1.3	1.2	1.3	1.1	1.0	1.0		
	(鳥飼大橋左岸)				0.9	1.4	1.2	1.2	1.3	1.1		1.0	1.4	1.2	1.2	0.9	1.1		
	(鳥飼大橋右岸)				0.8	1.4	1.4	1.1	1.1	1.2		1.0	1.2	1.2	1.1	0.9	1.1		
	(JR西日本赤川鉄橋)				1.4	1.7	1.3	1.3	1.2	1.5		1.2	1.2	1.3	1.6	1.1	1.0		
	淀川下流(2)(伝法大橋)	Dイ	D⇒C			2.5	3.8	4.1	4.8	5.2	3.8		1.6	1.3	1.8	5.5	5.8	1.8	Cイ
	船橋川(新登橋上流)	Bハ				8.0	8.9	4.6	5.7	4.6	4.1		3.3	4.6	3.0	3.6	3.3	2.7	Bハ
	穂谷川(淀川合流直前)	Bハ				6.1	11	4.7	5.1	4.2	3.9		5.5	5.1	4.0	2.8	2.1	3.2	Bハ
檜尾川(警手社神社)	Bイ				2.6	1.6	2.8	2.6	3.1	2.9		2.9	3.3	1.8	1.0	1.9	1.6	Bイ	
天野川(淀川合流直前)	Bハ				4.0	7.5	4.5	3.4	2.8	2.2		2.8	3.8	2.1	2.3	2.7	1.8	Bハ	
芥川(1)(塚脇橋)	Aイ				0.8	1.4	0.9	0.7	<0.5	0.9		0.9	0.7	0.5	0.6	0.8	0.5	Aイ	
芥川(2)(鷺打橋)	Bロ			B⇒A	1.1	1.8	1.1	0.9	1.1	1.0		0.9	1.0	0.8	1.3	1.1	0.7	Aイ	
水無瀬川(名神高速道路高架橋下)	Aイ				0.6	0.7	1.0	0.6	<0.5	0.6		0.5	<0.5	<0.5	0.6	0.5	0.6	Aイ	

※網掛けは、国が類型を指定する河川水域を示す。

太字 環境基準を達成せず

斜体 上位の環境基準を達成(例:現在B類型であるが、A類型の基準を達成している。)

表7-1 BOD年平均値の経年変化と類型指定改定状況（淀川水系）

水系	河川水域名(環境基準点)	H11の 類型	H12・15 国見直し	H14・15 府見直し	BOD年平均値(mg/L)						H21 府見直し	BODの年平均値(mg/L)						現在の 類型
					H16	H17	H18	H19	H20	H21		H22	H23	H24	H25	H26	H27	
淀川	淀川下流(1)(枚方大橋流心)	Bハ			1.0	1.2	1.1	1.0	1.0	1.0		1.1	1.1	1.2	1.1	0.9	1.0	Bハ
	(枚方大橋左岸)				1.2	1.4	1.1	1.1	1.1	1.0		1.0	1.1	1.3	1.2	0.9	1.1	
	(枚方大橋右岸)				1.0	1.3	1.1	0.9	1.0	1.0		1.0	1.1	1.2	1.1	0.9	1.0	
	(鳥飼大橋流心)				1.1	1.4	1.0	1.1	1.1	0.9		1.1	1.2	1.2	1.2	0.9	1.0	
	(鳥飼大橋左岸)				1.0	1.3	1.1	1.0	1.2	1.1		0.9	1.2	1.2	1.1	0.8	1.0	
	(鳥飼大橋右岸)				1.0	1.3	1.1	1.0	1.1	1.0		0.9	1.1	1.1	1.1	0.8	1.0	
	(JR西日本赤川鉄橋)				1.3	1.6	1.2	1.1	1.1	1.2		1.0	1.1	1.2	1.3	1.0	1.1	
淀川下流(2)(伝法大橋)	Dイ	D⇒C			1.8	3.1	2.7	4.3	3.2	3.0		1.8	1.5	1.9	4.0	4.1	2.6	Cイ
船橋川(新登橋上流)	Bハ				6.2	7.8	4.9	4.7	4.4	3.7		3.2	4.1	2.5	3.2	3.1	2.3	Bハ
穂谷川(淀川合流直前)	Bハ				5.7	8.9	4.6	4.0	3.4	3.6		4.1	4.2	3.0	2.6	2.1	2.7	Bハ
檜尾川(警手社神社)	Bイ				2.3	1.7	2.3	2.2	2.6	2.6		2.5	2.4	1.7	1.0	1.5	1.3	Bイ
天野川(淀川合流直前)	Bハ				3.3	6.2	4.0	2.8	2.4	2.0		2.4	3.1	1.8	2.0	2.2	1.6	Bハ
芥川(1)(塚脇橋)	Aイ				0.8	1.1	0.8	0.9	0.5	0.8		0.8	0.6	0.6	0.6	0.7	0.6	Aイ
芥川(2)(鷺打橋)	Bロ			B⇒A	1.0	1.5	1.0	0.9	0.9	0.9		0.8	1.0	0.8	1.3	0.9	0.8	Aイ
水無瀬川(名神高速道路高架橋下)	Aイ				0.6	0.6	1.0	0.6	0.5	0.6		0.6	0.5	0.5	0.6	0.5	0.7	Aイ

※網掛けは、国が類型を指定する河川水域を示す。

(神崎川水系)

神崎川水系は、計 17 水域のうち、神崎川、猪名川上流、猪名川下流(2)の 3 水域について国が類型指定を行い、安威川上流など 14 水域について府が類型指定を行っている。

安威川上流は、良好な水質が維持されており、BOD75%値は上位の A 類型の基準値以下である。

前回の見直しで A 類型に改定した安威川下流(1)、安威川下流(2)、佐保川及び茨木川、大正川、勝尾寺川の 5 水域、前回の見直しで B 類型に改定した安威川下流(3)は、いずれも環境基準を達成している。

箕面川(1)など猪名川の支川の 7 水域は、引き続き BOD 年平均値が 1 mg/L 程度と良好な水質を維持しており、A 類型の基準値を十分下回っている。

表 6-2 BOD75%値の経年変化と類型指定改定状況(神崎川水系)

水系	河川水域名(環境基準点)	H11の 類型	H12-15 国見直し	H14-15 府見直し	BODの75%値(mg/L)							H21 府見直し	BODの75%値(mg/L)						現在の 類型
					H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22		H23	H24	H25	H26	H27		
神	神崎川(新三国橋)	Eハ	E⇒B		1.9	2.3	2.4	2.2	1.5	4.4		1.4	1.5	1.8	1.6	1.3	1.5	Bロ	
	(千船橋)			2.1	2.8	2.8	2.0	1.7	2.0	1.9	1.8	2.0	2.4	1.6	1.2				
	左門殿川(辰巳橋)			1.9	2.8	2.2	2.3	1.6	2.3	1.7	1.8	1.6	2.3	2.7	1.7				
	安威川上流(桑ノ原橋)	Aイ			1.1	0.8	0.8	1.4	0.9	1.2		0.9	0.6	0.6	0.7	0.9	0.6	Aイ	
	安威川下流(1)(千歳橋)	Bハ			1.5	1.8	1.1	1.5	1.1	1.3	B⇒A	1.2	1.3	1.0	1.1	1.2	0.8	Aイ	
安威川下流(2)(宮鳥橋)	Cイ		C⇒B	1.5	1.8	1.5	1.9	1.1	1.4	B⇒A	1.2	1.1	1.2	1.4	1.5	1.0	Aイ		
安威川下流(3)(新京阪橋)	Eハ		E⇒C	1.7	2.7	2.4	3.3	2.0	4.1	C⇒B	1.8	1.6	2.1	1.6	1.3	2.1	Bロ		
佐保川及び茨木川(安威川合流直前)	Cイ		C⇒B	1.9	1.7	1.1	1.5	1.2	1.2	B⇒A	1.3	1.0	1.1	1.1	1.3	1.2	Aイ		
大正川(安威川合流直前)	Cロ		C⇒B	1.5	2.0	1.8	1.8	1.7	1.8	B⇒A	1.7	1.2	1.6	1.9	1.5	1.7	Aイ		
勝尾寺川(中河原橋)	Cロ		C⇒B	2.3	2.3	1.5	1.7	1.2	1.3	B⇒A	1.6	1.4	1.3	1.3	1.3	1.2	Aロ		
猪名川上流(銀橋)	Bイ			1.0	1.1	1.0	0.9	1.1	1.0	B⇒A	1.1	1.1	1.1	0.8	0.8	0.9	Aイ		
猪名川下流(2)(利倉橋)	Eイ		E⇒D	7.0	10	11	11	10	9.6		9.5	6.8	10	9.9	8.1	8.1	Dイ		
箕面川(1)(箕面市取水口)	Aイ			0.5	0.5	0.9	0.6	0.6	0.5		0.5	<0.5	0.7	0.5	0.6	0.6	Aイ		
箕面川(2)(府県境)	Bロ		B⇒A	1.3	1.1	1.4	1.4	1.1	1.0		0.9	0.8	0.8	1.5	1.4	1.5	Aイ		
余野川(猪名川合流直前)	Bイ		B⇒A	0.8	0.8	1.1	0.7	0.5	0.6		0.5	<0.5	0.5	0.7	0.5	0.7	Aイ		
千里川(猪名川合流直前)	Aイ			1.1	1.7	1.2	1.4	1.0	1.4		1.3	1.3	1.2	1.1	1.1	1.1	Aイ		
田尻川(兵庫県界)	—		新規 A	0.9	1.2	1.3	1.0	0.8	0.8		0.8	0.6	0.8	0.9	0.8	1.2	Aイ		
一庫・大路次川(兵庫県界)	—		新規 A	0.8	0.8	1.2	1.0	0.7	0.8		0.8	0.7	0.7	0.9	0.6	1.1	Aイ		
山辺川(一庫・大路次川合流直前)	—		新規 A	0.6	0.7	1.1	0.8	0.6	0.8		0.6	0.7	0.8	0.7	0.6	1.1	Aイ		

※網掛けは、国が類型を指定する河川水域を示す。 **太字** 環境基準を達成せず

斜体 上位の環境基準を達成(例:現在B類型であるが、A類型の基準を達成している。)

表 7-2 BOD年平均値の経年変化と類型指定改定状況（神崎川水系）

水系	河川水域名(環境基準点)	H11の 類型	H12・15 国見直し	H14・15 府見直し	BOD年平均値(mg/L)						H21 府見直し	BODの年平均値(mg/L)						現在の 類型	
					H16	H17	H18	H19	H20	H21		H22	H23	H24	H25	H26	H27		
神	神崎川(新三国橋)	Eハ	E⇒B		1.7	1.9	2.4	1.9	1.6	2.4			1.5	1.9	1.9	1.5	1.4	1.4	B口
	(千船橋)				2.0	2.6	2.4	2.0	1.6	2.1			1.6	1.6	1.6	2.0	1.2	1.2	
	左門殿川(辰巳橋)				1.6	2.2	2.1	1.7	1.5	2.1			1.6	1.7	1.5	1.9	1.8	1.9	
	安威川上流(桑ノ原橋)	Aイ			0.9	0.7	0.7	1.2	0.8	0.9			0.8	0.6	0.6	0.7	0.9	0.6	Aイ
	安威川下流(1)(千歳橋)	Bハ			1.3	2.2	1.0	1.4	0.9	1.2	B⇒A		1.1	0.9	0.9	0.9	1.3	0.9	Aイ
	安威川下流(2)(宮島橋)	Cイ		C⇒B	1.4	1.9	1.1	1.5	1.0	1.2	B⇒A		1.0	0.9	1.0	1.2	1.3	0.9	Aイ
	安威川下流(3)(新京阪橋)	Eハ		E⇒C	1.6	2.2	2.0	2.5	1.7	2.8	C⇒B		1.8	1.8	2.3	1.5	1.4	1.8	B口
	佐保川及び茨木川(安威川合流直前)	Cイ		C⇒B	1.6	1.5	1.0	1.5	1.0	1.0	B⇒A		1.1	0.9	1.0	1.0	1.1	1.0	Aイ
	大正川(安威川合流直前)	C口		C⇒B	1.5	1.6	1.6	1.6	1.4	1.6	B⇒A		1.3	1.1	1.7	1.6	1.4	1.6	Aイ
	勝尾寺川(中河原橋)	C口		C⇒B	1.9	1.9	1.3	1.6	1.1	1.3	B⇒A		1.4	1.2	1.1	1.1	1.2	1.2	A口
崎	猪名川上流(銀橋)	Bイ			0.9	1.0	0.9	0.8	1.0	0.9	B⇒A		0.9	1.0	0.9	0.7	0.7	0.8	Aイ
	(軍行橋)				0.9	0.9	0.8	0.8	0.9	0.8		0.9	0.9	0.7	0.7	0.7			
	猪名川下流(2)(利倉橋)	Eイ	E⇒D		6.0	8.2	8.6	9.0	8.4	8.0			8.2	7.4	8.3	7.9	6.8	6.5	Dイ
	箕面川(1)(箕面市取水口)	Aイ			0.6	0.6	0.9	0.7	0.6	0.6			0.5	0.5	0.6	0.5	0.6	0.6	Aイ
	箕面川(2)(府県境)	B口		B⇒A	1.0	1.2	1.2	1.1	0.9	0.8			0.8	0.6	0.7	1.2	1.2	1.2	Aイ
	余野川(猪名川合流直前)	Bイ		B⇒A	0.6	0.7	1.0	0.6	0.6	0.6			0.5	0.6	0.5	0.6	0.5	0.8	Aイ
	千里川(猪名川合流直前)	Aイ			0.9	1.3	1.1	1.5	1.0	1.3			1.2	1.2	1.0	1.0	1.0	1.0	Aイ
	田尻川(兵庫県界)	—		新規A	0.7	1.0	1.1	0.7	0.8	0.7			0.7	0.8	0.7	0.7	0.7	1.0	Aイ
	一庫・大路次川(兵庫県界)	—		新規A	0.8	0.8	1.1	0.8	0.7	0.8			0.7	0.6	0.7	0.7	0.6	0.9	Aイ
	山辺川(一庫・大路次川合流直前)	—		新規A	0.7	0.7	1.1	0.7	0.6	0.7			0.6	0.6	0.7	0.7	0.6	0.8	Aイ

※網掛けは、国が類型を指定する河川水域を示す。

(寝屋川水系)

寝屋川水系については、府が全7水域の類型指定を行っている。いずれの水域もBOD年平均値は改善傾向にあり、平成20年度以降はほとんどの水域で環境基準を達成している。

前回の見直しでC類型に改定した寝屋川(1)では、環境基準を達成している。

その他の水域でも現状のD類型の環境基準を十分達成している年度が多く見られる。

表6-3 BOD75%値の経年変化と類型指定改定状況(寝屋川水系)

水系	河川水域名(環境基準点)	H11の 類型	H12・15 国見直し	H14・15 府見直し	BODの75%値(mg/L)							H21 府見直し	BODの75%値(mg/L)							現在の 類型
					H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22		H23	H24	H25	H26	H27			
寝屋川	寝屋川(1)(萱島橋) (住道大橋)	Eハ		E⇒D	2.9	3.2	1.8	2.6	1.2	1.8	D⇒C	1.2	1.6	2.0	1.9	2.2	2.3	C-I		
	3.5				4.1	3.4	4.1	1.9	2.2	1.9		1.9	2.4	2.1	1.6	2.0				
	8.3				12	13	10	7.5	5.7	5.6		5.6	6.5	5.5	5.7	5.3				
		寝屋川(2)(今津橋) (京橋)	Eハ		E⇒D	4.8	5.9	8.3	4.3	3.9	2.6	D⇒C	3.5	2.5	5.0	3.8	2.4	3.7	D-II	
	6.3	7.3				6.6	8.5	6.0	5.5	5.1	3.7		3.7	3.2	2.7	2.9				
	7.4	10				12	10	6.8	5.6	5.6	5.4		4.4	4.4	6.2	4.6				
	恩智川(住道新橋)	Eハ		E⇒D	6.3	7.3	6.6	8.5	6.0	5.5		5.1	3.7	3.7	3.2	2.7	2.9	D-I		
	古川(徳栄橋)	Eハ		E⇒D	7.4	10	12	10	6.8	5.6		5.6	5.4	4.4	4.4	6.2	4.6	D-II		
	第二寝屋川(新金吾郎橋)	Eハ		E⇒D	4.6	4.8	5.9	5.2	6.6	5.6		8.6	4.8	7.3	6.9	9.5	3.2	D-I		
	平野川分水路(天王田大橋)	E-I		E⇒D	9.7	9.3	7.4	9.2	5.3	3.9		6.1	5.8	6.6	5.4	5.7	4.8	D-I		
	平野川(城見橋)	Eハ		E⇒D	8.4	9.5	8.4	7.2	5.6	4.0		5.9	5.7	5.9	4.5	5.1	4.2	D-I		

太字 環境基準を達成せず

斜体 上位の環境基準を達成(例:現在B類型であるが、A類型の基準を達成している。)

表7-3 BOD年平均値の経年変化と類型指定改定状況(寝屋川水系)

水系	河川水域名(環境基準点)	H11の 類型	H12・15 国見直し	H14・15 府見直し	BOD年平均値(mg/L)							H21 府見直し	BODの年平均値(mg/L)							現在の 類型
					H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22		H23	H24	H25	H26	H27			
寝屋川	寝屋川(1)(萱島橋) (住道大橋)	Eハ		E⇒D	2.5	2.8	1.9	1.9	1.0	1.5	D⇒C	0.9	1.4	1.7	1.6	1.9	1.9	C-I		
	3.0				3.6	3.0	3.9	1.6	2.1	1.6		1.8	2.2	1.7	1.5	1.7				
	6.7				10	11	7.3	6.0	5.2	5.7		4.7	5.7	4.9	5.6	4.4				
		寝屋川(2)(今津橋) (京橋)	Eハ		E⇒D	4.4	6.4	6.8	3.9	3.2	2.8	D⇒C	3.1	2.3	4.0	3.2	2.7	2.9	D-II	
5.3	5.8	4.9				6.3	5.1	4.1	3.8	3.2	3.4		2.7	2.5	2.8					
6.0	8.8	9.6				7.0	5.4	4.6	4.2	4.8	5.0		3.7	4.2	3.7					
	恩智川(住道新橋)	Eハ		E⇒D	6.0	8.8	9.6	7.0	5.4	4.6		4.2	4.8	5.0	3.7	4.2	3.7	D-II		
	古川(徳栄橋)	Eハ		E⇒D	4.1	4.5	5.1	4.2	6.2	5.0		6.5	4.5	5.8	6.0	7.0	3.1	D-I		
	第二寝屋川(新金吾郎橋)	Eハ		E⇒D	8.4	8.1	7.3	6.5	4.7	3.5		4.7	4.7	5.8	4.3	5.0	3.7	D-I		
	平野川分水路(天王田大橋)	E-I		E⇒D	7.0	8.4	7.8	5.8	4.6	4.6		4.7	4.4	4.5	4.0	4.2	3.2	D-I		
	平野川(城見橋)	Eハ		E⇒D	7.0	8.4	7.8	5.8	4.6	4.6		4.7	4.4	4.5	4.0	4.2	3.2	D-I		

(大阪市内河川)

大阪市内河川は、府が全 12 水域の類型指定を行っている。BOD 年平均値は改善傾向にある。

前回の見直しで B 類型に改定した正蓮寺川、尻無川、木津川、木津川運河、住吉川、東横堀川の 6 水域では、平成 23 年度を除き全て環境基準を達成している。

その他の水域では、平成 19 年度以降はほとんどの水域で環境基準を達成している。

表 6-4 BOD 75% 値の経年変化と類型指定改定状況 (大阪市内河川)

水系	河川水域名(環境基準点)	H11の 類型	H12・15 国見直し	H14・15 府見直し	BODの75%値(mg/L)							H21 府見直し	BODの75%値(mg/L)							現在の 類型
					H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22		H23	H24	H25	H26	H27			
大阪 市 内 河 川	大 川 (桜 宮 橋)	Cイ		C⇒B	1.4	2.5	1.5	1.6	1.0	1.1		0.8	1.0	1.1	0.9	0.7	0.8	Bイ		
	堂 島 川 (天 神 橋)	Cイ		C⇒B	2.2	3.9	3.1	2.6	1.7	1.5		1.8	1.9	2.2	1.5	1.2	1.3	Bイ		
	土 佐 堀 川 (天 神 橋)	Cハ			5.0	6.2	5.6	3.4	2.5	1.7		1.9	2.0	2.9	1.7	1.7	2.0	Cイ		
	道 頓 堀 川 (大 黒 橋)	Cイ		C⇒B	1.9	2.7	2.0	2.7	1.7	1.9		2.2	1.9	2.0	1.5	1.2	1.1	Bイ		
	正 蓮 寺 川 (北 港 大 橋 下 流 700 m)	Cイ			2.4	2.9	2.1	3.0	2.7	2.9	C⇒B	2.4	1.8	1.8	3.0	2.1	1.4	Bイ		
	六 軒 家 川 (春 日 出 橋)	Cイ		C⇒B	1.2	2.1	1.6	1.8	1.0	1.7		1.3	1.3	1.0	0.9	0.9	0.9	Bイ		
	安 治 川 (天 保 山 渡)	Cイ		C⇒B	1.5	1.8	1.4	1.4	0.9	1.1		1.3	1.2	1.1	1.1	0.8	1.0	Bイ		
	尻 無 川 (葛 兵 衛 渡)	Cイ			2.0	2.5	1.9	1.6	1.4	1.1	C⇒B	1.1	1.2	1.6	1.3	1.3	1.4	Bイ		
	木 津 川 (千 本 松 渡)	Cイ			2.3	3.9	2.0	1.7	1.5	1.5	C⇒B	1.3	1.4	1.6	1.3	1.3	1.5	Bイ		
	木 津 川 運 河 (船 町 渡)	Cイ			2.0	3.2	2.1	1.6	2.0	1.7	C⇒B	1.4	1.9	1.8	1.5	1.8	1.6	Bイ		
	住 吉 川 (住 之 江 大 橋 下 流 1100 m)	Cハ			2.8	3.7	3.0	2.4	3.1	2.4	C⇒B	2.3	3.5	2.6	2.6	1.9	2.0	Bロ		
	東 横 堀 川 (本 町 橋)	—		新規 C	2.6	3.6	2.0	2.3	1.8	1.5	C⇒B	2.0	2.0	1.8	1.6	1.5	1.9	Bイ		

太字 環境基準を達成せず

斜体 上位の環境基準を達成 (例: 現在B類型であるが、A類型の基準を達成している。)

表 7-4 BOD 年平均値の経年変化と類型指定改定状況 (大阪市内河川)

水系	河川水域名(環境基準点)	H11の 類型	H12・15 国見直し	H14・15 府見直し	BOD年平均値(mg/L)							H21 府見直し	BODの年平均値(mg/L)							現在の 類型
					H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22		H23	H24	H25	H26	H27			
大阪 市 内 河 川	大 川 (桜 宮 橋)	Cイ		C⇒B	1.2	2.3	1.4	1.3	1.0	1.0		0.7	0.9	0.9	0.8	0.6	0.7	Bイ		
	堂 島 川 (天 神 橋)	Cイ		C⇒B	1.9	3.2	3.1	2.1	1.7	1.6		1.6	1.5	2.1	1.3	1.2	1.3	Bイ		
	土 佐 堀 川 (天 神 橋)	Cハ			3.5	5.4	4.4	3.2	2.1	1.8		1.7	1.7	2.9	1.6	1.4	1.6	Cイ		
	道 頓 堀 川 (大 黒 橋)	Cイ		C⇒B	1.7	2.3	1.6	2.2	1.6	1.5		1.8	1.5	1.8	1.4	1.1	1.0	Bイ		
	正 蓮 寺 川 (北 港 大 橋 下 流 700 m)	Cイ			2.1	2.6	1.8	3.7	2.7	2.5	C⇒B	1.9	1.6	1.4	3.3	1.7	1.6	Bイ		
	六 軒 家 川 (春 日 出 橋)	Cイ		C⇒B	1.2	1.9	1.5	1.5	1.3	1.5		1.1	1.2	0.9	0.9	0.7	0.9	Bイ		
	安 治 川 (天 保 山 渡)	Cイ		C⇒B	1.2	1.5	1.3	1.3	0.9	1.0		1.0	1.0	0.9	1.0	0.8	0.9	Bイ		
	尻 無 川 (葛 兵 衛 渡)	Cイ			1.7	2.5	1.8	1.4	1.4	1.1	C⇒B	1.1	1.0	1.4	1.1	1.0	1.1	Bイ		
	木 津 川 (千 本 松 渡)	Cイ			2.0	3.0	1.8	1.6	1.4	1.8	C⇒B	1.2	1.3	1.3	1.2	1.4	1.3	Bイ		
	木 津 川 運 河 (船 町 渡)	Cイ			1.9	2.8	1.9	1.4	1.6	1.4	C⇒B	1.3	1.5	1.4	1.3	1.4	1.4	Bイ		
	住 吉 川 (住 之 江 大 橋 下 流 1100 m)	Cハ			2.6	3.9	2.8	2.0	2.4	2.5	C⇒B	2.7	2.8	3.0	2.7	2.2	1.8	Bロ		
	東 横 堀 川 (本 町 橋)	—		新規 C	2.3	3.3	1.9	2.0	1.5	1.4	C⇒B	1.6	1.8	1.7	1.3	1.2	1.8	Bイ		

(大和川水系)

大和川水系は、計 12 水域のうち大和川本川の 2 水域について国が類型指定を行い、10 水域について府が類型指定を行っている。BOD 年平均值は改善傾向にある。

前回の見直しで A 類型に改定した梅川は、環境基準を達成している。千早川、石見川（いずれも A 類型）は環境基準を十分達成しており、とりわけ石見川については上位の AA 類型の基準値以下の年度が多い。

東除川、西除川(2)では近年、BOD 年平均值が大幅に改善している。

その他の水域でも平成 23 年度以降はほとんどの水域で環境基準を達成している。

表 6-5 BOD 75% 値の経年変化と類型指定改定状況（大和川水系）

水系	河川水域名(環境基準点)	H11の 類型	H12・15 国見直し	H14・15 府見直し	BODの75%値(mg/L)						H21 府見直し	BODの75%値(mg/L)						現在の 類型
					H16	H17	H18	H19	H20	H21		H22	H23	H24	H25	H26	H27	
大	石川(高橋) (石川橋)	Bイ			2.3	2.5	2.3	2.0	1.3	1.7		2.1	1.1	1.0	1.6	1.1	1.6	Bイ
					2.1	2.5	1.8	2.1	1.8	1.6	1.3	1.7	1.4	1.2	1.1	1.1		
大	千早川(石川合流直前)	Bイ		B⇒A	1.1	0.9	1.3	1.6	1.2	1.2		0.9	0.8	1.0	1.3	0.6	1.1	Aイ
和	天見川(新喜多橋)	Bイ			3.8	4.5	3.7	3.4	2.4	2.1		1.5	0.8	1.0	1.1	1.0	1.1	Bイ
					0.7	0.8	1.3	0.8	0.6	0.7	0.7	0.5	0.6	0.7	0.7	0.8		
和	石見川(新高野橋)	Aイ			5.1	12	6.3	7.6	5.1	5.7		6.9	3.2	5.5	5.6	11	4.6	Cロ
					1.6	1.7	1.7	1.8	1.1	1.3	1.3	1.1	1.0	1.1	1.1	1.2		
和	飛鳥川(円明橋)	—		新規 C	3.1	3.5	3.8	4.5	3.5	3.1		2.7	2.1	2.5	2.1	1.8	1.9	Cイ
					4.7	5.4	4.5	5.0	2.9	2.6	2.4	2.5	2.5	2.0	1.8	2.0		
川	梅川(石川合流直前)	—		新規 B	4.8	4.5	3.7	4.5	2.8	2.2		2.1	2.0	2.0	1.7	1.6	2.1	Cハ
					3.1	3.5	3.8	4.5	3.5	3.1	2.7	2.1	2.5	2.1	1.8	1.9		
川	佐備川(大伴橋)	—		新規 C	4.7	5.4	4.5	5.0	2.9	2.6		2.4	2.5	2.5	2.0	1.8	2.0	Cハ
					4.8	4.5	3.7	4.5	2.8	2.2	2.1	2.0	2.0	1.7	1.6	2.1		
川	大和川中流(河内橋) (浅香新取水口)	Cハ			4.4	4.9	5.3	4.9	2.7	2.9		2.6	2.4	2.2	2.0	1.7	2.2	Dハ
					4.8	4.5	3.7	4.5	2.8	2.2	2.1	2.0	2.0	1.7	1.6	2.1		
川	大和川下流(遠里小野橋)	Dハ			11	11	10	7.3	6.6	5.1		5.3	4.7	4.1	4.2	3.0	2.9	Cロ
					2.8	3.0	2.4	3.2	2.4	2.9	3.1	2.8	2.0	3.0	3.5	3.6		
川	東除川(明治小橋)	Cロ			11	10	11	11	9.5	12		11	5.2	2.7	1.7	2.2	2.2	Dロ
					2.8	3.0	2.4	3.2	2.4	2.9	3.1	2.8	2.0	3.0	3.5	3.6		
川	西除川(1)(狭山池流出端)	Bロ			11	10	11	11	9.5	12		11	5.2	2.7	1.7	2.2	2.2	Dロ
					2.8	3.0	2.4	3.2	2.4	2.9	3.1	2.8	2.0	3.0	3.5	3.6		
川	西除川(2)(大和川合流直前)	Dロ			11	10	11	11	9.5	12		11	5.2	2.7	1.7	2.2	2.2	Dロ
					2.8	3.0	2.4	3.2	2.4	2.9	3.1	2.8	2.0	3.0	3.5	3.6		

※網掛けは、国が類型を指定する河川水域を示す。

太字 環境基準を達成せず

斜体 上位の環境基準を達成(例:現在B類型であるが、A類型の基準を達成している。)

表 7-5 BOD 年平均值の経年変化と類型指定改定状況（大和川水系）

水系	河川水域名(環境基準点)	H11の 類型	H12・15 国見直し	H14・15 府見直し	BOD年平均值(mg/L)						H21 府見直し	BODの年平均值(mg/L)						現在の 類型
					H16	H17	H18	H19	H20	H21		H22	H23	H24	H25	H26	H27	
大	石川(高橋) (石川橋)	Bイ			1.8	1.8	2.0	1.6	1.3	1.9		1.8	1.0	0.9	1.5	1.1	1.3	Bイ
					1.7	2.2	1.7	1.8	1.6	1.3	1.1	1.7	1.3	1.1	0.9	1.0		
大	千早川(石川合流直前)	Bイ		B⇒A	0.8	0.8	1.2	1.2	1.0	0.9		0.8	0.7	0.8	0.9	0.6	0.9	Aイ
和	天見川(新喜多橋)	Bイ			2.9	3.7	3.0	3.1	2.1	1.7		1.3	0.9	0.9	0.9	0.8	0.9	Bイ
					0.7	0.7	1.2	0.7	0.6	0.7	0.6	0.5	0.6	0.6	0.6	0.7		
和	石見川(新高野橋)	Aイ			4.1	6.8	5.7	5.8	4.2	4.5		5.6	2.9	5.7	1.5	6.8	3.5	Cロ
					1.5	1.4	1.6	1.3	1.0	1.0	1.1	0.9	0.9	1.0	0.9	1.2		
和	飛鳥川(円明橋)	—		新規 C	3.0	3.2	3.0	3.1	3.0	2.5		2.5	1.8	2.0	2.2	1.4	1.9	Cイ
					3.9	4.4	3.4	3.4	2.6	2.2	2.3	2.2	2.1	1.9	1.7	1.8		
川	梅川(石川合流直前)	—		新規 B	4.0	3.9	3.4	3.5	2.5	2.1		1.9	1.7	1.9	1.7	1.5	1.8	Cハ
					4.5	5.3	4.1	4.2	2.5	2.7	2.4	2.1	2.0	1.8	1.6	1.8		
川	佐備川(大伴橋)	Cハ			4.5	3.9	4.1	4.2	2.5	2.7		2.4	2.1	2.0	1.8	1.6	1.8	Dハ
					9.1	9.3	8.4	5.6	5.7	4.2	4.4	4.0	3.8	3.5	2.7	2.8		
川	大和川中流(河内橋) (浅香新取水口)	Cハ			3.0	2.5	2.4	2.9	2.1	2.4		2.6	2.3	1.8	2.5	3.3	3.1	Bロ
					10	9.8	10	8.9	8.4	11	9.5	6.5	2.2	1.7	1.7	2.1		
川	東除川(明治小橋)	Cロ			10	9.8	10	8.9	8.4	11		9.5	6.5	2.2	1.7	1.7	2.1	Dロ
					3.0	2.5	2.4	2.9	2.1	2.4	2.6	2.3	1.8	2.5	3.3	3.1		
川	西除川(1)(狭山池流出端)	Bロ			10	9.8	10	8.9	8.4	11		9.5	6.5	2.2	1.7	1.7	2.1	Dロ
					3.0	2.5	2.4	2.9	2.1	2.4	2.6	2.3	1.8	2.5	3.3	3.1		
川	西除川(2)(大和川合流直前)	Dロ			10	9.8	10	8.9	8.4	11		9.5	6.5	2.2	1.7	1.7	2.1	Dロ
					3.0	2.5	2.4	2.9	2.1	2.4	2.6	2.3	1.8	2.5	3.3	3.1		

※網掛けは、国が類型を指定する河川水域を示す。

(泉州諸河川)

泉州諸河川は、府が全 24 水域の類型指定を行っている。前回の見直し後も毎年 2～7 水域で環境基準を達成していない状況が続いていたが、平成 27 年度はすべての水域で達成している。BOD 年平均値は改善傾向にある。

前回の見直しで D 類型に改定した石津川、春木川、近木川下流は、環境基準を達成している。

表 6-6 BOD 75% 値の経年変化と類型指定改定状況 (泉州諸河川)

水系	河川水域名(環境基準点)	H11の 類型	H12・15 国見直し	H14・15 府見直し	BODの75%値(mg/L)							H21 府見直し	BODの75%値(mg/L)						現在の 類型
					H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22		H23	H24	H25	H26	H27		
泉	石津川(石津川橋)	Eハ			6.5	8.1	7.0	6.1	4.8	5.2	E⇒D	6.7	3.4	4.8	3.3	2.2	2.2	Dイ	
	和田川(小野々井橋)	Cロ			6.7	6.2	5.5	5.2	4.8	4.6		4.7	3.8	3.4	2.8	1.9	2.6	Cロ	
泉	大津川上流(高津取水口)	Bロ			6.8	7.6	4.7	3.9	3.7	3.4		3.3	3.0	3.2	3.9	3.4	2.6	Bロ	
	大津川下流(大津川橋)	Dイ			6.5	7.7	6.7	5.9	5.0	4.4		3.7	4.2	3.9	4.5	3.2	2.6	Dイ	
泉	牛滝川(高橋)	Bロ			3.2	2.8	3.2	2.5	2.4	4.0		2.4	2.2	2.5	2.2	2.5	2.5	Bロ	
	松尾川(新緑田橋)	Bハ			4.3	5.1	3.9	3.7	3.2	3.2		3.1	3.3	2.7	3.2	2.5	2.5	Bハ	
泉	横尾川(繁和橋)	Bイ			4.8	5.5	3.7	4.1	3.2	3.0		2.9	2.8	2.6	3.4	2.2	2.0	Bイ	
	父鬼川(神田橋)	Aイ			1.9	1.6	1.6	2.0	1.8	1.7		1.5	1.7	1.3	1.6	1.5	1.2	Aイ	
泉	春木川(春木橋)	Eハ			7.4	7.0	7.2	5.5	8.7	8.7	E⇒D	5.4	4.1	5.8	4.9	3.9	3.8	Dイ	
	津田川(昭代橋)	Eイ			11	10	9.3	8.9	6.8	7.1		5.0	6.5	4.9	5.6	6.5	5.4	Eイ	
泉	近木川上流(厄除橋)	Bイ			2.3	2.5	2.0	2.6	2.4	1.6		2.2	1.7	1.6	2.8	1.7	1.3	Bイ	
	近木川下流(近木川橋)	Eハ			6.6	9.2	7.7	7.5	6.3	4.4	E⇒D	5.3	4.8	4.3	6.5	4.5	4.3	Dイ	
泉	見出川(見出橋)	Eイ			11	12	13	13	8.7	8.4		9.3	8.0	8.4	12	8.8	7.4	Eイ	
	佐野川(昭平橋)	Eイ			9.2	10	9.6	9.0	7.1	6.4		5.1	5.6	6.2	8.4	6.0	4.6	Eイ	
河	櫻井川上流(兎田橋)	Bイ			5.8	5.4	7.2	9.2	5.9	4.5		3.0	3.6	4.3	5.6	6.0	2.6	Bイ	
	櫻井川下流(櫻井川橋)	Eイ			7.9	7.1	8.0	8.6	7.0	6.1		4.9	5.3	4.3	4.6	4.2	4.3	Eイ	
河	男里川(男里川橋)	Aイ			4.3	3.8	3.4	3.5	2.8	2.1		1.8	2.3	1.8	2.4	2.0	1.6	Aイ	
	金熊寺川(男里橋)	Aイ			3.3	3.0	2.2	2.9	2.6	2.4		2.6	2.7	2.3	2.4	1.8	1.7	Aイ	
川	菟碓川(西打合橋)	Aイ			4.3	3.1	3.4	3.4	3.0	2.6		2.3	2.2	1.8	1.9	1.7	1.9	Aイ	
	山中川(東打合橋)	Aイ			1.8	1.7	1.5	2.0	1.9	1.5		1.5	1.9	1.3	1.7	1.8	1.3	Aイ	
川	番川(田身輪橋)	Aイ			1.2	1.2	0.9	1.2	1.2	1.4		1.2	1.3	1.0	1.2	1.2	0.8	Aイ	
	大川(昭南橋)	Aイ			1.5	1.7	1.1	1.7	1.9	1.6		1.6	1.4	1.3	1.6	1.4	1.2	Aイ	
川	東川(一軒屋橋)	Aイ			1.6	1.9	1.4	2.0	1.6	1.5		1.5	1.7	1.2	1.4	1.4	1.1	Aイ	
	西川(こうや橋)	Aイ			1.3	1.5	1.0	1.5	1.4	1.6		1.6	1.1	1.0	1.1	1.1	0.9	Aイ	

太字 環境基準を達成せず

斜体 上位の環境基準を達成(例:現在B類型であるが、A類型の基準を達成している。)

表 7-6 BOD 年平均値の経年変化と類型指定改定状況 (泉州諸河川)

水系	河川水域名(環境基準点)	H11の 類型	H12・15 国見直し	H14・15 府見直し	BOD年平均値(mg/L)							H21 府見直し	BODの年平均値(mg/L)						現在の 類型
					H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22		H23	H24	H25	H26	H27		
泉	石津川(石津川橋)	Eハ			5.5	5.9	6.8	5.6	4.5	4.8	E⇒D	6.2	3.3	3.4	2.9	2.2	1.9	Dイ	
	和田川(小野々井橋)	Cロ			7.1	5.5	5.6	4.6	4.2	4.0		4.4	3.4	2.7	2.8	1.9	2.4	Cロ	
泉	大津川上流(高津取水口)	Bロ			5.3	5.6	3.9	3.5	3.3	2.9		2.9	2.8	2.9	3.3	3.1	2.3	Bロ	
	大津川下流(大津川橋)	Dイ			6.0	6.6	5.0	5.0	4.1	4.1		3.6	3.6	3.2	3.7	2.7	2.4	Dイ	
泉	牛滝川(高橋)	Bロ			3.1	2.6	3.6	2.0	2.1	3.1		2.4	2.0	2.1	1.8	2.1	2.1	Bロ	
	松尾川(新緑田橋)	Bハ			3.8	4.2	3.3	3.6	3.1	2.8		3.0	3.1	2.4	2.8	2.4	2.2	Bハ	
泉	横尾川(繁和橋)	Bイ			4.2	4.3	3.6	4.9	3.0	2.9		2.6	2.7	2.1	2.9	2.0	1.9	Bイ	
	父鬼川(神田橋)	Aイ			1.7	1.4	1.4	1.7	1.8	1.3		1.3	1.5	1.2	1.3	1.5	1.1	Aイ	
泉	春木川(春木橋)	Eハ			7.1	6.2	6.5	5.1	6.9	7.9	E⇒D	5.3	4.2	4.8	4.2	3.7	3.6	Dイ	
	津田川(昭代橋)	Eイ			8.4	9.3	7.5	6.9	6.0	6.8		5.2	5.8	3.9	5.5	5.0	5.1	Eイ	
泉	近木川上流(厄除橋)	Bイ			2.0	2.1	2.4	2.5	2.2	1.6		1.6	1.6	1.5	2.2	1.5	1.2	Bイ	
	近木川下流(近木川橋)	Eハ			7.8	7.2	6.3	6.7	5.5	3.9	E⇒D	4.5	4.1	3.6	5.6	4.1	3.3	Dイ	
泉	見出川(見出橋)	Eイ			9.9	12	12	12	8.7	7.2		8.5	7.8	7.4	10	7.9	6.5	Eイ	
	佐野川(昭平橋)	Eイ			7.7	9.0	8.4	7.6	6.5	5.6		5.0	5.2	5.1	7.1	5.2	4.2	Eイ	
河	櫻井川上流(兎田橋)	Bイ			4.5	4.8	6.0	6.8	4.5	3.6		2.9	3.0	3.1	4.4	4.5	2.4	Bイ	
	櫻井川下流(櫻井川橋)	Eイ			6.7	6.1	7.2	7.1	6.0	4.7		5.1	4.3	3.7	4.2	3.8	3.4	Eイ	
河	男里川(男里川橋)	Aイ			3.2	3.5	2.8	2.9	2.8	1.8		1.5	2.1	1.6	1.9	1.6	1.4	Aイ	
	金熊寺川(男里橋)	Aイ			2.6	2.5	2.2	2.5	2.4	2.0		2.5	2.3	2.0	2.1	1.8	1.5	Aイ	
川	菟碓川(西打合橋)	Aイ			2.8	2.6	2.8	3.2	2.8	2.7		2.1	2.0	1.7	1.7	1.6	1.5	Aイ	
	山中川(東打合橋)	Aイ			1.7	1.6	1.4	1.7	1.7	1.3		1.5	1.7	1.2	1.4	1.4	1.2	Aイ	
川	番川(田身輪橋)	Aイ			1.3	1.0	0.8	1.0	1.3	1.0		1.0	1.1	0.9	1.0	1.1	0.7	Aイ	
	大川(昭南橋)	Aイ			1.5	1.4	0.9	1.5	1.7	1.3		1.4	1.3	1.2	1.4	1.3	1.1	Aイ	
川	東川(一軒屋橋)	Aイ			1.7	1.5	1.2	1.7	1.5	1.3		1.5	1.6	1.1	1.3	1.2	1.0	Aイ	
	西川(こうや橋)	Aイ			1.3	1.3	0.9	1.4	1.3	1.3		1.2	1.1	0.8	1.0	1.0	0.8	Aイ	

② pH

pHの環境基準値はA A～C類型が6.5以上8.5以下、D、E類型が6.0以上8.5以下と定められている。

大阪府の公共用水域水質調査では、原則として6時間間隔で4回採取し、個々の試料についてpHの測定を行っている。

平成26年度は表8に示すとおり、調査を行った3,642検体のうち、9%にあたる332検体がpHの環境基準値に適合していない。環境基準点94地点中、1回以上環境基準値に適合しない測定結果が見られたのは、43地点である。

環境基準値に適合していない検体及び地点の割合を類型別に見ると、A類型及びB類型の水域が大半を占める。

上記の割合を水系別に見ると、淀川水系、神崎川水系、大和川水系、泉州諸河川で基準値に適合していない検体及び地点が多く見られる一方で、寝屋川水系及び大阪市内河川においてはほとんど見られない。

環境基準値に適合しない測定結果はいずれもpHが8.5を超えたことによるものであること、適合しない地点は水質の良好なA、B類型が大半であるとともに、図2に示すとおり神崎川水系、大和川水系、泉州諸河川においては、pHが高くなるほどDOの値が高くなる傾向が見られることから、pHが環境基準値に適合しない要因は光合成による影響が大きいものと考えられる。

寝屋川水系及び大阪市内河川については、コンクリートで囲まれており他の水系に比べて水深が深く藻類等に日光が届きにくいいため、光合成が活発には起こりにくくpHが高い値になりにくいと考えられる。

表8 pHの環境基準値に適合していない検体及び地点の割合(平成26年度)
【類型別】

類型	適合していない検体数/調査検体数 (%)	適合していない地点数/環境基準点数 (%)
A	139/1090 (13%)	21/30 (70%)
B	155/1388 (11%)	14/36 (39%)
C	22/372 (6%)	4/10 (40%)
D	8/600 (1%)	2/14 (14%)
E	8/192 (4%)	2/4 (50%)
計	332/3642 (9%)	43/94 (46%)

【水系別】

水系	適合していない検体数/調査検体数 (%)	適合していない地点数/環境基準点数 (%)
淀川水系	78/380 (21%)	6/15 (40%)
神崎川水系	99/642 (15%)	14/20 (70%)
寝屋川水系	1/432 (0.2%)	0/9 (0%)
大阪市内河川	3/540 (1%)	1/12 (8%)
大和川水系	51/496 (10%)	5/14 (36%)
泉州諸河川	100/1152 (9%)	16/24 (67%)
計	332/3642 (9%)	43/94 (46%)

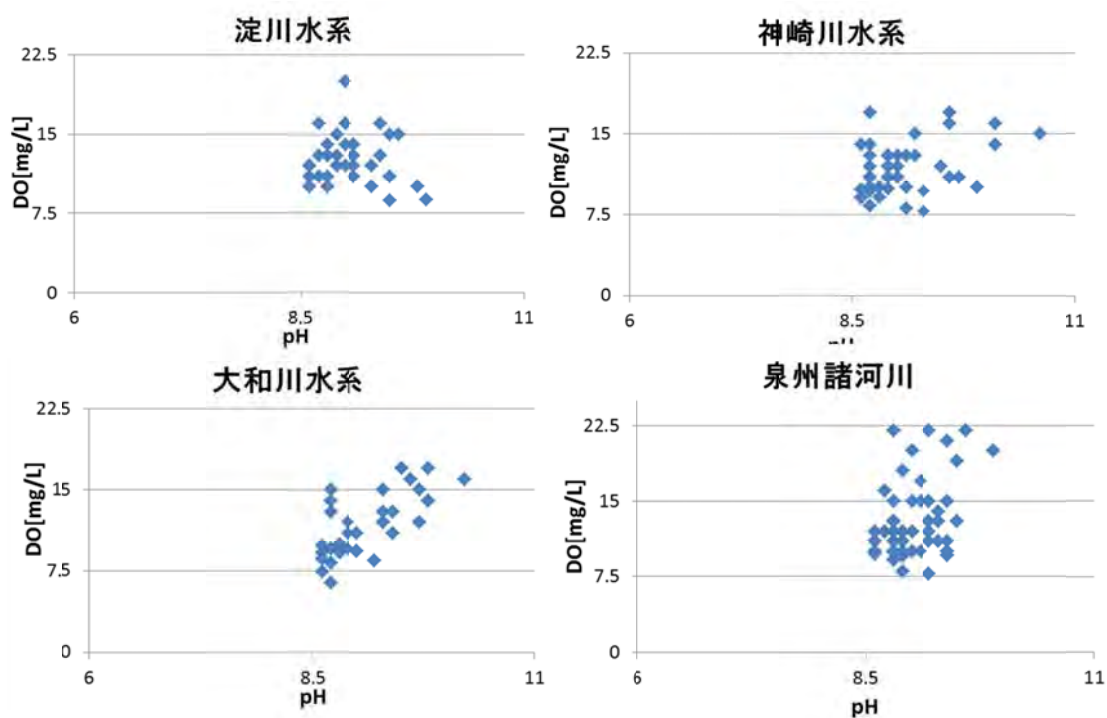


図2 水系別 pH（環境基準値に適合していない検体）と DO の散布図（平成 26 年度）

③D O

D Oの環境基準値はA A、A類型が 7.5mg/L 以上、B、C類型が 5 mg/L 以上、D、E類型が 2 mg/L 以上と定められている。

大阪府の公共用水域水質調査では、午後 3 時に最も近い採水時の試料について、D Oの測定を行っている。

平成 26 年度においてD Oの環境基準値に適合していない検体数は、表 9 に示すとおり、調査を行った 1,056 検体のうち 3 %にあたる 33 検体であり、概ねD Oの環境基準値に適合していると言える。

環境基準値に適合していない検体及び地点の割合を類型別に見ると、B 類型の水域が大半を占めており、E 類型では環境基準値に適合しない水域は見られない。

上記の割合を水系別に見ると、大阪市内河川の水域が大半を占めており、淀川水系、神崎川水系では環境基準値に適合しない水域は見られない。

大阪市内河川の道頓堀川及び住吉川（いずれも B 類型）では環境基準値に適合しない検体が多く見られるが、B O Dは過去 5 年間上位の A 類型の環境基準を達成しており、p Hも環境基準値に適合しない検体は見られない。これらの水域は感潮域にあり、流速が小さく、また、水深が深いことから、河川水の混合が起こりにくいために低酸素の状態になりやすいと考えられる。

表 9 D Oの環境基準値に適合していない検体及び地点の割合(平成 26 年度)
【類型別】

類型	適合していない検体数/調査検体数 (%)	適合していない地点数/環境基準点数 (%)
A	3/304 (1 %)	2/30 (7 %)
B	22/416 (5 %)	7/36 (19%)
C	3/120 (3 %)	3/10 (30%)
D	5/168 (3 %)	5/14 (36%)
E	0/48 (0 %)	0/4 (0 %)
計	33/1056 (3 %)	17/94 (18%)

【水系別】

水系	適合していない検体数/調査検体数 (%)	適合していない地点数/環境基準点数 (%)
淀川水系	0/164 (0 %)	0/15 (0 %)
神崎川水系	0/192 (0 %)	0/20 (0 %)
寝屋川水系	6/108 (6 %)	6/9 (67%)
大阪市内河川	23/144 (16%)	8/12 (67%)
大和川水系	2/160 (1 %)	2/14 (14%)
泉州諸河川	2/288 (1 %)	1/24 (4 %)
計	33/1056 (3 %)	17/94 (18%)

表 10 河川水質 (pH、DO) 調査結果 (平成 26 年度) (1)

水系	河川水域名	測定地点 (環境基準点)	類型	pH			DO			
				最小値	最大値	m/n	最小値	最大値	平均値	m/n
淀川	淀川下流(1)	枚方大橋流心	B	7.5	7.9	0/12	7.7	13	9.7	0/12
		枚方大橋左岸	B	7.5	7.9	0/12	7.7	13	9.7	0/12
		枚方大橋右岸	B	7.6	7.9	0/12	7.7	13	9.8	0/12
		鳥飼大橋流心	B	7.6	7.9	0/12	7.4	12	9.4	0/12
		鳥飼大橋左岸	B	7.5	7.9	0/4	7.5	13	9.7	0/4
		鳥飼大橋右岸	B	7.6	7.9	0/4	8	12	9.6	0/4
	菅原城北大橋	B	7.6	7.9	0/12	7.6	12	9.4	0/12	
	淀川下流(2)	伝法大橋	C	7.5	8.4	0/12	6.5	17	10.6	0/12
	船橋川	新登橋上流	B	7.5	9.6	21/48	8.7	15	12.5	0/12
	穂谷川	淀川合流直前	B	7.7	9.9	13/48	8.8	20	12.4	0/12
	檜尾川	磐手神社前	B	7.4	9	8/48	8.6	14	10.9	0/12
	天野川	淀川合流直前	B	7.3	9.4	10/48	9.1	16	12.9	0/12
	芥川(1)	塚脇橋	A	7.8	9.4	22/48	10	16	11.8	0/12
芥川(2)	鷺打橋	A	7.9	8.4	0/12	9	13	10.8	0/12	
水無瀬川	名神高速道路高架橋下	A	7.5	8.9	4/48	8.5	13	11.0	0/12	
神崎川	神崎川	新三国橋	B	6.7	8.1	0/48	5.2	10	7.6	0/12
		千船橋	B	7.3	8.1	0/48	5.2	11	7.6	0/12
		辰巳橋	B	6.6	8.7	1/48	5.4	10	7.9	0/12
	安威川上流	桑ノ原橋	A	7.8	9	1/16	8.2	12	9.9	0/4
	安威川下流(1)	千歳橋	A	7.9	9	3/16	8.5	12	10.6	0/4
	安威川下流(2)	宮鳥橋	A	7.3	8.7	11/48	9.3	17	12.0	0/12
	安威川下流(3)	新京阪橋	B	7	8.1	0/48	6.3	11	8.2	0/12
	佐保川及び茨木川	安威川合流直前	A	7.9	9.1	8/48	9.8	14	11.5	0/12
	大正川	安威川合流直前	A	7.2	9	7/48	8	14	10.7	0/12
	勝尾寺川	中河原橋	A	7.6	9.2	6/48	8.4	15	11.7	0/12
	猪名川上流	銀橋	A	7.6	8	0/12	8.4	14	10.7	0/12
		軍行橋	A	7.7	8	0/12	8.7	12	10.3	0/12
	猪名川下流(2)	利倉橋	D	7.3	7.7	0/12	6	10	7.7	0/12
	箕面川(1)	箕面市取水口	A	6.7	9	9/48	8.7	13	10.3	0/12
	箕面川(2)	府県境	A	7.4	10.6	31/48	8.1	17	13.3	0/12
	余野川	猪名川合流直前	A	7.4	8.8	1/16	8	12	9.9	0/4
	千里川	猪名川合流直前	A	7.6	9.6	17/30	7.8	14	10.9	0/12
	田尻川	兵庫県界	A	7.2	8.8	1/16	8.3	12	9.9	0/4
	一庫・大路次川	兵庫県界	A	7.5	8.8	2/16	8.3	13	10.1	0/4
山辺川	一庫・大路川合流直前	A	7.2	8.6	1/16	8.1	12	9.9	0/4	
寝屋川	寝屋川(1)	萱島橋	C	6.9	8.6	1/48	8.8	12	10.5	0/12
		住道大橋	C	7	8.3	0/48	4.9	11	8.6	1/12
	寝屋川(2)	今津橋	D	7	7.3	0/48	2.7	8.3	5.7	0/12
		京橋	D	6.8	7.7	0/48	1.2	12	7.0	1/12
	恩智川	住道新橋	D	6.9	8.2	0/48	1.9	9.9	7.1	1/12
	古川	徳栄橋	D	6.9	7.3	0/48	1.9	8.4	5.2	1/12
	第二寝屋川	新金吾郎橋	D	6.7	8.1	0/48	5.6	11	7.8	0/12
平野川分水路	天王田大橋	D	6.7	7.1	0/48	1.6	6.1	4.3	1/12	
平野川	城見橋	D	6.8	7.4	0/48	1.2	6.7	4.5	1/12	

環境基準	
pH	
AA~C類型	6.5以上8.5以下
D、E類型	6.0以上8.5以下
DO	
AA、A類型	7.5mg/L以上
B、C類型	5mg/L以上
D、E類型	2mg/L以上

(注)m/nのnは調査対象検体数、mは環境基準値に適合していない検体数

表 10 河川水質（pH、DO）調査結果（平成 26 年度）（2）

水系	河川水域名	測定地点 (環境基準点)	類型	pH			DO			
				最小値	最大値	m/n	最小値	最大値	平均値	m/n
大阪市内河川	大川	桜宮橋	B	7.2	7.7	0/48	7.3	12	9.2	0/12
	堂島川	天神橋	B	7	7.6	0/48	5.7	12	8.1	0/12
	土佐堀川	天神橋	C	7	7.6	0/48	4.4	10	7.6	1/12
	道頓堀川	大黒橋	B	7	7.5	0/48	1.6	9.4	5.3	5/12
	正蓮寺川	北港大橋下流700m	B	7	8.2	0/12	2.5	9.1	5.9	5/12
	六軒家川	春日出橋	B	7.4	7.9	0/48	5.1	10	7.4	0/12
	安治川	天保山渡	B	7.5	8	0/48	5.3	10	7.1	0/12
	尻無川	甚兵衛渡	B	7.1	8	0/48	4.9	9.2	6.5	1/12
	木津川	千本松渡	B	7.1	8	0/48	4.7	8.7	6.3	1/12
	木津川運河	船町渡	B	7.3	8.9	3/48	4.9	17	9.3	1/12
住吉川	住之江大橋下流1100m	B	6.9	7.4	0/48	4.4	8.8	5.8	6/12	
東横堀川	本町橋	B	7	7.4	0/48	2	9.2	5.6	3/12	
大和川	石川	高橋	B	7.5	9.1	6/48	6.5	13	10.2	0/12
	石川	石川橋	B	7.9	8.2	0/12	8	12	10.1	0/12
	千早川	石川合流直前	A	7.6	8.6	1/16	7.4	12	9.5	1/4
	天見川	新喜多橋	B	7.6	8.4	0/48	7.3	12	9.8	0/12
	石見川	新高野橋	A	7.4	8.4	0/48	8.3	13	10.1	0/12
	飛鳥川	円明橋	C	7.1	8.4	0/48	4.9	12	8.7	1/12
	梅川	石川合流直前	A	7.2	8.1	0/48	8	11	9.5	0/12
	佐備川	大伴橋	C	7.4	8.9	2/48	7.8	13	10.1	0/12
	大和川中流	河内橋	C	7.9	8.1	0/12	7.8	11	9.4	0/12
	大和川下流	浅香新取水口	C	7.9	8.2	0/12	7.6	12	9.7	0/12
	大和川下流	遠里小野橋	D	7.8	8.1	0/12	7.7	11	9.6	0/12
	東除川	明治小橋	C	7.1	9.2	6/48	6.4	10	9.2	0/12
	西除川(1)	狭山池流出端	B	7.4	10.3	36/48	7.8	17	14.0	0/12
西除川(2)	大和川合流直前	D	7	8.4	0/48	7.7	15	9.6	0/12	
泉州諸河川	石津川	石津川橋	D	7	8.3	0/48	6.6	10	8.1	0/12
	和田川	小野々井橋	C	7.2	9.5	13/48	9.5	13	11.1	0/12
	大津川上流	高津取水口	B	7	9.3	7/48	9	13	11.2	0/12
	大津川下流	大津川橋	D	6.4	8.9	7/48	8.4	13	10.5	0/12
	牛滝川	高橋	B	7.1	9.4	8/48	7.5	12	9.9	0/12
	松尾川	新緑田橋	B	7.2	9.3	9/48	11	17	13.3	0/12
	槇尾川	繁和橋	B	6.7	9.2	10/48	10	15	12.3	0/12
	父鬼川	神田橋	A	6.5	9.4	3/48	8.1	14	10.6	0/12
	津木川	春木橋	D	6.9	7.7	0/48	7	12	9.4	0/12
	津田川	昭代橋	E	6.5	9.2	2/48	8.8	13	11.7	0/12
	近木川上流	厄除橋	B	6.6	8.6	1/48	8.3	13	10.7	0/12
	近木川下流	近木川橋	D	6.6	8.8	1/48	6.5	12	10.0	0/12
	見出川	見出橋	E	6.9	8	0/48	6.1	11	8.6	0/12
	佐野川	昭平橋	E	6.6	8.4	0/48	6.2	12	9.7	0/12
	櫻井川上流	兔田橋	B	7.1	9.9	22/48	11	22	16.1	0/12
	櫻井川下流	櫻井川橋	E	6.8	9.6	6/48	10	22	12.8	0/12
	男里川	男里川橋	A	6.7	8.3	0/48	8	13	10.4	0/12
金熊寺川	男里橋	A	6.7	8.9	2/48	8.4	16	12.1	0/12	
菟砥川	西打合橋	A	6.5	9.2	2/48	9	15	12.2	0/12	
山中川	東打合橋	A	6.5	9.3	4/48	8.9	20	12.5	0/12	
番川	田身輪橋	A	6.6	8.4	0/48	8.1	13	10.6	0/12	
大川	昭南橋	A	6.6	8.2	0/48	8.1	14	10.5	0/12	
東川	一軒家橋	A	6.5	9.1	3/48	7.6	15	11.4	0/12	
西川	こうや橋	A	6.5	8.5	0/48	7	13	9.6	2/12	

(注) m/n の n は調査対象検体数、m は環境基準値に適合していない検体数

④ S S

S S の環境基準値は A A ～ B 類型で 25mg/L 以下、C 類型で 50mg/L 以下、D 類型で 100mg/L 以下、E 類型では「ごみ等の浮遊が認められないこと」と定められている。

大阪府の公共用水域水質調査では、原則として 6 時間間隔で 4 回採水し、混合試料について S S の測定を行っている。

平成 26 年度は、調査を行った 1,132 検体のうち、1 % にあたる 12 検体が S S の環境基準値に適合していない。その地点は表 11 に示すとおり、A 類型及び B 類型の 8 地点であり、主な原因は、周辺工事による土砂の巻き上げ等によるものである。

また、寝屋川水系、大阪市内河川では環境基準値に適合しない地点は見られない。

表 11 S S の環境基準値に適合していない地点一覧（平成 26 年度）

水系	河川 水域名	測定 地点 (環境 基準点)	測定日	SS (mg/L)	BOD (mg/L)	pH	DO (mg/L)	大腸菌 群数 (MPN/ 100mL)	備考
淀川水系	檜尾川 【B 類型】	磐手杜 神社	H26/ 4/9	33	2.5	8.5	9.9	33000	・河川調査時、 上流で道路工 事（新名神高 速）が行われ ていた。
			H27/ 3/10	41	1	8.3	11	700	
神崎川水系	安威川下流 (1) 【A 類型】	千歳橋	H26/ 5/8	31	1.7	8.7	10	130000	・河川調査時、 上流で浚渫等 の作業が実施 されていた。
			H27/ 2/3	50	1.2	8	12	2800	
	安威川下流 (2) 【A 類型】	宮島橋	H27/ 2/3	47	1.4	7.9	13	490	
			H27/ 3/10	46	0.7	7.8	12	23000	・河川調査時、 上流で浚渫等 の作業が実施 されていた。
	勝尾寺川 【A 類型】	中河原 橋	H27/ 2/3	74	1.1	8.2	12	2300	・河川調査時、 上流で浚渫等 の作業が実施 されていた。
猪名川上流 【A 類型】	軍行橋	H27/ 1/13	39	0.3	7.9	12	170		
大和川水系	西除川(1) 【B 類型】	狭山池 流出端	H26/ 7/1	38	9.2	10. 2	16	6.8	・下流の測定 地点（狭山池 流出端）にて アオコが発生
			H26/ 10/1	36	3.5	9.7	15	1300	・下流の測定 地点（狭山池 流出端）にて アオコが発生
泉州諸 河川	檜尾川 【B 類型】	繁和橋	H26/ 12/9	39	3.1	8.4	14	2400	
	榎井川上流 【B 類型】	兎田橋	H26/ 5/8	33	12	9.9	20	22	・河川調査時、 流れがなく、 測定地点手前 で止水されて いたため、た まり水を採用 し測定。

⑤大腸菌群数

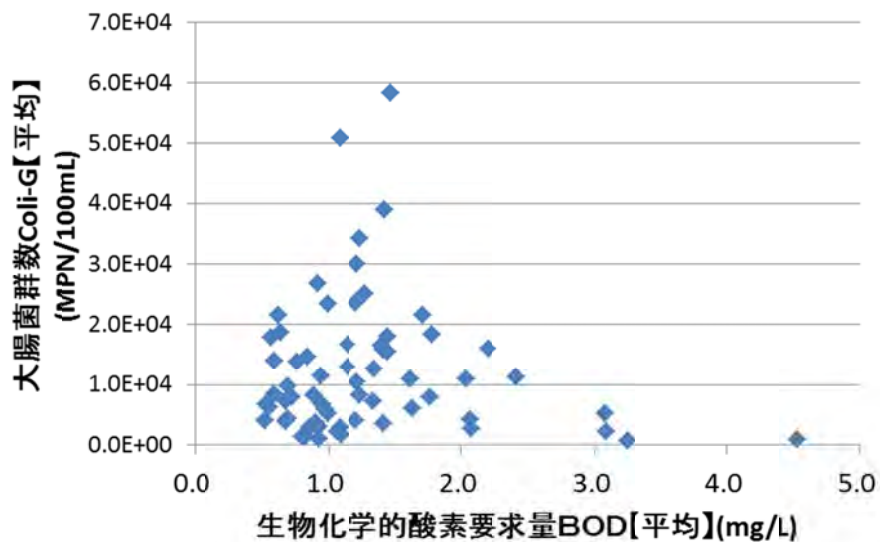
大腸菌群数の環境基準値はA A類型が 50MPN/100mL 以下、A 類型が 1,000MPN/100mL 以下、B 類型が 5,000MPN/100mL 以下と定められており、C～E 類型では設定されていない。

大阪府の公共用水域水質調査では、午後3時に最も近い採水時の試料について、大腸菌群数の測定を行っている。

平成26年度は、大腸菌群数の測定を行っているA、B類型のほとんどの地点で環境基準値を超過する値が見られた。

図3に示すとおり、大腸菌群数とBODの間には明らかな関係性は見られなかった。

大腸菌群数について、国の検討会（今後の水環境保全に関する検討会「今後の水環境保全の在り方について（取りまとめ）」：平成23年3月）においては、『ふん便汚染が想定されない山間部の河川等においても基準値を大きく上回る大腸菌群数が測定されるなど指標性に乏しい』との指摘があることから、大腸菌群数に代わる指標として大腸菌等に関する基準を検討すべき』とされている。



※大腸菌群数の環境基準が適用されるA 類型、B 類型の環境基準点における測定データを示す。

図3 大腸菌群数とBODの散布図（年平均）（平成26年度）

表 12 河川水質（BOD、大腸菌群数）調査結果（平成 26 年度）（1）

水系	河川水域名	測定地点 (環境基準点)	類型	生物化学的酸素要求量 BOD(mg/L)				大腸菌群数 Coli-G(MPN/100mL)			
				最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n
				淀川	淀川下流(1)	枚方大橋流心	B	0.6	1.3	0.9	0/12
		枚方大橋左岸	B	0.5	1.2	0.9	0/12	3.3E+02	7.9E+03	2.9E+03	2/12
		枚方大橋右岸	B	0.5	1.2	0.9	0/12	2.4E+02	1.3E+04	3.6E+03	2/12
		鳥飼大橋流心	B	0.6	1.5	0.9	0/12	2.2E+02	7.9E+03	2.9E+03	1/12
		鳥飼大橋左岸	B	0.6	1.0	0.8	0/4	1.7E+02	2.4E+03	1.3E+03	0/4
		鳥飼大橋右岸	B	0.6	1.0	0.8	0/4	2.4E+02	3.3E+03	1.4E+03	0/4
		菅原城北大橋	B	0.6	1.6	1.0	0/12	3.3E+02	2.2E+04	5.2E+03	3/12
川	船橋川	新登橋上流	B	1.7	6.9	3.1	4/12	7.0E+01	1.7E+04	2.1E+03	1/12
	穂谷川	淀川合流直前	B	0.8	3.8	2.1	1/12	3.3E+01	7.0E+03	2.7E+03	1/12
	檜尾川	磐手神社前	B	0.6	2.5	1.5	0/12	7.0E+02	4.9E+05	5.8E+04	9/12
	天野川	淀川合流直前	B	1.1	3.4	2.2	2/12	1.7E+03	7.9E+04	1.6E+04	7/12
	芥川(1)	塚脇橋	A	<0.5	1.1	0.7	0/12	7.0E+01	4.9E+04	7.3E+03	6/12
	芥川(2)	鷺打橋	A	0.4	1.7	0.9	0/12	1.3E+02	3.3E+04	8.2E+03	9/12
	水無瀬川	名神高速道路高架橋下	A	<0.5	0.7	0.5	0/12	1.1E+02	3.5E+04	6.8E+03	7/12
神	神崎川	新三国橋	B	0.6	5.8	1.4	1/12	9.4E+02	7.9E+04	1.6E+04	7/12
		千船橋	B	<0.5	2.7	1.2	0/12	3.3E+02	1.7E+05	2.4E+04	5/12
		辰巳橋	B	0.7	4.8	1.8	2/12	1.7E+03	1.3E+05	1.8E+04	5/12
	安威川上流	桑ノ原橋	A	0.7	1.3	0.9	0/4	1.4E+02	1.7E+05	9.6E+02	2/4
	安威川下流(1)	千歳橋	A	1.0	1.7	1.3	0/4	1.7E+03	1.3E+05	3.4E+04	4/4
	安威川下流(2)	宮島橋	A	0.7	2.1	1.3	1/12	4.9E+01	4.9E+04	8.2E+03	5/12
	安威川下流(3)	新京阪橋	B	0.8	3.2	1.4	1/12	1.3E+03	3.5E+04	1.3E+04	10/12
崎	佐保川及び茨木川	安威川合流直前	A	0.5	1.7	1.1	0/12	1.1E+02	1.1E+04	1.6E+03	4/12
	大正川	安威川合流直前	A	1.0	2.1	1.4	1/12	1.7E+03	7.9E+04	1.7E+04	12/12
	勝尾寺川	中河原橋	A	0.7	1.5	1.2	0/12	3.3E+02	1.1E+05	1.3E+04	9/12
	猪名川上流	銀橋	A	0.3	1.0	0.7	0/12	1.7E+02	3.3E+04	4.3E+03	7/12
		軍行橋	A	0.3	1.1	0.7	0/12	1.7E+02	2.4E+04	3.8E+03	6/12
川	箕面川(1)	箕面市取水口	A	<0.5	0.7	0.6	0/12	7.9E+01	3.5E+04	6.2E+03	7/12
	箕面川(2)	府県境	A	0.6	2.7	1.2	1/12	3.3E+00	3.5E+04	4.1E+03	3/12
	余野川	猪名川合流直前	A	<0.5	0.6	0.5	0/4	2.3E+02	1.3E+04	4.0E+03	2/4
	千里川	猪名川合流直前	A	0.6	1.8	1.0	0/12	2.3E+02	1.7E+04	5.9E+03	7/12
	田尻川	兵庫県界	A	<0.5	0.9	0.7	0/4	3.3E+02	3.3E+04	9.8E+03	2/4
	一庫・大路次川	兵庫県界	A	0.5	0.8	0.6	0/4	4.9E+02	7.9E+04	2.2E+04	3/4
	山辺川	一庫・大路川合流直前	A	<0.5	0.7	0.6	0/4	1.7E+03	4.9E+04	1.8E+04	4/4

(注1) 大腸菌群数の環境基準が適用される A 類型、B 類型の環境基準点について記載

(注2) m/n の n は調査対象検体数、m は環境基準値に適合していない検体数

表 12 河川水質（BOD、大腸菌群数）調査結果（平成 26 年度）（2）

水系	河川水域名	測定地点 (環境基準点)	類型	生物化学的酸素要求量 BOD(mg/L)				大腸菌群数 Coli-G(MPN/100mL)			
				最小	最大	平均	m/n	最小	最大	平均	m/n
				大阪市内河川	大川	桜宮橋	B	<0.5	0.9	0.6	0/12
	堂島川	天神橋	B	0.5	3.2	1.2	1/12	2.4E+02	7.9E+04	1.7E+04	5/12
	道頓堀川	大黒橋	B	<0.5	1.9	1.1	0/12	1.1E+03	4.9E+03	2.8E+03	0/12
	正蓮寺川	北港大橋下流700m	B	0.9	2.9	1.7	0/12	7.9E+02	1.7E+05	2.2E+04	4/12
	六軒家川	春日出橋	B	<0.5	0.9	0.7	0/12	4.9E+02	3.3E+04	8.0E+03	5/12
	安治川	天保山渡	B	<0.5	1.1	0.8	0/12	3.3E+02	1.3E+05	1.4E+04	3/12
	尻無川	基兵衛渡	B	0.5	1.5	1.0	0/12	7.9E+02	1.3E+05	2.3E+04	6/12
	木津川	千本松渡	B	0.7	4.7	1.4	1/12	1.7E+02	2.4E+05	3.9E+04	6/12
	木津川運河	船町渡	B	0.7	2.6	1.4	0/12	7.9E+01	4.9E+04	7.3E+03	3/12
	住吉川	住之江大橋下流1100m	B	0.9	7.6	2.2	1/12	4.6E+02	3.5E+06	3.2E+05	6/12
	東横堀川	本町橋	B	0.5	3.8	1.2	1/12	1.3E+02	4.9E+04	1.1E+04	5/12
大和川	石川	高橋	B	<0.5	2.4	1.1	0/12	4.9E+02	2.4E+05	5.1E+04	6/12
	石川	川橋	B	0.7	1.5	0.9	0/12	1.7E+03	3.3E+04	1.1E+04	5/12
	千早川	石川合流直前	A	<0.5	0.7	0.6	0/4	4.9E+02	2.4E+04	8.4E+03	3/4
	天見川	新喜多橋	B	<0.5	1.3	0.8	0/12	1.3E+03	5.4E+04	1.5E+04	5/12
	石見川	新高野橋	A	<0.5	0.9	0.6	0/12	2.3E+02	7.9E+04	1.4E+04	10/12
	梅川	石川合流直前	A	<0.5	1.6	0.9	0/12	7.9E+02	1.3E+05	2.7E+04	11/12
	西除川(1)	狭山池流出端	B	1.4	9.2	3.3	6/12	4.5E+00	2.4E+03	7.2E+02	0/12
泉州諸河川	大津川上流	高津取水口	B	2.0	5.9	3.1	6/12	2.3E+02	2.4E+04	5.2E+03	4/12
	牛滝川	高橋	B	<0.5	4.7	2.1	1/12	2.3E+02	2.3E+04	4.2E+03	2/12
	松尾川	新緑田橋	B	1.5	4.6	2.4	1/12	7.9E+02	5.4E+04	1.1E+04	5/12
	槇尾川	繁和橋	B	1.4	3.1	2.0	1/12	7.9E+02	3.5E+04	1.1E+04	5/12
	父鬼川	神田橋	A	0.8	2.9	1.5	1/12	4.9E+02	9.2E+04	1.5E+04	11/12
	近木川上流	厄除橋	B	0.8	2.2	1.5	0/12	1.3E+03	5.4E+04	1.8E+04	8/12
	樫井川上流	兎田橋	B	1.5	12.0	4.5	6/12	2.2E+01	3.5E+03	8.6E+02	0/12
	男里川	男里川橋	A	0.8	2.5	1.6	3/12	4.9E+02	3.5E+04	6.1E+03	11/12
	金熊寺川	男里橋	A	0.8	2.9	1.8	2/12	3.3E+02	3.5E+04	7.8E+03	10/12
	菟砥川	西打合橋	A	0.9	3.4	1.6	2/12	7.9E+02	5.4E+04	1.1E+04	11/12
	山中川	東打合橋	A	0.7	2.0	1.4	0/12	2.0E+01	1.6E+04	3.5E+03	8/12
	番川	田身輪橋	A	<0.5	2.6	1.1	1/12	2.4E+02	5.4E+03	2.1E+03	8/12
	大川	昭南橋	A	0.8	2.0	1.3	0/12	1.3E+03	9.2E+04	2.5E+04	12/12
	東川	一軒家橋	A	0.5	1.7	1.2	0/12	7.0E+01	2.4E+05	3.0E+04	9/12
	西川	こうや橋	A	<0.5	1.5	1.0	0/12	2.3E+02	3.5E+04	6.8E+03	8/12

(注1)大腸菌群数の環境基準が適用されるA類型、B類型の環境基準点について記載

(注2)m/nのnは調査対象検体数、mは環境基準値に適合していない検体数

(2) 水生生物の保全に関する項目

①全亜鉛

全亜鉛は平成15年11月に水生生物に係る環境基準項目として設定され、環境基準値は全類型一律に0.03mg/L以下と定められている。

平成27年度は、水生生物の保全に係る類型が指定されている63水域のうち59水域で全亜鉛に係る環境基準を達成し、達成率は93.7%である。達成率は図4に示すとおり、平成22年度以降、毎年90%以上で推移している。

平成26年度において、全亜鉛の環境基準を達成していない水域の割合を類型別に見ると、表13に示すとおりであり、環境基準を達成していない水域はすべて生物B類型である。

上記の割合を水系別に見ると、平成26年度は淀川水系、大阪市内河川及び大和川水系で環境基準を達成していない水域が見られ、これらの水域の年平均値は0.034~0.043mg/Lの範囲にある。

亜鉛の魚類等に及ぼす影響は、急性毒性として、呼吸障害による窒息死、慢性毒性として、腎臓や肝臓等に蓄積され、成長や繁殖への影響が考えられている。

全亜鉛の環境基準を達成していない水域ではBOD濃度も高い場合が多く、全亜鉛のみの影響を取り出して判断することは難しいが、現在の全亜鉛濃度から見て、ただちに魚類等への影響があるとは考えられない。

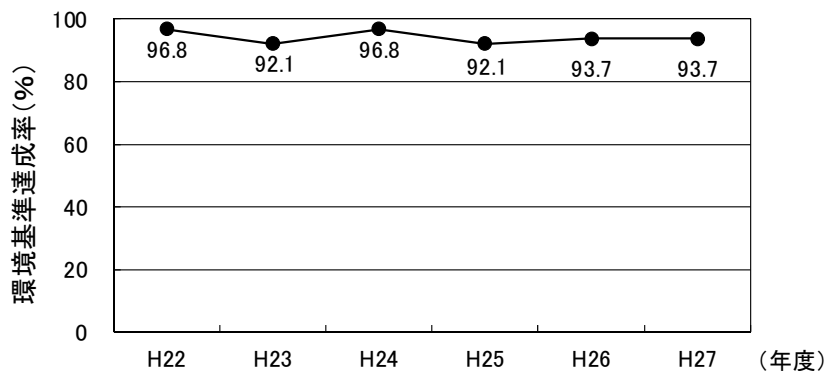


図4 水質環境基準（全亜鉛）の達成率の推移

表 13 全亜鉛の環境基準を達成していない水域の割合（平成 26 年度）

【類型別】

類型	達成していない水域数／類型指定水域数（％）	
生物 A	0 / 9（0％）	4 / 63（6％）
生物 B	4 / 54（7％）	

【水系別】

水系	達成していない水域数／ 類型指定水域数（％）	達成していない水域 及び年平均値（mg/L）
淀川水系	1 / 8（13％）	船橋川（0.034）
神崎川水系	0 / 16（0％）	
寝屋川水系	0 / 1（0％）	
大阪市内河川	2 / 12（17％）	道頓堀川（0.040） 東横堀川（0.040）
大和川水系	1 / 10（10％）	東除川（0.043）
泉州諸河川	0 / 16（0％）	
計	4 / 63（6％）	

② ノニルフェノール

ノニルフェノールは平成 24 年 8 月に環境基準項目として追加され、環境基準値は生物 A 類型が 0.001mg/L 以下、生物特 A 類型が 0.0006mg/L 以下、生物 B 類型及び生物特 B 類型が 0.002mg/L 以下と定められている。

平成 24 年度は 35 水域で、平成 25 年度以降は 63 水域で測定を行っており、これまですべての水域で環境基準を達成している。

③ LAS（直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩）

LAS は平成 25 年 3 月に環境基準項目として追加され、環境基準値は生物 A 類型が 0.03mg/L 以下、生物特 A 類型が 0.02mg/L 以下、生物 B 類型が 0.05mg/L 以下、生物特 B 類型が 0.04mg/L 以下と定められている。

平成 26 年度から 63 水域で測定を行っており、これまですべての水域で環境基準を達成している。

(3) 魚類の生息の状況

魚類の生息の状況は、前回類型指定の見直しを行った際にとりまとめた調査結果とそれ以降に行われた調査結果を比較すると、全体として、確認される魚種数が増加している。特に、近年水質の改善が見られた西除川、東除川、泉州諸河川等では、前回と比べて魚種数が大幅に増加している（資料2）。

表14に示す生物Aに対応する魚種であるイワナ、カジカなどの冷水性の魚種や、希少種であるアジメドジョウ及びナガレホトケドジョウについては、芥川(1)や山辺川など前回と同様の水域で引き続き生息が確認されているほか、新たに安威川下流(1)で生息が確認されている。

表14 水生生物類型に対応する主な魚介類

類型	主な魚介類
生物A	アマゴ、サツキマス、ヤマメ、サクラマス、イワナ、アメマス、カラフトマス、シロザケ、ニジマス、スチールヘッド、ヒメマス、ベニサケ、カジカ
生物B	ウグイ、シラウオ、オイカワ、ギンブナ、ゲンゴロウブナ、キンブナ、オオキンブナ、コイ、ドジョウ、ナマズ、ヨシノボリ、ウナギ、ボラ、スジエビ、テナガエビ、ヒラテテナガエビ、ミナミテナガエビ、ヌカエビ、モクズガニ、マシジミ、ヤマトシジミ

4. 類型指定の基本的な考え方

(1) BOD等5項目に係る類型指定

①着眼する項目

pH、DO、SS、大腸菌群数について、環境基準値に適合していない検体、地点の状況は「3. 水質等の状況」(1)の②～⑤に示すとおりであり、pHについては光合成の影響を、DOについては河川構造の影響を、SSについては上流における工事などの影響を、それぞれ大きく受けている。また、大腸菌群数については、国の検討会において、指標性に乏しいとの指摘がなされている。このため、これらの項目は、類型指定にあたって検討する項目とはせず、引き続き個別に水質の状況を監視していくべきものと考えられる。

以上のことから、BOD等5項目に係る類型指定の検討にあたっては、これまでと同様に、河川の代表的な汚濁指標であるBODの状況に主眼を置く。

②各水系で目指すべき類型

府内の河川をより魅力あるものとするため、前回見直し時と同様に、「全水域C類型以上」を目指すこととする。

類型指定の検討にあたっては各水系の特性を考慮する必要があることから、前回と同様に、各水系で「目指すべき類型」を設定する。

「目指すべき類型」については、「2. 水域の利用の状況」に示すとおり、前回以降、水系別に見た水道、水産、農業用水等の利水の状況に変化はなく、河川環境の活用や保全の取組が活発に行われており、水系別に見た取組の方向性に変化は見られないことから、前回設定した類型(表15)のとおりとする。

表15 各水系で目指すべき類型

水系		目指すべき類型
淀川水系		淀川下流(1)が水道3級相当の上水道水源として利用されていることから、B類型以上を目標とすることが適当。
神崎川水系	神崎川の支川	神崎川がB類型に指定されていることから、B類型以上を目標とすることが適当。
	猪名川上流の支川	既に全てA類型に指定されている。
寝屋川水系		都市域を流下する水域であり、水質の状況等を踏まえて現在はD類型に指定されている。しかしながら、寝屋川中流部等の一部の水域では親水性に配慮した事業なども実施されているほか、全般的に身近な河川への注目度も高まってきていることから、魚の生息に良好とされる類型(C類型以上)を目標とすることが適当。

大阪市内河川		全ての流域が都市域である河川であり、護岸等の河川の形態や利用目的からはC類型が適切と考えられる水域である。しかしながら、大阪市内河川の流域は既に下水道もほぼ100%整備されているほか、近年は水の回廊といわれる部分を中心として、都市域の潤いの場等としての注目度も高まっている。また、12水域のうち、大川等5水域については、既に、都市域の潤いの場としての利用に十分対応したB類型になっている。これらを考慮すると、現状においては底質や護岸など、親水性には乏しい状況にある区間もあるものの全水域ともB類型を目標とすることが望ましい。
大和川水系	石川とその支川	石川が「水産2級相当」に適応しているとされるB類型に指定されていることから、全ての水域がB類型以上を目標とすることが適当。
	西除川 東除川	都市域を流下する水域であり、現状の水質の状況等を踏まえ、現在はそれぞれC類型、D類型に指定されている。しかしながら、府民の身近な河川への関心を高めるためにも、魚の生息に良好とされる類型（C類型以上）を目標とすることが適当。
	榎井川以北の河川	いずれも中流・下流域が市街地化した河川であるが、他の流域と比べて生活排水対策の進捗が遅れているため、現状の水質の状況等から上流部や支川を除き、現在はDまたはE類型に指定されている。しかしながら、これらの河川についても近年は、身近な河川としての注目度も高まりつつあることから、より良い水質を目指して、上流部及び支川はB類型以上、下流部は魚の生息に良好とされる類型（C類型以上）を目標とすべき。
泉州諸河川	男里川以南の河川	全て既にA類型に指定されている。

③各河川水域の類型の検討

「目指すべき類型」を踏まえ、近年の水質状況等をもとに、今後概ね5年間の目標となる類型・達成期間を示すものとなることを基本とし、次に示す方針で検討するものとする。

(ア) 新規指定

新規の類型指定については、これまでと同様に、流路延長5km、流域面積10km²以上もしくはそれと同等と考えられる河川を基本とし、利用目的や水質の現況、発生源の状況、将来の開発予定などを考慮して検討する。

(イ) A類型からAA類型への改定

平成26年度にA類型の環境基準達成率が100%となったことを踏まえ、A類型の水域であって、AA類型の水質を十分に満たし、自然探勝の場としての利用がなされている水域については、AA類型に改定することを検討する。

(ウ) C類型以上の水域で、当該水系の「目指すべき類型」に合致している水域

平成23年に策定した「大阪21世紀の新環境総合計画」においては、2020年までに、BOD 3 mg/L 以下（B類型の基準値）を満たす河川の割合を8割にするとしている。この目標の達成に向け、上位類型に改定することが望ましいと考えられる水域については、B類型以上に改定することを検討する。

(エ) C類型以上の水域で、当該水系の「目指すべき類型」に合致していない水域

近年の水質状況を考慮しつつ、「目指すべき類型」への改定に向け、上位の類型への改定や達成期間の見直しを検討する。

(オ) DまたはE類型の水域

C類型以上への改定を目指し、近年の水質状況（上位類型の達成状況、年平均値の推移など）を考慮しつつ、できるだけ、上位の類型への改定や達成期間の見直しを検討する。

(2) 水生生物の保全に関する3項目に係る類型指定

生物Aに相当する魚種が確認されている河川水域については、前回見直し時に示されている基本的な考え方のいずれかの条件に該当しており、新たに追加・変更すべき条件はないと考えられる。

生物Bについては、生物の生息に適した水質であるC類型以上の水域に設定するという前回見直し時の考え方が妥当と考えられる。

以上のことから、前回の基本的な考え方にしたがって、次に示す方針で検討を行うものとする。

①生物A類型

流域に豊かな自然環境を有し、かつ水質が非常に良好であることから、冷水性の魚種や府域で絶滅が危惧される魚種が生息している可能性のある水域については、以下の条件を総合的に考慮し、「生物A」に指定する。

(ア) 上流域が山間部であるなど、自然が豊かな流域を持つこと。

(イ) BODがA類型の環境基準に十分に適合していること。

(ウ) 冷水性の魚種やカジカ、アジメドジョウ、ナガレホトケドジョウなど希少種の生息する可能性があると考えられること。

(エ) 冷水性の魚種についての漁業権が設定されていること。

②生物B類型

①以外の水域で、BOD等5項目に係る指定類型がC類型以上となる水域を「生物B」に指定する。

5. 新規指定及び改定を検討する河川の抽出

(1) BOD等5項目に係る類型指定

「4. 類型指定の基本的な考え方」(1)の①～③の考え方に沿って、府内のすべての河川水域を対象にBOD等5項目に係る新規指定及び改定を検討する河川を抽出した。

【抽出結果】

(ア) 新規指定

類型を指定していない河川のうち、流路延長5km以上の河川は、女瀬川、天竺川、山田川及び水越川の4河川であり、このうち流域面積10km²以上のものは水越川のみである。これらの河川について、水質データ及び発生源の状況、河川の利用状況等の基礎的データを整理・確認した。その結果、女瀬川は特定の事業場からの排水が河川流量の多くを占め、水質に大きく影響を与えており、また、山田川及び水越川は、発生源の状況や利用形態について、前回の類型指定検討時以降、考慮すべき変化が見られないが、天竺川については、近年親水利用が行われていることから、天竺川を新規類型指定水域の候補として抽出した。

なお、上記4河川と同等と考えられる河川については、将来の開発予定など新規指定にあたって考慮すべき状況にある水域はなかった。

表 16 流路延長5km以上の河川（現在、類型未指定）

水系	河川	流路延長 (km)	流域面積 (km ²)	流域行政区域
淀川水系	女瀬川	6.0	4.4	高槻市
神崎川水系	天竺川	7.6	8.8	豊中市
神崎川水系	山田川	7.4	8.4	吹田市、 摂津市
大和川水系	水越川	5.7	14.8	河南町、 千早赤阪村

(イ) A類型からAA類型への改定

現在、A類型に該当する河川水域は29水域あり、このうちAA類型の水質を十分に満たし、自然探勝の場としての利用がなされている水域として、芥川(1)、箕面川(1)、石見川の3水域を抽出した。

(ウ) (エ) (オ) 上位類型への改定 (AA類型への改定を除く)

現在、A類型以外の類型となっている河川水域について、近年の水質状

況（上位類型の達成状況、年平均値の推移など）、発生源の状況、利用形態等を確認した。その結果、(ウ)に該当するものとして寝屋川(1)及び天見川、(エ)に該当するものとして佐備川、(オ)に該当するものとして恩智川及び大津川下流を抽出した。

以上より、表 17 に示す 9 河川水域を新規指定及び改定の候補として抽出した。

表 17 新規指定及び改定の検討を行うために抽出した河川水域

水系	指定の種別	河川水域名
淀川水系	上位類型への改定	芥川(1)
神崎川水系	新規指定	天竺川
	上位類型への改定	箕面川(1)
寝屋川水系	上位類型への改定	寝屋川(1)、恩智川
大和川水系	上位類型への改定	天見川、石見川、佐備川
泉州諸河川	上位類型への改定	大津川下流

(2) 水生生物の保全に関する 3 項目に係る類型指定

「4. 類型指定の基本的な考え方」(2)の①及び②の考え方に沿って、府内のすべての河川水域を対象に、表 17 に示す BOD 等 5 項目に係る類型の改定等も踏まえ、水生生物の保全等に関する 3 項目に係る新規指定及び改定を検討する河川を抽出した。

【抽出結果】

新規指定については、今回、BOD 等 5 項目に係る新規指定を検討する天竺川及び、D 類型から C 類型への改定を検討する恩智川、大津川下流を抽出した。

上位類型への改定については、BOD 等 5 項目に係る改定を検討する河川水域のうち既に生物 A 類型に指定されている河川水域を除き、寝屋川(1)、天見川、佐備川を抽出した。

6. 河川水域ごとの検討の項目

(1) 新規指定及び改定の検討を行うために抽出した河川水域

表 17 の河川水域ごとに、以下の項目について整理し、類型指定案を作成した。

①水質の状況

- (ア) BOD 年平均値（平成 22 年度～平成 27 年度）の推移
- (イ) BOD75% 値（平成 22 年度～平成 27 年度）の推移
- (ウ) 月別 BOD 濃度、河川流量及び BOD 汚濁負荷量の推移

②流域の利用形態

上水道水源、農業用水としての利用及び河川敷における親水利用等、流域の利用形態

③流域における開発計画

開発計画の有無及び、該当する計画がある場合には河川への影響の有無

④下水道の整備状況

下水道普及率及び、今後の整備の見通し

⑤流域の BOD 汚濁負荷量

- (ア) 平成 26 年度における汚濁負荷量の推計
- (イ) 環境基準点（天竺川は準基準点）の上流に位置している水質汚濁防止法及び大阪府生活環境の保全等に関する条例の対象事業場*数及びこれらの事業場の平均排水量の合計が河川流量に占める割合
※汚水は下水道に接続し、雨水のみ河川に放流している事業場を含む。
- (ウ) 既設の事業場のうち、汚濁負荷量が大きい事業場（合計汚濁負荷量の 10% 以上を占める事業場を抽出）における負荷変動の状況及び今後の見通し

⑥水生生物類型の検討

- (ア) 水生生物の保全に関する項目の測定状況
 - ・全亜鉛の年平均値（平成 22 年度～平成 27 年度）
 - ・ノニルフェノールの年平均値（平成 25 年度～平成 27 年度）
 - ・LAS（直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩）の年平均値（平成 26 年度～平成 27 年度）
- (イ) 水生生物調査結果

(2) その他

安威川下流(1)及び安威川下流(2)について、類型範囲の統合を検討した。

7. 河川水域ごとの検討結果

河川水域ごとの検討結果を次頁以降に示す。

(1) 新規指定	①天竺川
(2) 改定	①芥川(1)、②箕面川(1)、③寝屋川(1)、④恩智川、⑤石見川、⑥天見川、⑦佐備川、⑧大津川下流
(3) その他	①安威川下流(1)及び安威川下流(2)

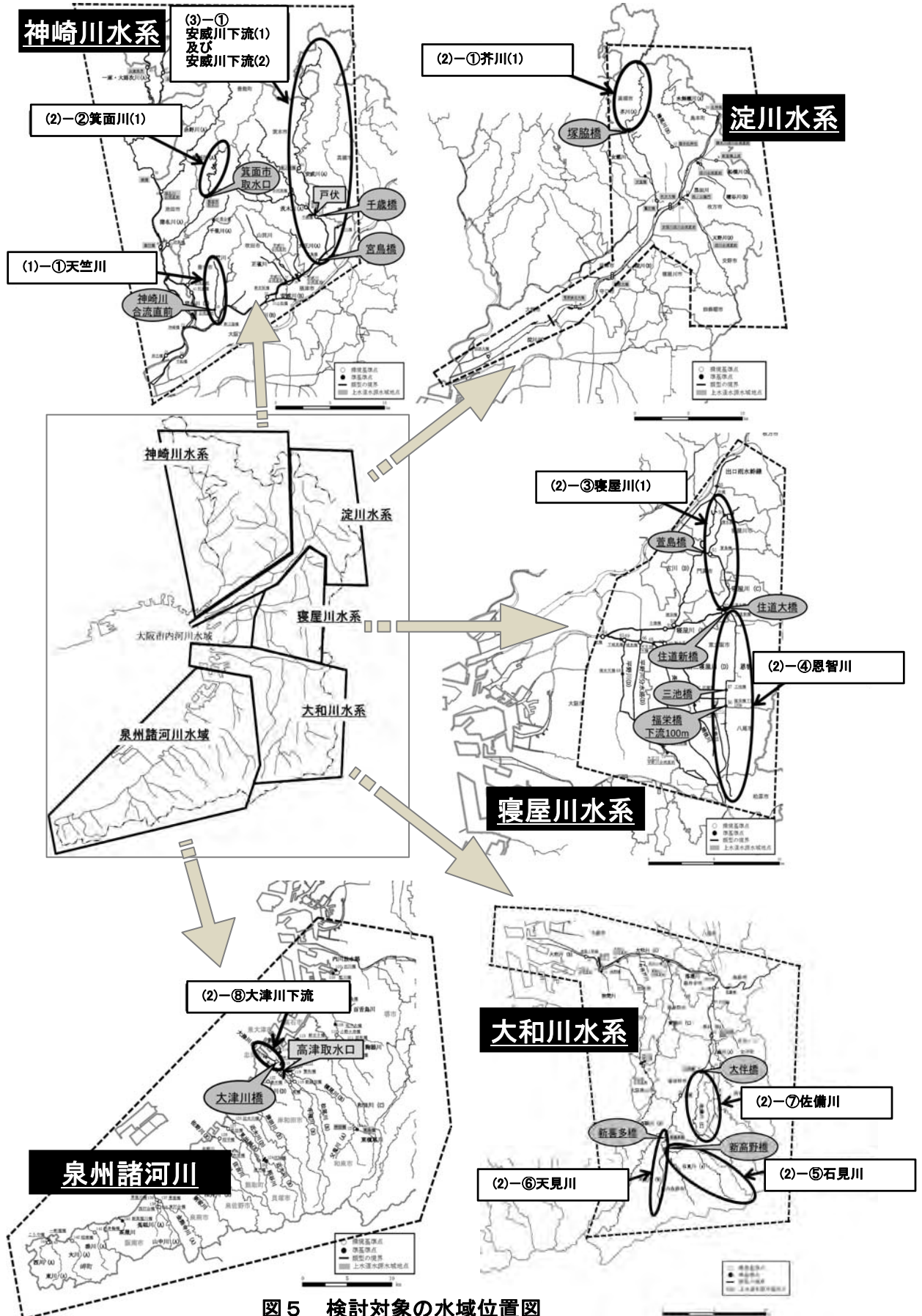


図5 検討対象の水域位置図

(1) 新規指定

①天竺川

(ア) 河川水域の概要

神崎川水系の天竺川は、豊中市内を流れる流路延長 7.635km、流域面積 8.77km² の一級河川である。国道 423 号（新御堂筋）東側の上新田付近から南西に流下し、府道 2 号（旧）と交差する熊野町 1 丁目付近で兔川と合流する。中流域では大阪府営公園服部緑地の西側を通り、下流部では一部天井川となった後、神崎川と合流する。現在、類型は指定されておらず、神崎川との合流点の約 1 km 上流の準基準点（神崎川合流直前）において豊中市が水質測定を行っている。水系として目指すべき類型は B 類型である。



天竺川

(出典：大阪府池田土木事務所 HP)

(イ) 水質の状況

- ・平成 22 年度から平成 27 年度までの準基準点（神崎川合流直前）における BOD 年平均値は、0.9～1.8mg/L である。
- ・BOD 75% 値は 1.0～1.9mg/L であり、平成 17 年度以降は B 類型の環境基準値 3 mg/L を下回っている。
- ・月別の BOD 濃度、流量及び BOD 汚濁負荷量の詳細データを資料 1 に示す。流量の年平均値は 0.0～0.2m³/s であり、BOD 汚濁負荷量の年平均値は 1.5～49.5kg/日（このうち平成 26 年度は 5.0kg/日）である。BOD 濃度については、平成 24 年 2 月に降雨の影響と考えられる濃度上昇（2.9mg/L）が見られたが、それ以外の期間は概ね 1～2 mg/L の範囲で推移している。

(ウ) 流域の利用形態

- ・豊中市内では上水道水源、農業用水いずれの利用も行われていない。
- ・平成 23 年度に水辺へ降りられるスロープが整備され、親水利用が行われている。府市及び関係者による協議会が設立され、服部緑地と天竺川周辺を、水と緑が一体となった地域の「魅力」・「顔」にしていくことを目指した取組が進められている。この一環として、一定区域において毎年河川開放が実施され、川に親しむ活動が行われている。

(エ) 流域における開発計画

今後、当該流域の最上流部において2.3ha程度の住宅開発計画がある。この地域は下水道整備済みの地域であり、天竺川に与える負荷はないと考えられる。

(オ) 下水道の整備状況

豊中市内の下水道普及率は現在99.9%であり、ほぼ完備している。

(カ) 流域のBOD汚濁負荷量

流域の平成26年度のBOD汚濁負荷量の推計結果は30.0kg/日である(表18)。準基準点である神崎川合流直前の上流に位置する事業場は10事業場あり、平均排水量の合計が河川流量に占める割合は0.4%である。

既設の事業場のうち、負荷変動があった場合に神崎川合流直前の水質に影響を与えうる事業場はない。

なお、法及び条例対象事業場については、新設事業場に対し既設事業場よりも厳しい排水基準を適用するなど、環境基準の達成・維持に支障がないよう規制・指導を行う。

表18 天竺川の流域におけるBOD汚濁負荷量の推計結果(平成26年度)

汚濁源の種別	生活系	産業系	その他	合計
BOD汚濁負荷量 (kg/日)	3.3	3.2	23.5	30.0

(キ) 水生生物類型の検討

- ・水生生物の保全に関する項目については、これまで準基準点である神崎川合流直前において全亜鉛を年1回測定しており、平成22年度から平成27年度の年平均値は0.002~0.009mg/L(環境基準値0.03mg/L)である。ノニルフェノール及びLASの測定は行っていない。
- ・水生生物調査結果によるとコイ、オイカワ、モツゴ、ドジョウ、カダヤシが確認されている。生物A類型に対応する魚種は確認されていない。

(ク) 結論

天竺川の水質、利用形態、発生源の状況等を検証した結果、B類型の環境基準値を十分下回る水質であり、さらに、近年では水辺環境への関心を高めるための取組も始まっている。また各種発生源からの負荷については将来的に大きな変化はないと見込まれる。

水生生物類型については、全亜鉛の測定状況及び水生生物調査結果から、生物B類型相当と考えられる。

以上から、全域が市街地を流れる河川でありながら良好な水質を保ってきた当該水域については、今後も水質の維持あるいは向上を図るために、新たに類型を指定することが適当と考えられる。類型範囲は「全域」とし、BOD等5項目については、利用目的等に見合った類型であるB類型に、水生生物の保全に関する項目については生物B類型に指定することが適当と考えられる。

なお、BOD等5項目の達成期間については、BODの環境基準値を十分下回っていることから「イ（直ちに達成）」とすることが適当と考えられる。また、水生生物類型の達成期間については、全亜鉛の測定結果を勘案し、「イ（直ちに達成）」とすることが適当と考えられる。

(2) 上位類型への改定

①芥川(1)

(ア) 河川水域の概要

淀川水系の芥川(1)は、現在、BOD等5項目に係る類型はAイ類型、水生生物の保全に関する3項目の類型は生物Aイ類型に指定されている。類型範囲は「京都府界から塚脇橋まで」であり、環境基準点は塚脇橋である。水系として目指すべき類型はB類型である。



芥川(1) (塚脇橋)

(イ) 水質の状況

- ・平成22年度から平成27年度までの環境基準点(塚脇橋)におけるBOD年平均値は、0.6~0.8mg/Lである。
- ・BOD75%値は0.5~0.9mg/Lであり、現在のA類型の環境基準を十分達成し、かつ、上位類型のAA類型の環境基準値である1mg/Lを下回っている。
- ・月別のBOD濃度、流量及びBOD汚濁負荷量の詳細データを資料1に示す。

流量の年平均値は0.3~0.6m³/sであり、BOD汚濁負荷量の年平均値は14.8~37.9kg/日(このうち平成26年度は37.9kg/日)である。BOD濃度については、平成22年度、平成23年度及び平成26年度にAA類型の環境基準値を上回る月が1~3回見られた。濃度上昇の要因は特定できなかったが、最大でも1.3mg/Lであり、それ以外の期間は報告下限値の0.5mg/L程度で推移している。

(ウ) 流域の利用形態

- ・樫田地区簡易水道において、芥川(1)の支流の出灰川の水を緩速ろ過処理して上水に利用している。流域では農業用水としての利用もなされている。
- ・また、北摂地域を代表する渓谷美で知られ、摂津耶馬溪とも呼ばれる摂津峡周辺では、高槻市の風致公園である「摂津峡公園」において、四季折々の自然の美しさを楽しむための渓谷沿いのハイキングコースなどが整備されている。また、市街地においても水遊びや水生生物観察活動などが行われており、親水利用も盛んである。

(エ) 流域における開発計画

現時点で、芥川(1)の水質に影響を与えるような開発計画はない。

(オ) 下水道の整備状況

高槻市内の下水道普及率は現在 99.5%であり、ほぼ完備している。

(カ) 流域のBOD汚濁負荷量

流域の平成 26 年度のBOD汚濁負荷量の推計結果は 44.4kg/日である(表 19)。環境基準点である塚脇橋の水質に影響を与える事業場は 8 事業場あり、平均排水量の合計が河川流量に占める割合は 2.9%である。

既設の事業場のうち、負荷変動があった場合に塚脇橋の水質に影響を与えうる事業場はない。

なお、法及び条例対象事業場については、新設事業場に対し既設事業場よりも厳しい排水基準を適用するなど、環境基準の達成・維持に支障がないよう規制・指導を行う。

表 19 芥川(1)の流域におけるBOD汚濁負荷量の推計結果(平成 26 年度)

汚濁源の種別	生活系	産業系	その他	合計
BOD汚濁負荷量 (kg/日)	3.3	2.7	38.4	44.4

(キ) 結論

芥川(1)の水質、利用形態、発生源の状況等を検証した結果、AA類型の環境基準値を十分下回る水質であり、また自然探勝の場としての利用がなされており、各種発生源からの負荷についても将来的に大きな変化はないと見込まれる。

以上から、今後も生活排水対策や事業場の排水規制・指導を推進し、水質の維持あるいは向上を図るために、当該水域をAI類型からAAI類型へ改定することが適当と考えられる。

②箕面川(1)

(ア) 河川水域の概要

神崎川水系の箕面川(1)は、現在、BOD等5項目に係る類型はAイ類型、水生生物の保全に関する3項目の類型は生物Aイ類型に指定されている。類型範囲は「箕面市取水口より上流」であり、環境基準点は箕面市取水口である。水系として目指すべき類型はA類型である。



箕面川(1) (箕面市取水口)

(イ) 水質の状況

- ・平成22年度から平成27年度までの環境基準点(箕面市取水口)におけるBOD年平均值は、0.5~0.6mg/Lである。
- ・BOD75%値は0.5未満~0.7mg/Lであり、現在のA類型の環境基準を十分達成し、かつ、上位類型のAA類型の環境基準値である1mg/Lを下回っている。
- ・月別のBOD濃度、流量及びBOD汚濁負荷量の詳細データを資料1に示す。流量の年平均值は0.2~0.3m³/sであり、BOD汚濁負荷量の年平均值は8.2~14.8kg/日(このうち平成26年度は12.0kg/日)である。BOD濃度については、平成24年度及び平成27年度にAA類型の環境基準値を上回る月が1回見られた。濃度上昇の要因は特定できなかったが、最大でも1.2mg/Lであり、それ以外の期間は報告下限値の0.5mg/L程度で推移している。

(ウ) 流域の利用形態

- ・上水道水源及び農業用水としての利用が行われている。
- ・また、箕面市取水口より上流では、明治の森箕面国定公園及び大阪府営箕面公園において、箕面の滝を訪れる多くの観光客に親しまれているなど、自然探勝の場としての利用がなされている。

(エ) 流域における開発計画

現時点で、箕面川(1)の水質に影響を与えるような開発計画はない。

(オ) 下水道の整備状況

箕面市内の下水道普及率は現在99.9%であり、ほぼ完備している。

(カ) 流域のBOD汚濁負荷量

流域の平成 26 年度のBOD汚濁負荷量の推計結果は 17.6kg/日である(表 20)。環境基準点である箕面市取水口の水質に影響を与える事業場はない。

表 20 箕面川(1)の流域におけるBOD汚濁負荷量の推計結果(平成 26 年度)

汚濁源の種別	生活系	産業系	その他	合計
BOD汚濁負荷量 (kg/日)	0.0	0.0	17.6	17.6

(キ) 結論

箕面川(1)の水質、利用形態、発生源の状況等を検証した結果、AA類型の環境基準値を十分下回る水質であり、また自然探勝の場としての利用がなされており、流域の汚濁負荷についても将来的に大きな変化はないと見込まれる。

以上から、今後も水質の維持あるいは向上を図るために、当該水域をAI類型からAAI類型へ改定することが適当と考えられる。

③ 寝屋川(1)

(ア) 河川水域の概要

寝屋川水系の寝屋川(1)は、現在、BOD等5項目に係る類型はCⅠ類型、水生生物の保全に関する3項目の類型は生物Bロ類型に指定されている。類型範囲は「住道大橋より上流」であり、環境基準点は萱島橋、住道大橋である。水系として目指すべき類型はC類型である。



寝屋川(1) (萱島橋)



寝屋川(1) (住道大橋)

(イ) 水質の状況

- ・平成22年度から平成27年度までのBOD年平均値は、環境基準点（萱島橋）では0.9～1.9mg/L、環境基準点（住道大橋）では1.5～2.2mg/Lである。
- ・BOD75%値は、萱島橋では1.2～2.3mg/L、住道大橋では1.6～2.4mg/Lであり、現在のC類型の環境基準を十分達成し、かつ、上位類型であるB類型の環境基準値である3mg/Lを下回っている。
- ・萱島橋の上流で、寝屋川導水路を通じて淀川の水を導水しており、今後も導水の状況に大きな変化はない見通しである。
- ・月別のBOD濃度、流量及びBOD汚濁負荷量の詳細データを資料1に示す。流量の年平均値は萱島橋で1.1～1.8m³/s、住道大橋で3.0～4.5m³/sであり、BOD汚濁負荷量の年平均値は萱島橋で141.0～242.9kg/日、住道大橋で416.5～803.8kg/日（このうち平成26年度は萱島橋で235.4kg/日、住道大橋で416.5kg/日）である。BOD濃度については、萱島橋で平成24年6月にC類型の環境基準値を超え5.4mg/Lとなり、平成25年3月及び平成26年12月にB類型の環境基準値を超える値が見られた。いずれも濃度上昇の要因は特定できなかったが、それ以外の期間は両地点とも概ね1～3mg/Lの範囲で推移している。

(ウ) 流域の利用形態

- ・上水道水源としての利用はなく、農業用水としての利用は一部で行われている。
- ・寝屋川市内では、平成25年6月に生き物とのふれあいを視野に入れた

親水空間として「川勝水辺ひろば」がオープンした。

(エ) 流域における開発計画

今後、寝屋川(1)の支流である讚良川、楠根川、谷田川の周辺地域で開発計画がある。ただし、下水道整備済みの地域であり、寝屋川(1)に与える負荷はないと考えられる。

(オ) 下水道の整備状況

下水道普及率は現在、寝屋川市内では 99.7%、四條畷市内では 99.7%、大東市内では 98.7%である。

(カ) 流域のBOD汚濁負荷量

流域の平成 26 年度の BOD 汚濁負荷量の推計結果は 937.4kg/日（寝屋川導水の負荷を含む。）である（表 21）。環境基準点である住道大橋の水質に影響を与える事業場は 132 事業場あり、平均排水量の合計が河川流量に占める割合は 46.2%、うち、下水処理場（寝屋川流域下水道なわて水みらいセンター、淀川左岸流域下水道渚水みらいセンター）の排水量が河川流量に占める割合は 45.4%である。

既設の事業場のうち、負荷変動があった場合に住道大橋の水質に影響を与えうる事業場として、渚水みらいセンター（合計汚濁負荷量に占める割合 45.2%）があるが、24 時間稼働であり、また今後、増設などにより汚濁負荷量が大きく増加する計画はない。

なお、なわて水みらいセンターでは今後、他の下水処理場の取り込みにより処理量が現在の 2 倍に増加する計画がある。これにより汚濁負荷量も現在（23.1kg/日）の 2 倍となり、合計汚濁負荷量が 2.5%増加すると考えられる。しかしながら、なわて水みらいセンターの排水の BOD 濃度は平成 26 年度の住道大橋の BOD 濃度（1.5 mg/L）を下回っており、増加後の住道大橋における BOD 濃度は 1.4mg/L 程度となると予測される。

なお、法及び条例対象事業場については、新設事業場に対し既設事業場よりも厳しい排水基準を適用するなど、環境基準の達成・維持に支障がないよう規制・指導を行う。

表 21 寝屋川(1)の流域におけるBOD汚濁負荷量の推計結果(平成26年度)

汚濁源の種別	下水処理場 (2事業場)	生活系	産業系	その他	上流域の影響 (寝屋川導水)	合計
BOD汚濁負荷量 (kg/日)	447.1	325.1	56.6	87.6	21.0	937.4

(キ) 水生生物類型の検討

- ・平成22年度から平成27年度の全亜鉛の年平均値は、萱島橋では0.026～0.044mg/L(環境基準値0.03mg/L)、住道大橋では0.022～0.033mg/Lであり、環境基準を達成していない年度も見られる。
- ・ノニルフェノールについては、平成25年度から平成27年度の年平均値は萱島橋で0.00006未満～0.00006mg/L(生物B類型の環境基準値0.002mg/L)、住道大橋で0.00007～0.00008mg/Lと環境基準を十分達成している。
- ・LASについては、平成26年度から平成27年度までの年平均値は萱島橋で0.0006未満～0.004mg/L(生物B類型の環境基準値0.05mg/L)、住道大橋では0.0007～0.037mg/Lであり、環境基準を十分達成している。
- ・また、水生生物調査結果によるとコイ、ギンブナ、オイカワ等が確認されている。生物A類型に対応する魚種は確認されていない。

(ク) 結論

寝屋川(1)の水質、利用形態、発生源の状況等を検証した結果、B類型の環境基準値を十分下回る水質である。各種発生源からの負荷については、下水処理場の処理量増加計画があるが、住道大橋における水質に大きな変化はないと見込まれる。

水生生物類型については水生生物の保全に関する項目の測定状況及び水生生物調査結果から、引き続き生物B類型が適切と考えられる。

以上から、今後も生活排水対策や事業場の排水規制・指導を推進し、水質の維持あるいは向上を図るために、当該水域をCイ類型からBイ類型へ改定することが適切と考えられる。

なお、水生生物類型の達成期間については、全亜鉛が環境基準を達成していない年度もあることから、引き続き「ロ(5年以内に達成)」とすることが適切と考えられる。

④ 恩智川

(ア) 河川水域の概要

寝屋川水系の恩智川は、現在、BOD等5項目に係る類型はDイ類型に指定され、水生生物の保全に関する3項目の類型は指定されていない。類型範囲は「全域」であり、環境基準点は住道新橋である。水系として目指すべき類型はC類型である。



恩智川（住道新橋）

(イ) 水質の状況

- ・平成22年度から平成27年度までの環境基準点（住道新橋）におけるBOD年平均値は、2.5～3.8mg/Lである。
- ・BOD75%値は2.7～5.1mg/Lであり、現在のD類型の環境基準を十分達成し、平成23年度以降は上位類型のC類型の環境基準値である5mg/Lを下回っている。
- ・月別のBOD濃度、流量及びBOD汚濁負荷量の詳細データを資料1に示す。住道新橋における流量の年平均値は1.8～2.6m³/sであり、BOD汚濁負荷量の年平均値は380.4～753.2kg/日（このうち平成26年度は380.4kg/日）である。BOD濃度については、平成22年度から平成24年度にかけてC類型の環境基準値を上回る月が1～4回見られる。これは、環境基準点である住道新橋の上流部の三池橋及び福栄橋下流100mの値から見て、上流部の影響を大きく受けていると考えられる。平成25年度以降は全体的に濃度の低下が見られ、概ね2～4mg/Lの範囲で推移している。

(ウ) 流域の利用形態

- ・上水道水源としての利用はなく、農業用水としての利用は一部で行われている。
- ・平成25年度以降、「恩智川クリーン・リバープロジェクト」により、水質調査、生物調査、川沿いでの演奏会や展示など様々な企画が盛り込まれた美化活動を実施している。

(エ) 流域における開発計画

現時点で、恩智川の水質に影響を与えるような開発計画はない。

(オ) 下水道の整備状況

下水道普及率は現在、下流部の大東市内では 98.7%、東大阪市内では 99.8%である。

中流部の八尾市内では、恩智川西側における下水道普及率は 100%である。東側の山間部では 10%以下であるが、平成 32 年度までに普及率 100%を目指す計画である。

上流部の柏原市内では、恩智川流域の下水道普及率は 93%である。

(カ) 流域の BOD 汚濁負荷量

流域の平成 26 年度の BOD 汚濁負荷量の推計結果は 896.6kg/日である(表 22)。環境基準点である住道新橋の水質に影響を与える事業場は 196 事業場あり、平均排水量の合計が河川流量に占める割合は 2.9%である。

既設の事業場のうち、負荷変動があった場合に住道新橋の水質に影響を与えうる事業場はない。

なお、法及び条例対象事業場については、新設事業場に対し既設事業場よりも厳しい排水基準を適用するなど、環境基準の達成・維持に支障がないよう規制・指導を行う。

表 22 恩智川の流域における BOD 汚濁負荷量の推計結果(平成 26 年度)

汚濁源の種別	生活系	産業系	その他	合計
BOD 汚濁負荷量 (kg/日)	655.3	170.3	71.0	896.6

(キ) 水生生物類型の検討

- ・水生生物の保全に関する項目については、これまで環境基準点である住道新橋において全亜鉛を年 2 回測定している。平成 22 年度から平成 27 年度の年平均値は 0.026~0.055mg/L (環境基準値 0.03mg/L) であり、平成 22 年度を除き環境基準値を超えている。ノニルフェノール及び LAS の測定は行っていない。
- ・水生生物調査結果によるとコイ、オイカワ、モツゴ、タモロコ、カマツカ、カダヤシ等が確認されている。生物 A 類型に対応する魚種は確認されていない。

(ク) 結論

恩智川の水質、利用形態、発生源の状況等を検証した結果、C 類型の環境基準値を十分下回る水質であり、また各種発生源からの負荷については、

生活排水対策等の取組の進展により減少するものと見込まれる。

水生生物類型については、全亜鉛の調査結果及び水生生物調査結果から、生物B類型相当と考えられる。

以上から、今後も生活排水対策や事業場の排水規制・指導を推進し、水質の維持あるいは向上を図るために、当該水域をD類型からC類型に、水生生物類型については新たに生物B類型に指定することが適当と考えられる。

なお、BOD等5項目の達成期間については、平成22年度まではC類型の環境基準値を上回る測定結果も得られていること、水生生物類型の達成期間については、全亜鉛が環境基準を達成していない年度が多いことから、さらに水質保全の取組を進め、5年以内には確実に達成するよう、ともに「ロ（5年以内に達成）」とすることが適当と考えられる。

⑤石見川

(ア) 河川水域の概要

大和川水系の石見川は、現在、BOD等5項目に係る類型はAイ類型、水生生物の保全に関する3項目の類型は生物Aイ類型に指定されている。類型範囲は「全域」であり、環境基準点は新高野橋である。水系として目指すべき類型はB類型である。



石見川（新高野橋）



石見川（上流の様子）

(イ) 水質の状況

- ・平成22年度から平成27年度までの環境基準点（新高野橋）におけるBOD年平均値は、0.5～0.7mg/Lである。
- ・BOD75%値は0.5～0.8mg/Lであり、現在のA類型の環境基準を十分達成し、かつ、上位類型のAA類型の環境基準値である1mg/Lを下回っている。
- ・月別のBOD濃度、流量及びBOD汚濁負荷量の詳細データを資料1に示す。流量の年平均値は0.2～0.4m³/sであり、BOD汚濁負荷量の年平均値は9.9～25.2kg/日（このうち平成26年度は12.7kg/日）である。BOD濃度については、平成25年度及び平成27年度にAA類型の環境基準値を上回る月が1回見られた。濃度上昇の要因は特定できなかったが、最大でも1.3mg/Lであり、それ以外の期間は報告下限値の0.5mg/L程度で推移している。

(ウ) 流域の利用形態

- ・上水道水源及び農業用水としての利用が行われている。
- ・また、石見川上流において自然の美しさを楽しむためのハイキングコースが整備されているなど、自然探勝の場としての利用がなされている。

(エ) 流域における開発計画

現時点で、石見川の水質に影響を与えるような開発計画はない。

(オ) 下水道の整備状況

河内長野市内の下水道普及率は現在90.7%である。石見川流域は、下

流域については下水道の整備区域であり、順次、整備が進められている。上流域については浄化槽の整備により生活排水対策を行う区域である。

(カ) 流域のBOD汚濁負荷量

流域の平成26年度のBOD汚濁負荷量の推計結果は48.3kg/日である(表23)。環境基準点である新高野橋の水質に影響を与える事業場は5事業場あり、平均排水量の合計が河川流量に占める割合は0.69%である。

既設の事業場のうち、負荷変動があった場合に新高野橋の水質に影響を与えうる事業場はない。

なお、法及び条例対象事業場については、新設事業場に対し既設事業場よりも厳しい排水基準を適用するなど、環境基準の達成・維持に支障がないよう規制・指導を行う。

表 23 石見川の流域におけるBOD汚濁負荷量の推計結果(平成26年度)

汚濁源の種別	生活系	産業系	その他	合計
BOD汚濁負荷量 (kg/日)	25.8	3.4	19.1	48.3

(キ) 結論

石見川の水質、利用形態、発生源の状況等を検証した結果、AA類型の環境基準値を十分下回る水質であり、また自然探勝の場としての利用がなされており、各種発生源からの負荷についても将来的に大きな変化はないと見込まれる。

以上から、今後も生活排水対策や事業場の排水規制・指導を推進し、水質の維持あるいは向上を図るために、当該水域をAI類型からAAI類型へ改定することが適当と考えられる。

⑥天見川

(ア) 河川水域の概要

大和川水系の天見川は、現在、BOD等5項目に係る類型はBイ類型、水生生物の保全に関する3項目の類型は生物Bイ類型に指定されている。類型範囲は「全域」であり、環境基準点は新喜多橋である。水系として目指すべき類型はB類型である。



天見川（新喜多橋）

(イ) 水質の状況

- ・平成22年度から平成27年度までの環境基準点（新喜多橋）におけるBOD年平均值は、0.8～1.3mg/Lである。
- ・BOD75%値は0.8～1.5mg/Lであり、現在のB類型の環境基準を十分達成し、かつ、上位類型であるA類型の環境基準値である2mg/Lを下回っている。
- ・月別のBOD濃度、流量及びBOD汚濁負荷量の詳細データを資料1に示す。流量の年平均值は0.8～1.3m³/sであり、BOD汚濁負荷量の年平均值は54.0～154.8kg/日（このうち平成26年度は54.0kg/日）である。BOD濃度については、平成22年度及び平成23年度に降雨の影響と考えられる濃度上昇（最大2.4mg/L）が1～2回見られたが、それ以外の期間は概ね0.5～1.5mg/Lの範囲で推移している。

(ウ) 流域の利用形態

- ・上水道水源としての利用はなく、農業用水としては利用されている。

(エ) 流域における開発計画

今後、下流域において住宅開発計画があるが、開発時期には下水道への接続が予定されており、天見川に与える汚濁負荷はないと考えられる。

(オ) 下水道の整備状況

河内長野市内の下水道普及率は現在90.7%である。天見川流域においては、下流域については下水道の整備区域であり、順次、整備が進められている。上流域については浄化槽の整備により生活排水対策を行う区域である。

(カ) 流域のBOD汚濁負荷量

流域の平成26年度のBOD汚濁負荷量の推計結果は188.8kg/日である(表24)。環境基準点である新喜多橋の水質に影響を与える事業場は25事業場あり、平均排水量の合計が河川流量に占める割合は1.06%である。

既設の事業場のうち、負荷変動があった場合に新喜多橋の水質に影響を与えうる事業場はない。

なお、法及び条例対象事業場については、新設事業場に対し既設事業場よりも厳しい排水基準を適用するなど、環境基準の達成・維持に支障がないよう規制・指導を行う。

表24 天見川の流域におけるBOD汚濁負荷量の推計結果(平成26年度)

汚濁源の種別	生活系	産業系	その他	合計
BOD汚濁負荷量 (kg/日)	127.9	12.5	48.4	188.8

(キ) 水生生物類型の検討

- ・新喜多橋における、平成22年度から平成27年度の全亜鉛の年平均値は、0.004~0.010mg/Lであり、全ての年度で環境基準を達成している。
- ・ノニルフェノールについては、平成25年度から平成27年度の年平均値は全て0.00006mg/L未満(生物B類型の環境基準値0.002mg/L)であり、環境基準を十分達成している。
- ・LASについては、平成26年度から平成27年度の年平均値は0.0021mg/L~0.0046mg/L(生物B類型の環境基準値0.05mg/L)であり、環境基準を十分達成している。
- ・また、水生生物調査結果によるとコイ、カワムツ、タカハヤ等が確認されている。生物A類型に対応する魚種は確認されていない。

(ク) 結論

天見川の水質、利用形態、発生源の状況等を検証した結果、A類型の環境基準値を十分下回る水質であり、各種発生源からの負荷についても将来的に大きな変化はないと見込まれる。水生生物類型については水生生物の保全に関する項目の測定状況及び水生生物調査結果から、引き続き生物B類型が適切と考えられる。

以上から、今後も生活排水対策や事業場の排水規制・指導を推進し、水質の維持あるいは向上を図るために、当該水域をBイ類型からAイ類型へ改定することが適切と考えられる。

⑦佐備川

(ア) 河川水域の概要

大和川水系の佐備川は、現在、BOD等5項目に係る類型はCⅠ類型、水生生物の保全に関する3項目の類型は生物BⅠ類型に指定されている。類型範囲は「全域」であり、環境基準点は大伴橋である。水系として目指すべき類型はB類型である。



佐備川（大伴橋）

(イ) 水質の状況

- ・平成22年度から平成27年度までの環境基準点（大伴橋）におけるBOD年平均値は、1.4～2.5mg/Lである。
- ・BOD75%値は1.8～2.7mg/Lであり、現在のC類型の環境基準を十分達成し、かつ、上位類型であるB類型の環境基準値である3mg/Lを下回っている。
- ・月別のBOD濃度、流量及びBOD汚濁負荷量の詳細データを資料1に示す。流量の年平均値は0.3～0.6m³/sであり、BOD汚濁負荷量の年平均値は36.2～110.8kg/日（このうち平成26年度は36.2kg/日）である。BOD濃度については、平成23年2月に降雨の影響と考えられる濃度上昇、また平成25年6月に流量が少なかったことによる濃度上昇によりC類型の環境基準値を上回る月が1回見られるが、それ以外の期間は概ね1～3mg/Lの範囲で推移している。

(ウ) 流域の利用形態

- ・上水道水源としての利用はなく、農業用水としては利用されている。

(エ) 流域における開発計画

現時点で、佐備川の水質に影響を与えるような開発計画はない。

(オ) 下水道の整備状況

富田林市内の下水道普及率は現在87.3%である。佐備川流域においては、下流域については下水道の整備区域であり、普及率は58%である。上流域については浄化槽の整備により生活排水対策を行う区域である。

(カ) 流域のBOD汚濁負荷量

流域の平成26年度のBOD汚濁負荷量の推計結果は147.7kg/日である(表25)。佐備川の環境基準点である大伴橋の水質に影響を与える事業場は12事業場あり、平均排水量の合計が河川流量に占める割合は3.2%である。

既設の事業場のうち、負荷変動があった場合に大伴橋の水質に影響を与えうる事業場はない。

なお、法及び条例対象事業場については、新設事業場に対し既設事業場よりも厳しい排水基準を適用するなど、環境基準の達成・維持に支障がないよう規制・指導を行う。

表25 佐備川の流域におけるBOD汚濁負荷量の推計結果(平成26年度)

汚濁源の種別	生活系	産業系	その他	合計
BOD汚濁負荷量 (kg/日)	79.6	21.5	46.6	147.7

(キ) 水生生物類型の検討

- ・大伴橋における、平成22年度から平成27年度の全亜鉛の年平均値は、0.007~0.012mg/Lであり、全ての年度で環境基準を達成している。
- ・ノニルフェノールについては、平成25年度から平成27年度の年平均値は全て0.00006mg/L未満(生物B類型の環境基準値0.002mg/L)であり、環境基準を十分達成している。
- ・LASについては、平成26年度から平成27年度の年平均値は0.0067mg/L~0.019mg/L(生物B類型の環境基準値0.05mg/L)であり、環境基準を十分達成している。
- ・水生生物調査結果によるとギンブナ、オイカワ、カワムツ等が確認されている。生物A類型に対応する魚種は確認されていない。

(ク) 結論

佐備川の水質、利用形態、発生源の状況等を検証した結果、B類型の環境基準値を十分下回る水質であり、また各種発生源からの負荷についても将来的に大きな変化はないと見込まれる。水生生物類型については水生生物の保全に関する項目の測定状況及び水生生物調査結果から、引き続き生物B類型が適当と考えられる。

以上から、今後も生活排水対策や事業場の排水規制・指導を推進し、水質の維持あるいは向上を図るために、当該水域をCイ類型からBイ類型へ改定することが適当と考えられる。

⑧大津川下流

(ア) 河川水域の概要

泉州諸河川の大津川下流は、現在、BOD等5項目に係る類型はDイ類型に指定されており、水生生物の保全に関する3項目の類型は指定されていない。類型範囲は「泉大津市高津取水口より下流」であり、環境基準点は大津川橋である。水系として目指すべき類型はC類型である。



大津川下流（大津川橋）

(イ) 水質の状況

- ・平成22年度から平成27年度までの環境基準点（大津川橋）におけるBOD年平均值は、2.4～3.7mg/Lである。
- ・BOD75%値は2.6～4.5mg/Lであり、現在のD類型の環境基準を十分達成し、かつ、上位類型のC類型の環境基準値である5mg/Lを下回っている。
- ・月別のBOD濃度、流量及びBOD汚濁負荷量の詳細データを資料1に示す。流量の年平均值は0.75～2.09m³/sであり、BOD汚濁負荷量の年平均值は205.4～631.9kg/日（このうち平成26年度は316.2kg/日）である。BOD濃度については、平成23年2月に降雨の影響と考えられる濃度上昇により現在のD類型の環境基準値を上回る値（9.5 mg/L）が見られるほか、平成25年度までの間では年に1～3回、河川の流量が少なかったことによる濃度上昇によりC類型の環境基準値を上回る値（最大6.5 mg/L）が見られたが、それ以降の期間は概ね1～4 mg/Lの範囲で推移している。

(ウ) 流域の利用形態

- ・泉大津市内では上水道水源、農業用水のいずれの利用も行われていない。忠岡町内では上水道水源としての利用はなく、農業用水としては利用されている。
- ・河川敷には公園が整備されている。

(エ) 流域における開発計画

現時点で、大津川下流の水質に影響を与えるような開発計画はない。

(オ) 下水道の整備状況

下水道普及率は現在、泉大津市内では 96.5%、忠岡町内では 96.6%である。また、大津川橋の水質に影響を与える上流域の水域には、槇尾川、父鬼川、松尾川、牛滝川等があるが、下流の市街地を中心に下水道整備が進んでおり、上流部では未整備の地域が残る。今後、順次整備を進めていく計画である。

(カ) 流域の B O D 汚濁負荷量

流域の平成 26 年度の B O D 汚濁負荷量の推計結果は 1408.3kg/日である(表 26)。環境基準点である大津川橋の水質に影響を与える事業場は 193 事業場あり、平均排水量の合計が河川流量に占める割合は 5.8%である。

既設の事業場のうち、負荷変動があった場合に大津川橋の水質に影響を与えうる事業場はない。

なお、法及び条例対象事業場については、新設事業場に対し既設事業場よりも厳しい排水基準を適用するなど、環境基準の達成・維持に支障がないよう規制・指導を行う。

表 26 大津川下流の流域における B O D 汚濁負荷量の推計結果(平成 26 年度)

汚濁源の種別	下水処理場	生活系	産業系	その他	合計
B O D 汚濁負荷量(kg/日)	1.8	1052.9	177.8	175.8	1408.3

(キ) 水生生物類型の検討

- ・水生生物の保全に関する項目については、これまで環境基準点である大津川下流において全亜鉛を年 2 回測定している。平成 22 年度から平成 27 年度の年平均値は 0.011~0.022mg/L(環境基準値 0.03mg/L)であり、環境基準値を下回っている。ノニルフェノール及び L A S の測定は行っていない。
- ・水生生物調査結果によるとギンブナ、モツゴ、チチブ、ゴクラクハゼ等の魚種が確認されている。生物 A 類型に対応する魚種は確認されていない。

(ク) 結論

大津川下流の水質、利用形態、発生源の状況等を検証した結果、C類型の環境基準値を十分下回る水質であり、また各種発生源からの負荷については、生活排水対策等の取組の進展により減少するものと見込まれる。

水生生物類型については、全亜鉛の調査結果及び水生生物調査結果から、生物B類型相当と考えられる。

以上から、今後も生活排水対策や事業場の排水規制・指導を推進し、水質の維持あるいは向上を図るために、当該水域をDイ類型からCイ類型へ改定し、水生生物類型については生物Bイに新規指定することが適切と考えられる。

(3) その他

①安威川下流(1)及び安威川下流(2)の類型範囲の統合

(ア) 安威川下流(1)及び安威川下流(2)の概要

神崎川水系（水系として目指すべき類型はB類型）の河川水域であり、類型範囲等は以下のとおりである。

	安威川下流(1)	安威川下流(2)
類型範囲	茨木市取水口から戸伏まで	戸伏から大正川合流点まで
環境基準点	千歳橋	宮鳥橋
現在の類型	BOD等:Aイ、 水生生物:生物Bイ	BOD等:Aイ、 水生生物:生物Bイ

(イ) 類型範囲統合の主旨

- ・安威川下流(1)と安威川下流(2)は、戸伏浄水場の上流と下流で類型範囲を区分していたが、平成14年度末に戸伏浄水場が廃止された。流域では農業用水としての利水が行われている。
- ・昭和45年度の当初指定時は安威川下流(1)がBハ類型、安威川下流(2)がDハ類型であったが、その後の改定を経て現在はいずれもBOD等はAイ類型、水生生物類型はBイ類型である。
- ・BOD75%値は、千歳橋では0.8~1.3mg/L、宮鳥橋では1.0~1.5mg/Lであり、いずれの地点も現在のA類型の環境基準を十分達成している。
- ・平成22年度から平成27年度までのBOD年平均值は、千歳橋では0.9~1.3mg/L、宮鳥橋でも0.9~1.3mg/Lである。なお、過去10年間（平成18年度~平成27年度）における千歳橋と塚脇橋のBOD年平均值を比較すると、2地点の差は0.0~0.3mg/Lである。
- ・過去5年間（平成23年度~平成27年度）、茨木市が測定した計44回（千歳橋では平成26年度からBODの測定回数を効率化し、測定回数は年4回）の調査結果を比較したところ、うち38回は2地点の差が0.3mg/L以内であった。6回で2地点の差が0.3mg/Lを超えたが、要因は流量が少なかったことや降雨等による影響と考えられる。BODの測定回数が年4回となって以降も、2地点の差は0.0~0.3mg/Lであり、両地点の値に差はほとんどない。
- ・以上のとおり、安威川下流(1)と安威川下流(2)の水質はほぼ同等であり、農業用利水の状況についても、安威川下流(1)と安威川下流(2)で差はないため、類型範囲を統合して「(仮称)安威川下流」とする。また、水

質を評価する地点としては、最下流で十分であると考えられるため、環境基準点を最下流の「宮鳥橋」に設定する。「千歳橋」については、下流で農業用水として利水されており、引き続きこの地点における水質の状況を把握する必要があることから、準基準点に設定する。

表 27 千歳橋及び宮鳥橋におけるBOD濃度及び流量

	H23年度						H24年度						H25年度						H26年度						H27年度					
	BOD濃度 [mg/L]			流量 [m ³ /s]			BOD濃度 [mg/L]			流量 [m ³ /s]			BOD濃度 [mg/L]			流量 [m ³ /s]			BOD濃度 [mg/L]			流量 [m ³ /s]			BOD濃度 [mg/L]			流量 [m ³ /s]		
	千歳橋	宮鳥橋	差	千歳橋	宮鳥橋	差	千歳橋	宮鳥橋	差	千歳橋	宮鳥橋	差	千歳橋	宮鳥橋	差	千歳橋	宮鳥橋	差	千歳橋	宮鳥橋	差	千歳橋	宮鳥橋	差	千歳橋	宮鳥橋	差	千歳橋	宮鳥橋	差
4月	1.4	2.0	0.6				1.0	0.8	0.2				0.7	0.8	0.1				1.2	—				1.0	—					
5月	0.6	0.6	0.0	1.52	1.47		0.7	0.8	0.1	0.41	0.20		1.1	1.6	0.5	0.16	0.13		1.7	1.6	0.1	0.33	0.19	0.6	0.8	0.2	0.35	0.34		
6月	0.7	0.7	0.0				1.3	2.0	0.7				1.6	2.0	0.4				1.7	—				1.5	—					
7月	0.9	0.6	0.3	0.61	0.57		0.5	0.7	0.2	2.40	2.71		0.6	0.6	0.0	0.47	0.42		1.5	—				1.0	—					
8月	0.9	1.1	0.2	0.20	0.17		0.9	1.0	0.1	0.38	0.30		1.6	2.7	1.1	<0.01	<0.01		1.0	0.8	0.2	1.95	2.20	1.3	1.0	0.3	1.13	1.87		
9月	0.5	0.6	0.1				0.7	0.7	0.0				0.9	0.8	0.1				2.1	—				1.4	—					
10月	0.7	0.6	0.1				0.5	0.5	0.0				1.1	1.0	0.1				0.8	—				1.0	—					
11月	0.8	0.8	0.0	1.05	0.87		0.5	0.7	0.2	1.35	1.44		0.5	0.5	0.0	1.16	1.37		1.1	1.1	0.0	0.58	0.64	0.7	0.8	0.1	0.75	1.24		
12月	1.3	1.2	0.1				1.2	1.2	0.0				0.5	0.6	0.1				0.7	—				0.6	—					
1月	1.3	1.1	0.2	0.25	0.16		0.7	0.5	0.2	0.85	0.78		0.8	0.9	0.1	0.63	0.56		1.4	—				0.7	—					
2月	1.4	1.3	0.1	1.77	2.01		1.0	1.2	0.2	1.30	0.96		0.7	0.9	0.2	0.48	0.43		1.2	1.4	0.2	0.99	1.08	0.8	0.5	0.3	1.36	0.80		
3月	0.5	0.6	0.1				1.6	1.4	0.2				0.9	1.4	0.5				0.7	—				0.5	—					

8. まとめ

河川水質環境基準に係る類型については、表 28 に示すとおり、新規指定及び上位類型への改定等を行うことが適当である。なお、類型別の河川水域数は表 29 に示すとおりである。

表 28 河川水質環境基準に係る類型指定案

①<新規指定> 1 河川水域を新たに類型指定する。

水系	河川水域名	範囲	類型指定案	
			BOD等5項目	水生生物項目
神崎川水系	天竺川	全域	Bイ	生物Bイ

②<上位類型への改定> 8 河川水域について、BOD等5項目の類型をより上位の類型に改定する。このうち、D類型からC類型へ改定する恩智川、大津川下流については、新たに水生生物類型を指定する。

水系	河川水域名	範囲	類型改定案	
			BOD等5項目	水生生物項目
淀川水系	芥川(1)	京都府界から塚脇橋まで	AイからAAイへ改定	生物Aイ(改定なし)
神崎川水系	箕面川(1)	箕面市取水口より上流	AイからAAイへ改定	生物Aイ(改定なし)
寝屋川水系	寝屋川(1)	住道大橋より上流	CイからBイへ改定	生物Bロ(改定なし)
	恩智川	全域	DイからCロへ改定	生物Bロ
大和川水系	石見川	全域	AイからAAイへ改定	生物Aイ(改定なし)
	天見川	全域	BイからAイへ改定	生物Bイ(改定なし)
	佐備川	全域	CイからBイへ改定	生物Bイ(改定なし)
泉州諸河川	大津川下流	泉大津市高津取水口より下流	DイからCイへ改定	生物Bイ

③<類型範囲の統合> 神崎川水系の安威川下流(1)と安威川下流(2)は、類型範囲を統合する。

	河川水域名	範囲	BOD等5項目の 類型	水生生物項目の類型
現行	安威川下流(1)	茨木市取水口から戸伏まで	Aイ	生物Bイ
	安威川下流(2)	戸伏から大正川合流点まで	Aイ	生物Bイ
統合案	(仮称)安威川下流	茨木市取水口から 大正川合流点まで	Aイ(改定なし)	生物Bイ(改定なし)

表 29 類型別の指定水域数

①<BOD等5項目>

類型	現行	指定・改定案
A A	0	3
A	29	26
B	27	29
C	8	8
D	13	11
E	4	4
全類型	81	81

②<水生生物の保全等に関する3項目>

類型	現行	指定・改定案
生物A	9	9
生物B	54	56
全類型	63	65

※生物特A、生物特Bの指定水域なし

おわりに

本部会では計4回の審議を行い、府内の河川水域の利用の状況及び水質等の状況を踏まえ、類型指定の基本的な考え方を示し、この考え方に沿って新規指定及び上位類型への改定を検討すべき河川水域を抽出した。抽出した個々の河川水域について、さらに月別のBOD濃度の推移等の水質の状況、流域の利用形態及び発生源の状況等を詳細に検証し、1河川水域について新規指定を行うとともに、8河川水域について上位類型への改定を行うことが適当であるとの結論を得た。また、上下流で類型範囲が2つに分割されている河川水域について、近年の水質や利用の状況から、類型範囲を統合することが適当であると判断した。

とりわけ、今回の見直しの検討では、A類型の環境基準達成率が100%となったことを踏まえ、AA類型の水質を十分に満たし、自然探勝の場としての利用がなされている水域については、AA類型に改定するとの基本的な考え方を打ち出し、3河川水域について、大阪府域で初めてとなるAA類型の指定を行うことが適当であると考えられるものである。

AA類型の指定により、当該3河川水域において、大阪府と地元市町村等の関係機関がより一層連携を深め、積極的に水質の維持・向上を図るなど、河川環境保全に係る様々な取組を継続・発展させていくことが望ましい。

さらには、当該3河川水域における取組を先進的な事例として、府内の他の河川水域に波及させていくことも重要である。AA類型指定の趣旨や個別の河川水域の特徴的な利用状況等について、積極的に府民への情報発信等を行うことにより、他の河川における取組の参考となり、さらには、幅広く府民の河川への関心が高まり、ひいては府内河川全体の水質保全の取組の進展に寄与することを期待するものである。

大阪府においては、上述の内容を踏まえて、河川水質環境基準に係る類型指定について適切に見直しを実施し、河川水質保全の取組をより一層推進されたい。

今回は、今後概ね5年間の目標となる類型・達成期間について検討を行ったものであり、これらの類型は、各河川水域の利用状況や水質の状況等の変化に対応したものであることが望ましいことから、今後も、適切に水質の常時監視を継続し、その結果を踏まえ、適宜、見直しの検討を行うことが望ましい。

また、水生生物保全の観点から、類型指定の見直しの検討を行うため、全亜鉛等の水生生物の保全に関する項目の測定に加え、魚類の生息状況を継続的にモニタリングしていくことが不可欠である。今回の検討にあたって、最新の調査分を含めてとりまとめた府内河川に生息している魚類の調査結果を確認

したところであり、今後も、こうしたデータの更新・集積に努めることを期待する。

最後に、府内の個別の河川水域について見ると、A A 類型の指定が可能となる状況がある一方、類型指定の基本的な考え方において、「全水域 C 類型以上」を目指すとしているものの、今回の見直し後も D 類型、E 類型の河川水域が残存しており、また、B 類型、C 類型に指定した河川水域でも環境基準を達成していない河川水域がある。こうした状況を踏まえ、さらに水質の改善が図られるよう、関係機関が連携し、生活排水対策や事業場の排水規制・指導を着実に推進するよう期待する。

《資料》

- 1 月別のBOD濃度、流量及びBOD汚濁負荷量の詳細データ . . . 資1
- 2 大阪府内河川に生息している魚類 . . . 資2

月別のBOD濃度、流量及びBOD汚濁負荷量の詳細データ

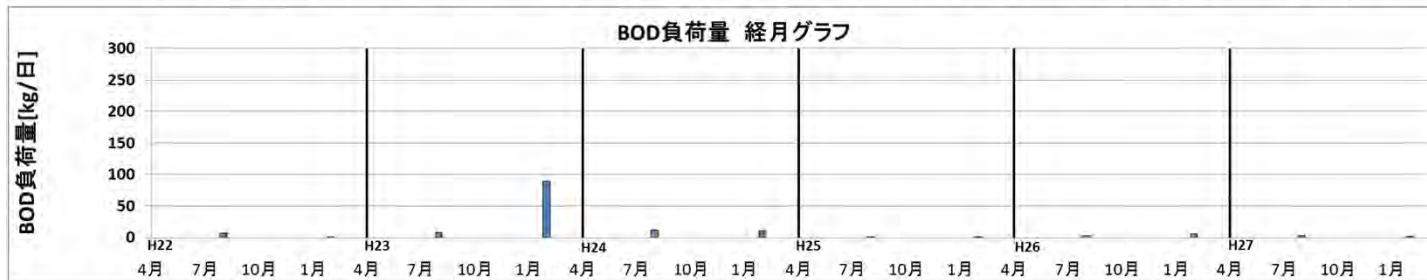
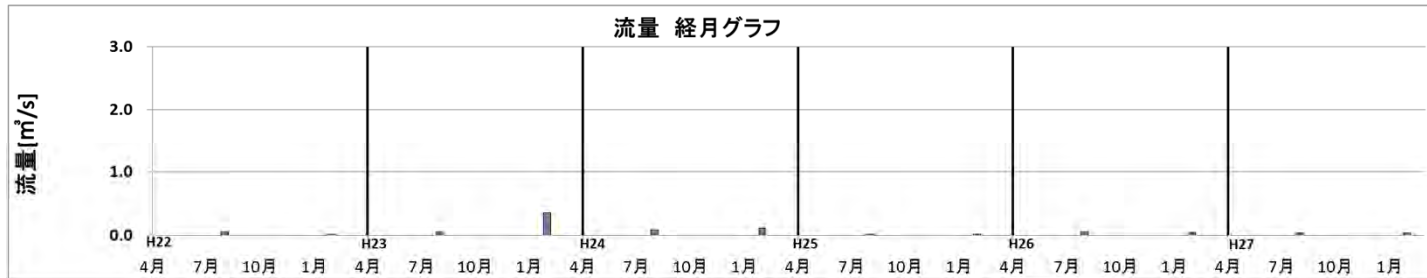
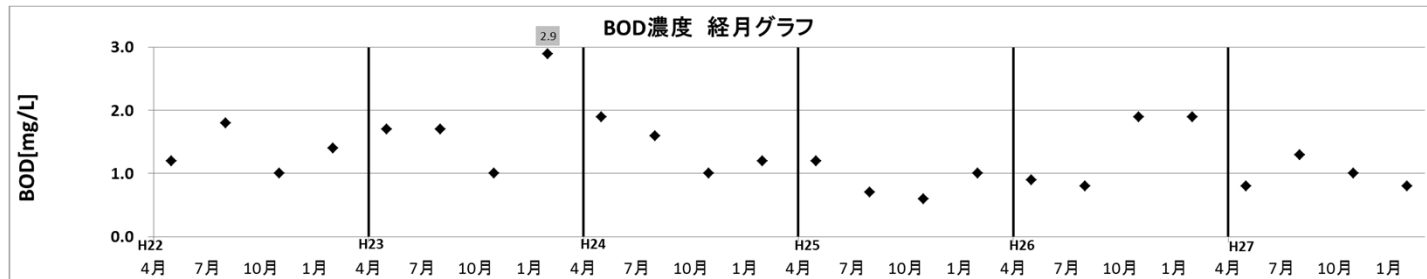
【新規指定】天竺川 測定地点名:神崎川合流直前【準基準点】

BOD濃度、流量及びBOD汚濁負荷量の月別データ

	H22年度			H23年度			H24年度			H25年度			H26年度			H27年度(速報値)			
	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	
月平均(※1)	4月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	5月	1.2	—	—	1.7	—	—	1.9	—	—	1.2	—	—	0.9	—	—	0.8	—	
	6月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	7月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	8月	1.8	0.05	7.8	1.7	0.06	8.8	1.6	0.09	12.4	0.7	0.02	1.2	0.8	0.05	3.5	1.3	0.03	3.4
	9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	10月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	11月	1.0	—	—	1.0	—	—	1.0	—	—	0.6	—	—	1.9	—	—	1.0	—	—
	12月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	1月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2月	1.4	0.01	1.2	2.9	0.36	90.2	1.2	0.11	11.4	1.0	0.02	1.7	1.9	0.04	6.6	0.8	0.03	2.1
	3月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	年平均(※2)	1.4	0.03	4.5	1.8	0.21	49.5	1.4	0.10	11.9	0.9	0.02	1.5	1.4	0.05	5.0	1.0	0.03	2.7

※1: 流量については各月の調査にて複数回測定を行っていることから、それらの平均値を月平均とした。

※2: 年間における全測定値の平均から年平均値を算出した。



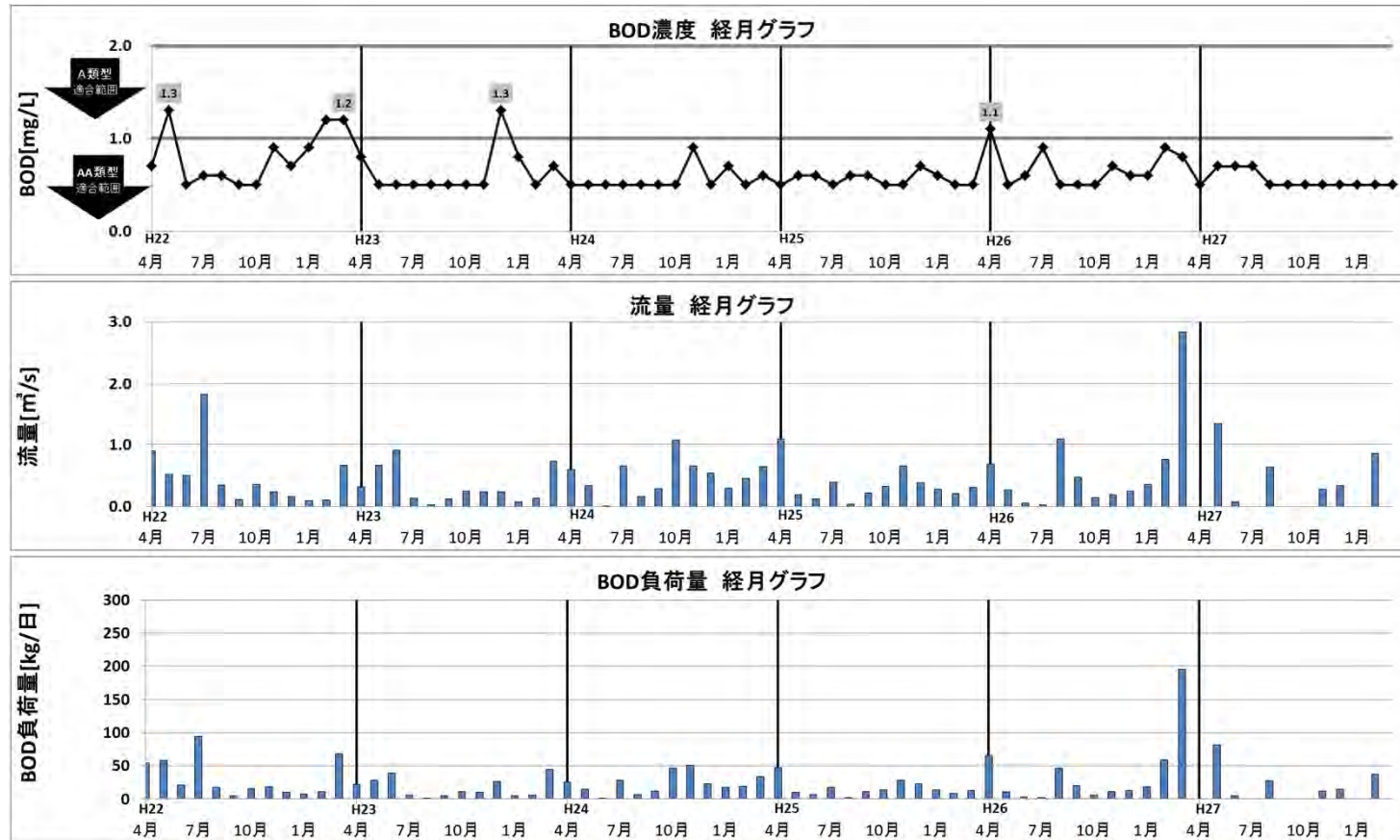
【上位類型への改定】① 芥川(1) 測定地点名: 塚脇橋 【環境基準点】

BOD濃度、流量及びBOD汚濁負荷量の月別データ

	H22年度			H23年度			H24年度			H25年度			H26年度			H27年度(速報値)			
	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	
月平均(※1)	4月	0.7	0.90	54.4	0.8	0.32	22.1	0.5	0.60	25.9	< 0.5	1.10	47.5	1.1	0.69	65.6	0.5	—	0.0
	5月	1.3	0.52	58.4	< 0.5	0.67	28.9	< 0.5	0.34	14.7	0.6	0.19	9.8	< 0.5	0.27	11.7	0.7	1.35	81.6
	6月	< 0.5	0.50	21.6	< 0.5	0.91	39.3	< 0.5	0.01	0.4	0.6	0.13	6.7	0.6	0.05	2.6	0.7	0.08	4.8
	7月	0.6	1.83	94.9	< 0.5	0.14	6.0	< 0.5	0.65	28.1	0.5	0.40	17.3	0.9	0.03	2.3	0.7	—	0.0
	8月	0.6	0.35	18.1	< 0.5	0.03	1.3	< 0.5	0.16	6.9	0.6	0.04	2.1	< 0.5	1.09	47.1	0.5	0.64	27.6
	9月	< 0.5	0.11	4.8	< 0.5	0.12	5.2	< 0.5	0.29	12.5	0.6	0.22	11.4	< 0.5	0.47	20.3	0.5	—	0.0
	10月	< 0.5	0.36	15.6	< 0.5	0.25	10.8	< 0.5	1.08	46.7	0.5	0.33	14.3	0.5	0.14	6.0	< 0.5	—	0.0
	11月	0.9	0.24	18.7	0.5	0.24	10.4	0.9	0.65	50.5	< 0.5	0.66	28.5	0.7	0.19	11.5	0.5	0.28	12.1
	12月	0.7	0.17	10.3	1.3	0.24	27.0	< 0.5	0.54	23.3	0.7	0.38	23.0	0.6	0.25	13.0	0.5	0.34	14.7
	1月	0.9	0.09	7.0	0.8	0.07	4.8	0.7	0.30	18.1	0.6	0.28	14.5	0.6	0.35	18.1	< 0.5	—	0.0
	2月	1.2	0.11	11.4	< 0.5	0.13	5.6	0.5	0.45	19.4	0.5	0.21	9.1	0.9	0.77	59.9	< 0.5	0.86	37.2
	3月	1.2	0.66	68.4	0.7	0.73	44.2	0.6	0.65	33.7	0.5	0.31	13.4	0.8	2.84	196.3	< 0.5	—	0.0
年平均(※2)	0.8	0.49	32.0	0.6	0.32	17.1	0.6	0.48	23.4	0.6	0.35	16.5	0.7	0.59	37.9	0.6	0.59	14.8	

※1: 流量については各月の調査にて複数回測定を行っていることから、それらの平均値を月平均とした。

※2: 年間における全測定値の平均から年平均値を算出した。



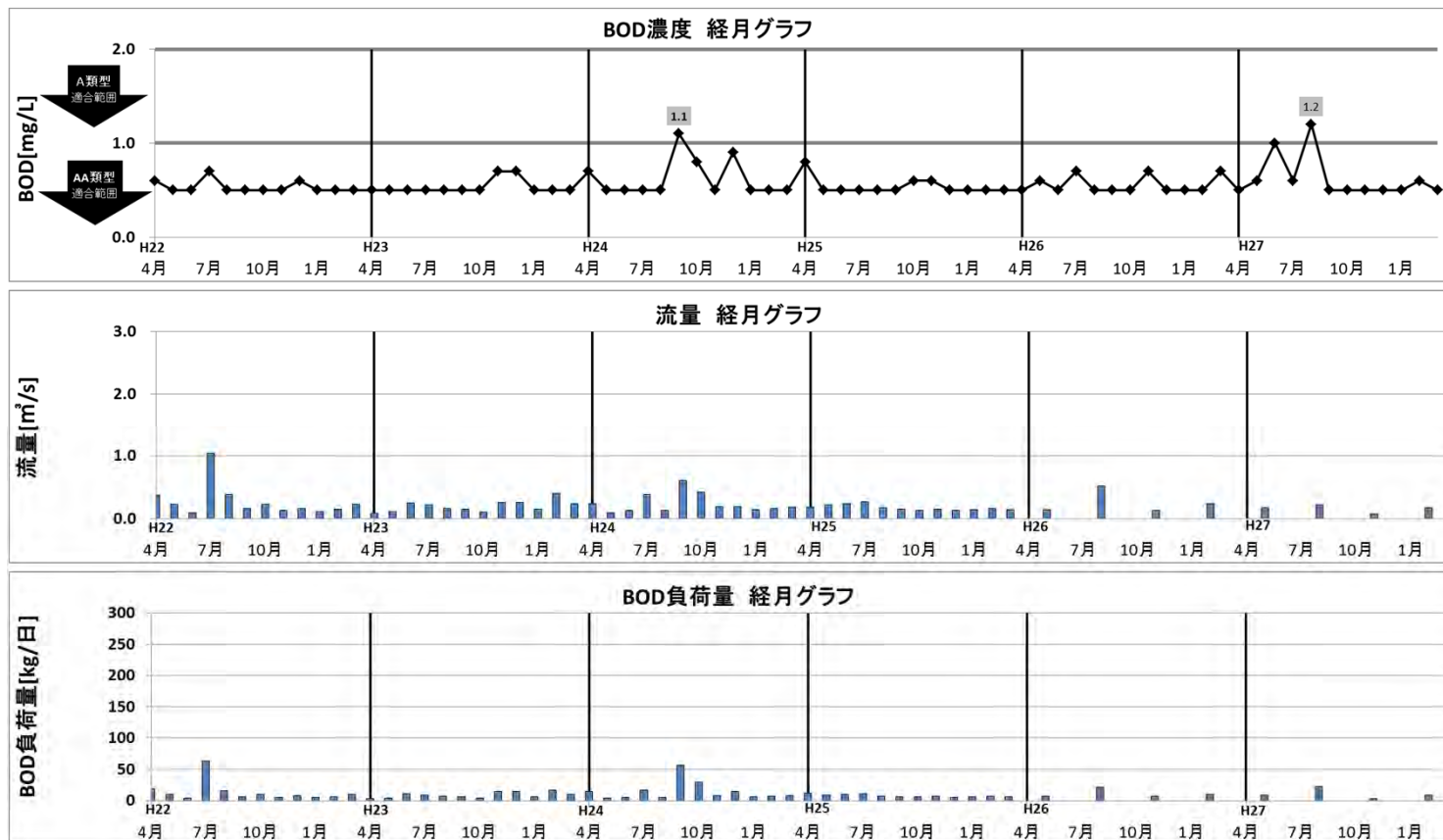
② 箕面川(1) 測定地点名:箕面市取水口【環境基準点】

BOD濃度、流量及びBOD汚濁負荷量の月別データ

	H22年度			H23年度			H24年度			H25年度			H26年度			H27年度(速報値)			
	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	
月平均(※1)	4月	0.6	0.37	19.2	< 0.5	0.08	3.5	0.7	0.24	14.5	0.8	0.18	12.4	0.5	—	—	0.5	—	—
	5月	0.5	0.23	9.9	< 0.5	0.11	4.8	< 0.5	0.09	3.9	< 0.5	0.22	9.5	0.6	0.14	7.3	0.6	0.18	9.3
	6月	< 0.5	0.10	4.3	< 0.5	0.25	10.8	< 0.5	0.13	5.6	< 0.5	0.24	10.4	< 0.5	—	—	1.0	—	—
	7月	0.7	1.05	63.5	< 0.5	0.22	9.5	< 0.5	0.39	16.8	0.5	0.27	11.7	0.7	—	—	0.6	—	—
	8月	0.5	0.38	16.4	< 0.5	0.16	6.9	< 0.5	0.13	5.6	< 0.5	0.17	7.3	< 0.5	0.52	22.5	1.2	0.22	22.8
	9月	< 0.5	0.16	6.9	< 0.5	0.15	6.5	1.1	0.60	57.0	< 0.5	0.15	6.5	< 0.5	—	—	0.5	—	—
	10月	< 0.5	0.23	9.9	< 0.5	0.11	4.8	0.8	0.43	29.7	0.6	0.13	6.7	0.5	—	—	0.5	—	—
	11月	0.5	0.14	6.0	0.7	0.26	15.7	< 0.5	0.19	8.2	0.6	0.15	7.8	0.7	0.13	7.9	< 0.5	0.07	3.0
	12月	0.6	0.17	8.8	0.7	0.26	15.7	0.9	0.19	14.8	0.5	0.14	6.0	< 0.5	—	—	0.5	—	—
	1月	< 0.5	0.12	5.2	< 0.5	0.15	6.5	< 0.5	0.15	6.5	< 0.5	0.15	6.5	0.5	—	—	< 0.5	—	—
	2月	< 0.5	0.16	6.9	< 0.5	0.40	17.3	< 0.5	0.17	7.3	< 0.5	0.16	6.9	0.5	0.24	10.4	0.6	0.18	9.3
	3月	< 0.5	0.23	9.9	< 0.5	0.24	10.4	0.5	0.18	7.8	< 0.5	0.14	6.0	0.7	—	—	< 0.5	—	—
年平均(※2)	0.5	0.28	13.9	0.5	0.20	9.4	0.6	0.24	14.8	0.5	0.17	8.2	0.6	0.26	12.0	0.6	0.16	11.1	

※1: 流量については各月の調査にて複数回測定を行っていることから、それらの平均値を月平均とした。

※2: 年間における全測定値の平均から年平均値を算出した。



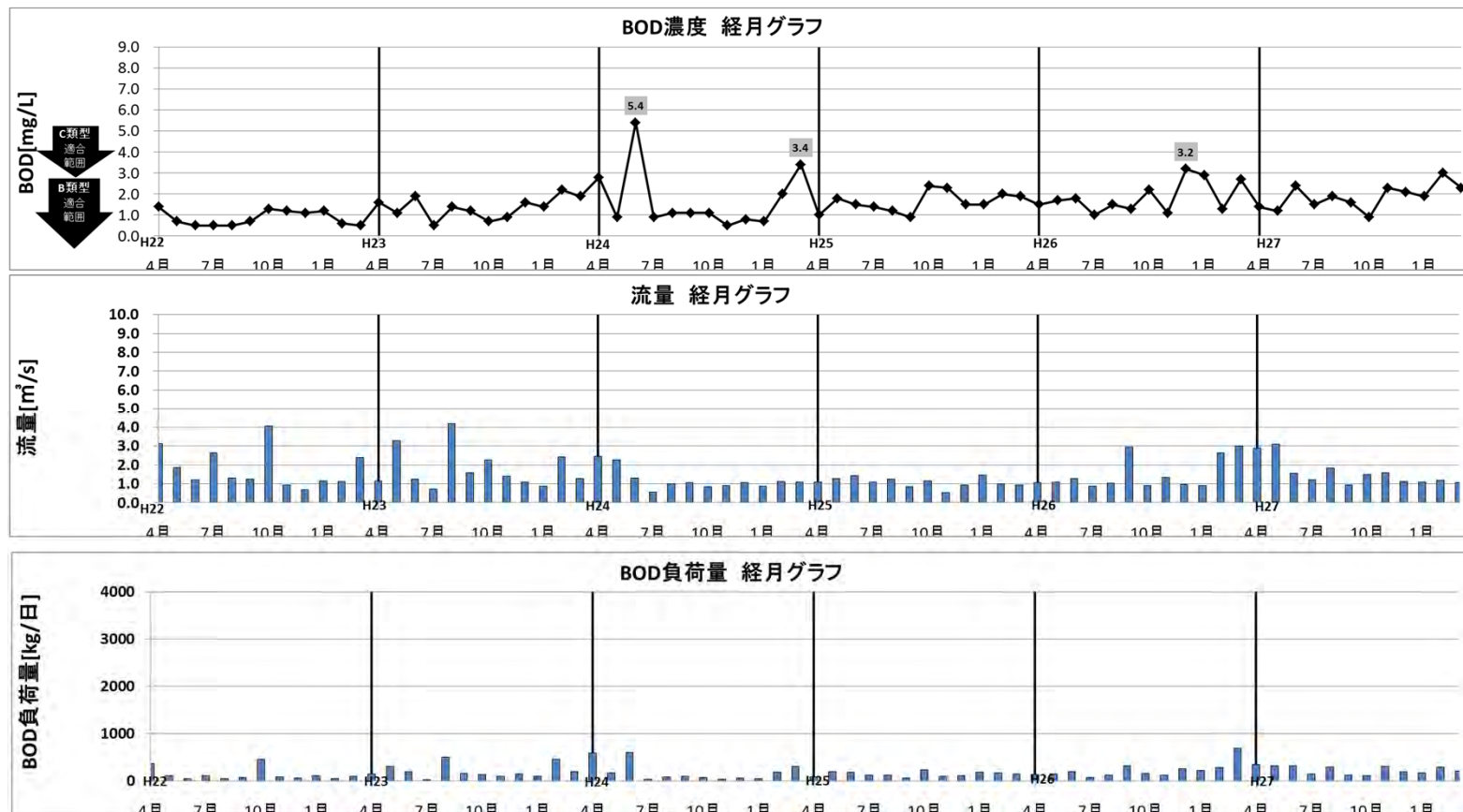
③-1 寝屋川(1) 測定地点名: 萱島橋 【環境基準点】

BOD濃度、流量及びBOD汚濁負荷量の月別データ

	H22年度			H23年度			H24年度			H25年度			H26年度			H27年度(速報値)			
	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	
月平均(※1)	4月	1.4	3.14	379.8	1.6	1.16	160.4	2.8	2.47	597.5	1.0	1.08	93.3	1.5	1.05	136.1	1.4	2.87	347.2
	5月	0.7	1.86	112.5	1.1	3.29	312.7	0.9	2.27	176.5	1.8	1.28	199.1	1.7	1.08	158.6	1.2	3.11	322.4
	6月	< 0.5	1.22	52.7	1.9	1.24	203.6	5.4	1.32	615.9	1.5	1.43	185.3	1.8	1.29	200.6	2.4	1.56	323.5
	7月	< 0.5	2.65	114.5	< 0.5	0.72	31.1	0.9	0.56	43.5	1.4	1.10	133.1	1.0	0.88	76.0	1.5	1.21	156.8
	8月	0.5	1.30	56.2	1.4	4.18	505.6	1.1	1.00	95.0	1.2	1.25	129.6	1.5	1.02	132.2	1.9	1.84	302.1
	9月	0.7	1.26	76.2	1.2	1.59	164.9	1.1	1.07	101.7	0.9	0.85	66.1	1.3	2.95	331.3	1.6	0.94	129.9
	10月	1.3	4.07	457.1	0.7	2.26	136.7	1.1	0.85	80.8	2.4	1.14	236.4	2.2	0.91	173.0	0.9	1.50	116.6
	11月	1.2	0.93	96.4	0.9	1.41	109.6	0.5	0.90	38.9	2.3	0.55	109.3	1.1	1.35	128.3	2.3	1.58	314.0
	12月	1.1	0.70	66.5	1.6	1.11	153.4	0.8	1.07	74.0	1.5	0.93	120.5	3.2	0.97	268.2	2.1	1.13	205.0
	1月	1.2	1.15	119.2	1.4	0.88	106.4	0.7	0.89	53.8	1.5	1.46	189.2	2.9	0.90	225.5	1.9	1.09	178.9
	2月	0.6	1.12	58.1	2.2	2.42	460.0	2.0	1.13	195.3	2.0	1.01	174.5	1.3	2.63	295.4	3.0	1.18	305.9
	3月	< 0.5	2.38	102.8	1.9	1.27	208.5	3.4	1.09	320.2	1.9	0.95	156.0	2.7	3.00	699.8	2.3	1.07	212.6
年平均(※2)	0.9	1.81	141.0	1.4	1.79	212.7	1.7	1.22	199.4	1.6	1.09	149.4	1.9	1.50	235.4	1.9	1.59	242.9	

※1: 流量については各月の調査にて複数回測定を行っていることから、それらの平均値を月平均とした。

※2: 年間における全測定値の平均から年平均値を算出した。



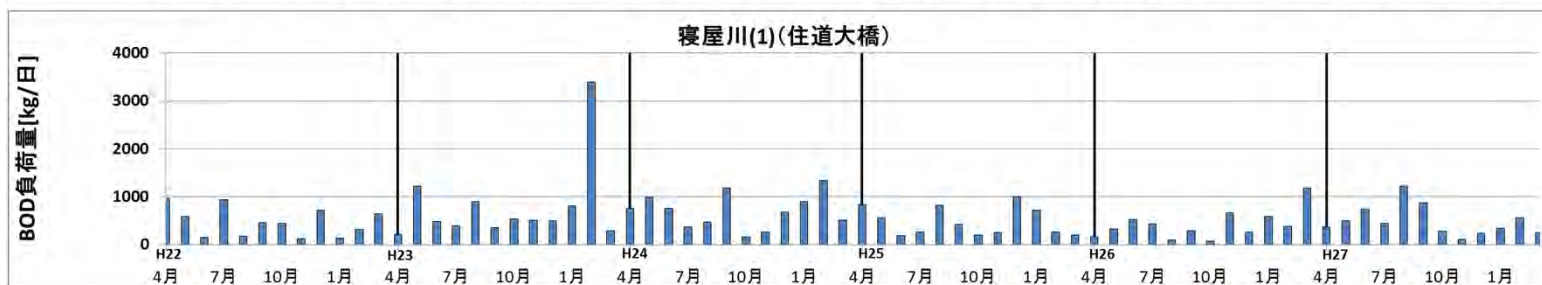
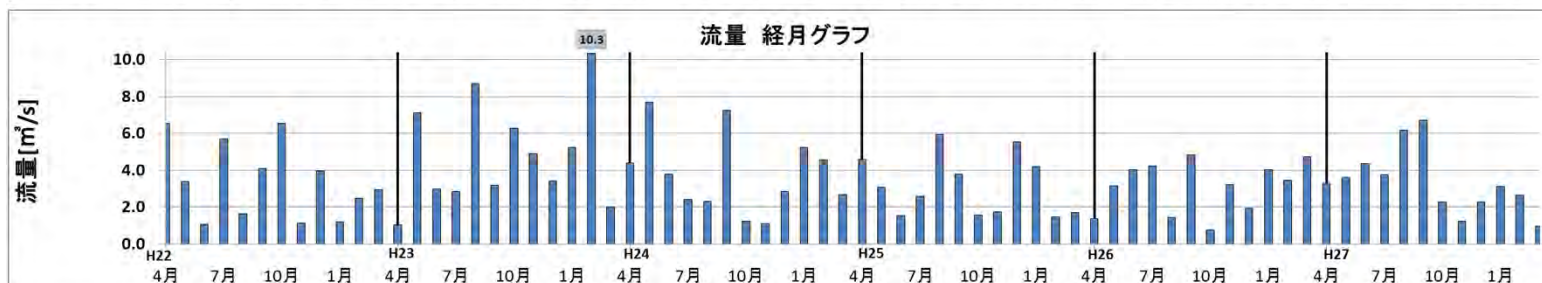
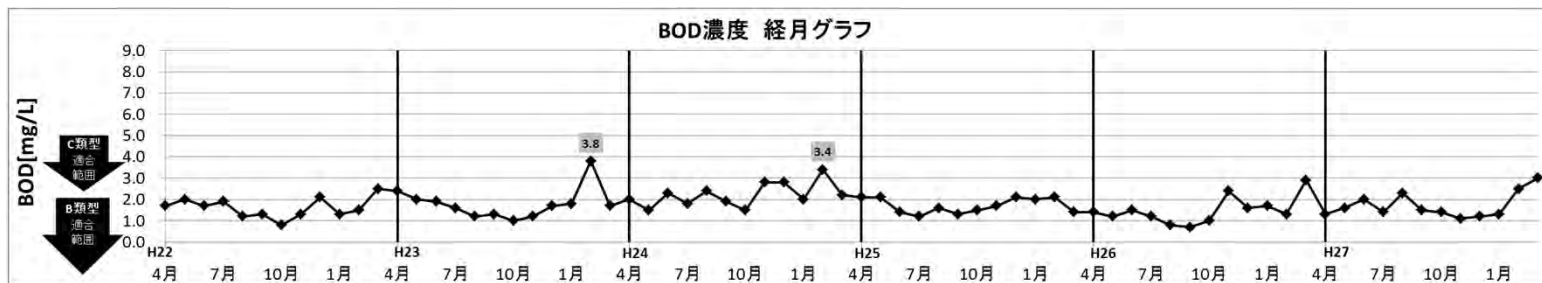
③-2 寝屋川(1) 測定地点名:住道大橋【環境基準点】

BOD濃度、流量及びBOD汚濁負荷量の月別データ

	H22年度			H23年度			H24年度			H25年度			H26年度			H27年度(速報値)			
	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	
月平均(※1)	4月	1.7	6.53	959.1	2.4	1.04	215.7	2.0	4.41	762.0	2.1	4.59	832.8	1.4	1.37	165.7	1.3	3.29	369.5
	5月	2.0	3.39	585.8	2.0	7.11	1228.6	1.5	7.69	996.6	2.1	3.07	557.0	1.2	3.13	324.5	1.6	3.59	496.3
	6月	1.7	1.05	154.2	1.9	2.99	490.8	2.3	3.79	753.1	1.4	1.52	183.9	1.5	4.01	519.7	2.0	4.35	751.7
	7月	1.9	5.71	937.4	1.6	2.84	392.6	1.8	2.40	373.2	1.2	2.59	268.5	1.2	4.23	438.6	1.4	3.74	452.4
	8月	1.2	1.64	170.0	1.2	8.68	899.9	2.4	2.31	479.0	1.6	5.95	822.5	0.8	1.43	98.8	2.3	6.18	1228.1
	9月	1.3	4.08	458.3	1.3	3.17	356.1	1.9	7.25	1190.2	1.3	3.77	423.4	0.7	4.81	290.9	1.5	6.71	869.6
	10月	0.8	6.53	451.4	1.0	6.29	543.5	1.5	1.22	158.1	1.5	1.57	203.5	1.0	0.76	65.7	1.4	2.26	273.4
	11月	1.3	1.12	125.8	1.2	4.91	509.1	2.8	1.11	268.5	1.7	1.72	252.6	2.4	3.21	665.6	1.1	1.23	116.9
	12月	2.1	3.96	718.5	1.7	3.42	502.3	2.8	2.83	684.6	2.1	5.55	1007.0	1.6	1.94	268.2	1.2	2.28	236.4
	1月	1.3	1.21	135.9	1.8	5.22	811.8	2.0	5.22	902.0	2.0	4.19	724.0	1.7	4.02	590.5	1.3	3.11	349.3
	2月	1.5	2.48	321.4	3.8	10.35	3398.1	3.4	4.56	1339.5	2.1	1.45	263.1	1.3	3.43	385.3	2.5	2.64	570.2
	3月	2.5	2.95	637.2	1.7	2.02	296.7	2.2	2.67	507.5	1.4	1.69	204.4	2.9	4.73	1185.1	3.0	0.95	246.2
年平均(※2)	1.6	3.39	471.2	1.8	4.46	803.8	2.2	3.53	701.2	1.7	3.05	478.6	1.5	2.99	416.5	1.7	3.08	496.7	

※1: 流量については各月の調査にて複数回測定を行っていることから、それらの平均値を月平均とした。

※2: 年間における全測定値の平均から年平均値を算出した。



④-1 恩智川 測定地点名:住道新橋【環境基準点】

BOD濃度、流量及びBOD汚濁負荷量の月別データ

	H22年度			H23年度			H24年度			H25年度			H26年度			H27年度(速報値)			
	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	
月平均(※1)	4月	4.4	2.84	1079.7	4.5	0.84	326.6	3.4	3.13	919.5	3.2	3.09	854.3	2.5	2.93	632.9	2.5	1.02	220.3
	5月	5.9	3.17	1615.9	3.5	2.72	822.5	2.7	3.00	699.8	3.5	1.42	429.4	2.1	2.48	450.0	2.7	0.65	151.6
	6月	5.2	1.70	763.8	2.8	2.05	495.9	3.0	4.16	1078.3	2.3	0.80	159.0	2.6	2.00	449.3	3.5	1.94	586.7
	7月	2.8	3.19	771.7	2.0	0.77	133.1	2.3	1.72	341.8	2.6	0.22	49.4	3.3	1.52	433.4	2.3	3.44	683.6
	8月	3.7	1.75	559.4	2.6	5.17	1161.4	6.8	2.83	1662.7	2.6	2.74	615.5	2.7	1.84	429.2	2.9	4.32	1082.4
	9月	2.0	1.36	235.0	2.3	2.98	592.2	2.0	3.11	537.4	1.7	1.00	146.9	1.2	1.57	162.8	1.7	7.71	1132.4
	10月	1.7	2.28	334.9	1.8	1.77	275.3	1.9	2.38	390.7	2.2	1.45	275.6	1.7	2.37	348.1	1.6	1.72	237.8
	11月	2.3	0.62	123.2	2.1	4.33	785.6	1.7	1.57	230.6	1.5	3.36	435.5	2.8	3.29	795.9	1.5	1.24	160.7
	12月	3.2	3.00	829.4	2.5	1.08	233.3	3.3	1.42	404.9	4.3	6.36	2362.9	2.3	1.66	329.9	2.4	2.10	435.5
	1月	4.2	0.24	87.1	3.7	2.27	725.7	3.7	3.53	1128.5	2.8	2.17	525.0	2.7	1.34	312.6	2.5	1.63	352.1
	2月	5.1	1.68	740.3	6.3	5.99	3260.5	5.4	1.75	816.5	3.3	1.98	564.5	2.3	0.14	27.8	3.9	0.80	269.6
	3月	5.2	2.74	1231.0	3.8	0.69	226.5	4.4	2.04	775.5	1.9	0.54	88.6	3.5	0.64	193.5	6.3	0.56	304.8
年平均(※2)	3.8	2.08	697.6	3.2	2.21	753.2	3.4	2.58	748.8	2.7	2.10	542.2	2.5	1.76	380.4	2.8	2.06	468.1	

④-2 恩智川 測定地点名:三池橋【準基準点】

BOD濃度、流量及びBOD汚濁負荷量の月別データ

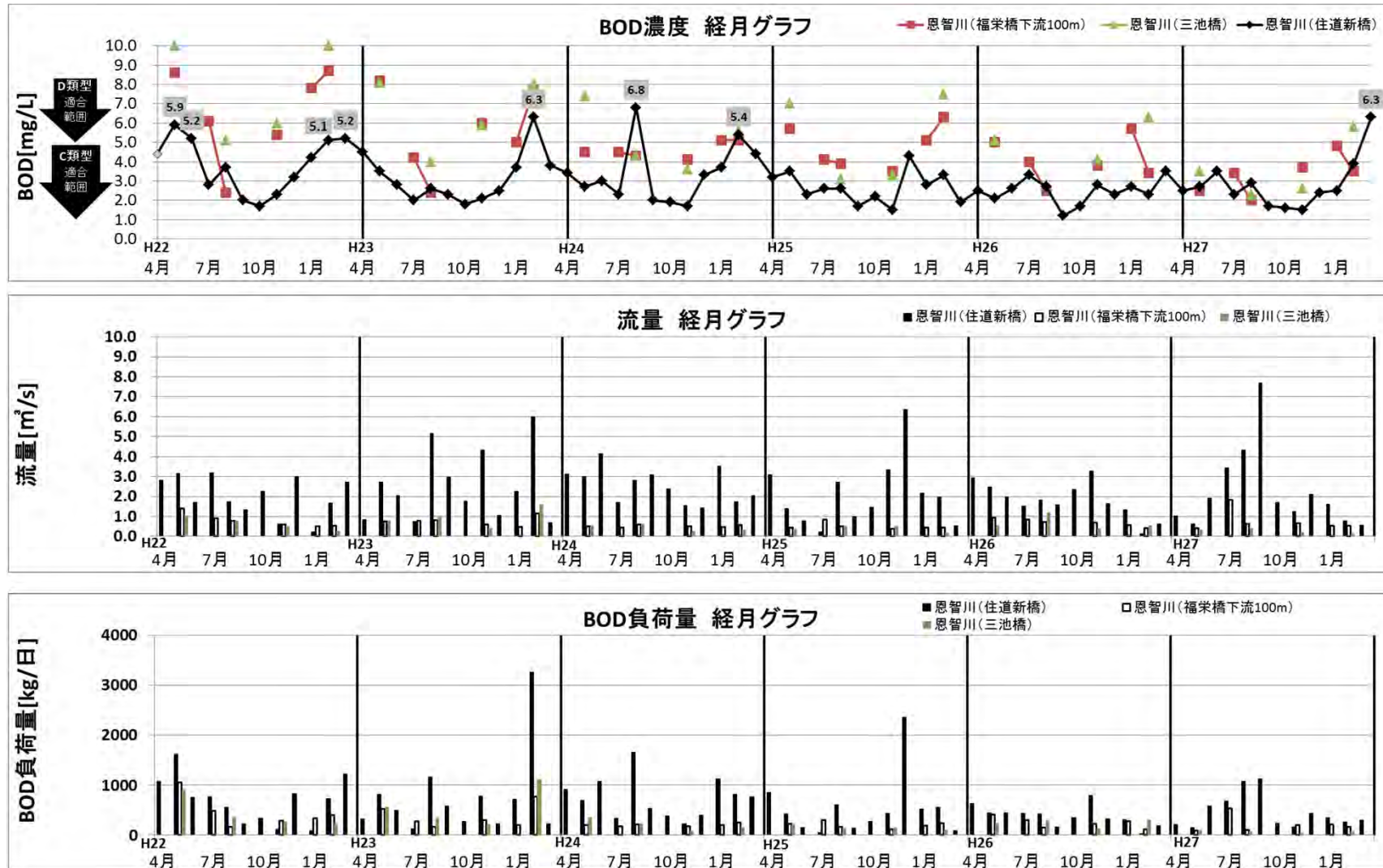
	H22年度			H23年度			H24年度			H25年度			H26年度			H27年度(速報値)				
	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]		
月平均(※1)	4月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	5月	10.0	1.06	915.8	8.1	0.80	559.9	7.4	0.57	364.4	7.0	0.37	223.8	5.1	0.57	251.2	3.5	0.34	102.8	
	6月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	7月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	8月	5.1	0.81	356.9	4.0	1.02	352.5	4.3	0.64	237.8	3.1	0.51	136.6	2.8	1.20	290.3	2.3	0.39	77.5	
	9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	10月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	11月	6.0	0.54	279.9	5.9	0.44	224.3	3.6	0.27	84.0	3.3	0.52	148.3	4.1	0.39	138.2	2.6	0.21	47.2	
	12月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	1月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2月	10.0	0.27	233.3	8.0	1.62	1119.7	5.6	0.33	159.7	7.5	0.17	110.2	6.3	0.56	304.8	5.8	0.15	75.2	
	3月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
年平均(※2)	7.8	0.67	446.5	6.5	0.97	564.1	5.2	0.45	211.5	5.2	0.39	154.7	4.6	0.68	246.1	3.6	0.27	75.7		

④-3 恩智川 測定地点名:福栄橋下流100m【準基準点】

BOD濃度、流量及びBOD汚濁負荷量の月別データ

	H22年度			H23年度			H24年度			H25年度			H26年度			H27年度(速報値)				
	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]		
月平均(※1)	4月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	5月	8.6	1.41	1047.7	8.2	0.74	524.3	4.5	0.51	198.3	5.7	0.46	226.5	5.0	0.95	410.4	2.5	0.41	88.6	
	6月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	7月	6.1	0.92	484.9	4.2	0.78	283.0	4.5	0.45	175.0	4.1	0.84	297.6	4.0	0.86	297.2	3.4	1.85	543.5	
	8月	2.4	0.80	165.9	2.4	0.82	170.0	4.3	0.59	219.2	3.9	0.50	168.5	2.5	0.73	157.7	2.0	0.63	108.9	
	9月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	10月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	11月	5.4	0.62	289.3	6.0	0.59	305.9	4.1	0.52	184.2	3.5	0.38	114.9	3.8	0.71	233.1	3.7	0.66	211.0	
	12月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	1月	7.8	0.50	337.0	5.0	0.47	203.0	5.1	0.47	207.1	5.1	0.44	193.9	5.7	0.57	280.7	4.8	0.53	219.8	
	2月	8.7	0.53	398.4	7.7	1.17	778.4	5.1	0.58	255.6	6.3	0.43	234.1	3.4	0.40	117.5	3.5	0.53	160.3	
	3月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
年平均(※2)	6.5	0.80	453.8	5.6	0.76	377.4	4.6	0.52	206.6	4.8	0.51	205.9	4.1	0.70	249.4	3.3	0.77	222.0		

④ 恩智川 測定地点名:住道新橋、三池橋、福栄橋下流100m

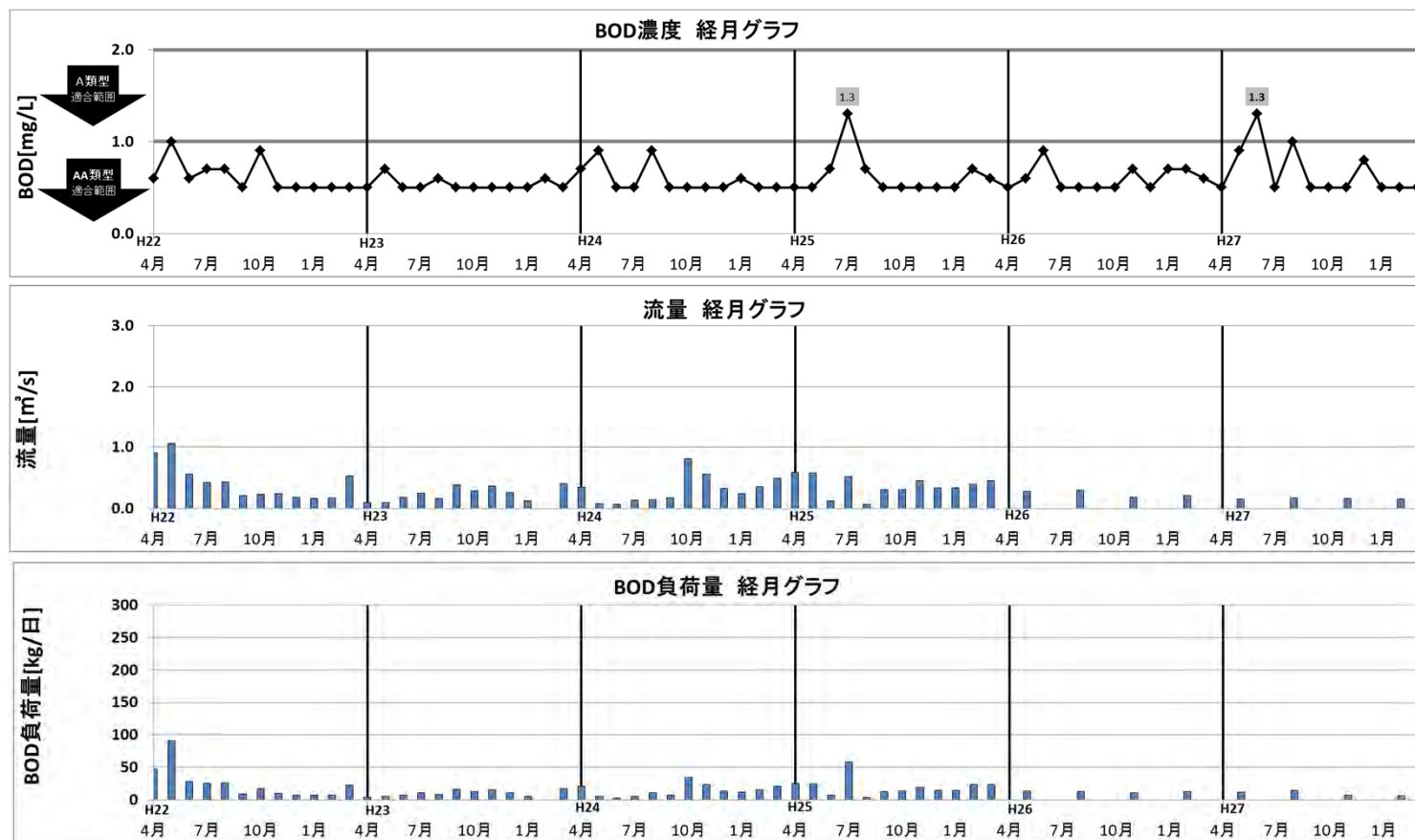


⑤ 石見川 測定地点名:新高野橋 【環境基準点】

BOD濃度、流量及びBOD汚濁負荷量の月別データ

	H22年度			H23年度			H24年度			H25年度			H26年度			H27年度(速報値)			
	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	
月平均 (※1)	4月	0.6	0.91	47.2	< 0.5	0.10	4.3	0.7	0.34	20.6	0.5	0.59	25.5	< 0.5	—	—	0.5	—	—
	5月	1.0	1.06	91.6	0.7	0.09	5.4	0.9	0.07	5.4	0.5	0.58	25.1	0.6	0.27	14.0	0.9	0.15	11.7
	6月	0.6	0.56	29.0	< 0.5	0.18	7.8	0.5	0.07	3.0	0.7	0.12	7.3	0.9	—	—	1.3	—	—
	7月	0.7	0.43	26.0	< 0.5	0.25	10.8	0.5	0.13	5.6	1.3	0.52	58.4	0.5	—	—	0.5	—	—
	8月	0.7	0.43	26.0	0.6	0.16	8.3	0.9	0.14	10.9	0.7	0.06	3.6	0.5	0.30	13.0	1.0	0.17	14.7
	9月	< 0.5	0.21	9.1	< 0.5	0.38	16.4	< 0.5	0.17	7.3	< 0.5	0.30	13.0	0.5	—	—	0.5	—	—
	10月	0.9	0.23	17.9	< 0.5	0.29	12.5	< 0.5	0.81	35.0	< 0.5	0.31	13.4	< 0.5	—	—	0.5	—	—
	11月	< 0.5	0.24	10.4	0.5	0.37	16.0	< 0.5	0.56	24.2	0.5	0.45	19.4	0.7	0.18	10.9	0.5	0.16	6.9
	12月	0.5	0.18	7.8	0.5	0.26	11.2	< 0.5	0.33	14.3	< 0.5	0.34	14.7	0.5	—	—	0.8	—	—
	1月	< 0.5	0.16	6.9	< 0.5	0.12	5.2	0.6	0.24	12.4	< 0.5	0.34	14.7	0.7	—	—	0.5	—	—
	2月	0.5	0.17	7.3	0.6	—	—	< 0.5	0.36	15.6	0.7	0.40	24.2	0.7	0.21	12.7	0.5	0.15	6.5
	3月	< 0.5	0.53	22.9	< 0.5	0.40	17.3	< 0.5	0.50	21.6	0.6	0.46	23.8	0.6	—	—	< 0.5	—	—
年平均(※2)	0.6	0.42	25.2	0.5	0.24	10.5	0.6	0.31	14.7	0.6	0.37	20.3	0.6	0.24	12.6	0.7	0.16	9.9	

※1: 流量については各月の調査にて複数回測定を行っていることから、それらの平均値を月平均とした。
 ※2: 年間における全測定値の平均から年平均値を算出した。



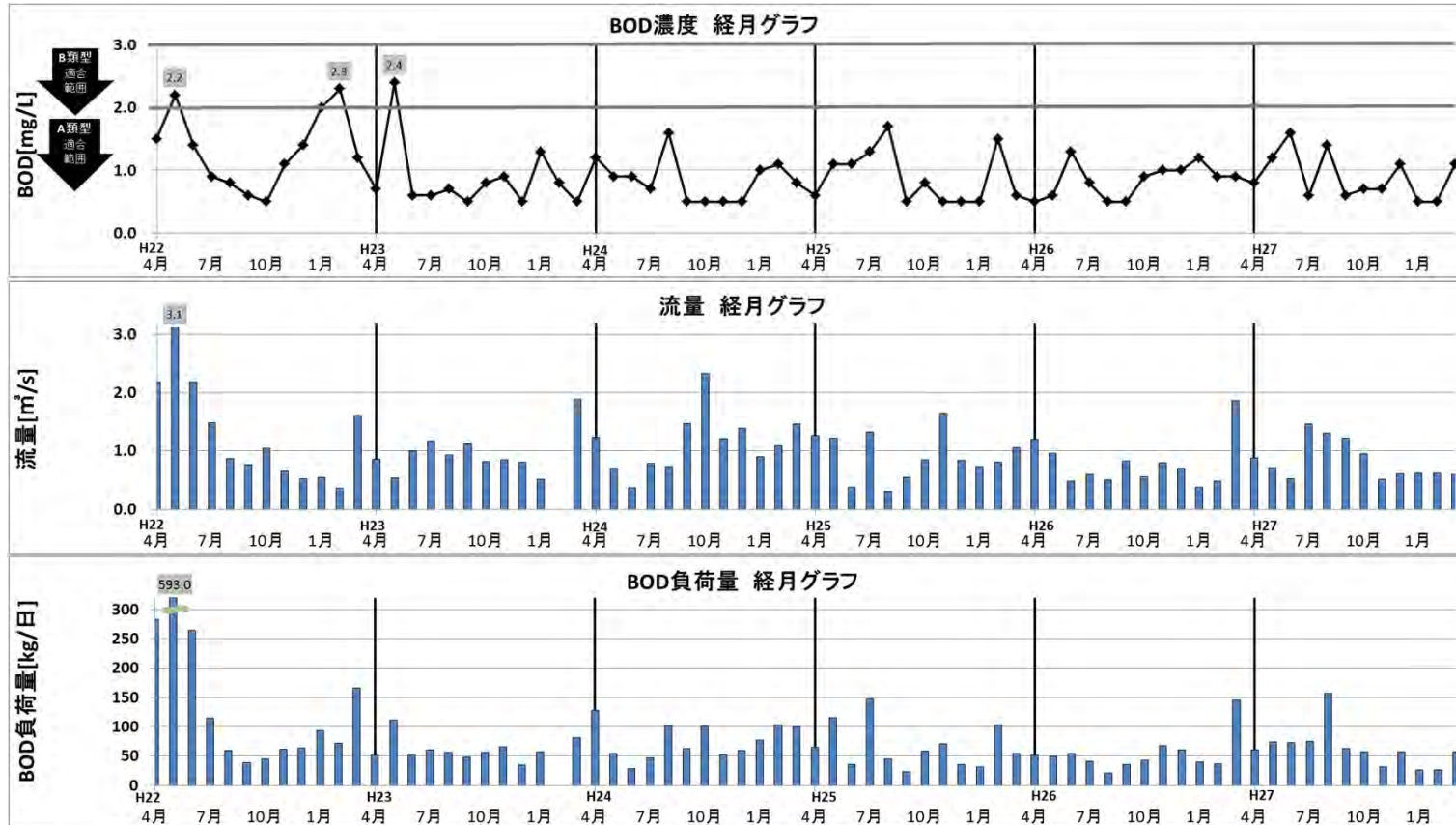
⑥ 天見川 測定地点名:新喜多橋 【環境基準点】

BOD濃度、流量及びBOD汚濁負荷量の月別データ

	H22年度			H23年度			H24年度			H25年度			H26年度			H27年度(速報値)			
	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	
月平均(※1)	4月	1.5	2.19	283.8	0.7	0.86	52.0	1.2	1.23	127.5	0.6	1.26	65.3	0.5	1.20	51.8	0.8	0.88	60.8
	5月	2.2	3.12	593.0	2.4	0.54	112.0	0.9	0.70	54.4	1.1	1.21	115.0	0.6	0.96	49.8	1.2	0.71	73.6
	6月	1.4	2.19	264.9	0.6	1.00	51.8	0.9	0.37	28.8	1.1	0.38	36.1	1.3	0.48	53.9	1.6	0.53	73.3
	7月	0.9	1.47	114.3	0.6	1.16	60.1	0.7	0.78	47.2	1.3	1.32	148.3	0.8	0.60	41.5	0.6	1.45	75.2
	8月	0.8	0.87	60.1	0.7	0.93	56.2	1.6	0.74	102.3	1.7	0.31	45.5	< 0.5	0.51	22.0	1.4	1.30	157.2
	9月	0.6	0.76	39.4	< 0.5	1.12	48.4	< 0.5	1.46	63.1	< 0.5	0.55	23.8	< 0.5	0.82	35.4	0.6	1.22	63.2
	10月	0.5	1.05	45.4	0.8	0.81	56.0	< 0.5	2.33	100.7	0.8	0.85	58.8	0.9	0.55	42.8	0.7	0.95	57.5
	11月	1.1	0.65	61.8	0.9	0.84	65.3	0.5	1.20	51.8	0.5	1.64	70.8	1.0	0.79	68.3	0.7	0.52	31.4
	12月	1.4	0.53	64.1	0.5	0.80	34.6	< 0.5	1.38	59.6	< 0.5	0.83	35.9	1.0	0.70	60.5	1.1	0.61	58.0
	1月	2.0	0.54	93.3	1.3	0.51	57.3	1.0	0.89	76.9	< 0.5	0.74	32.0	1.2	0.38	39.4	< 0.5	0.62	26.8
	2月	2.3	0.36	71.5	0.8	—	—	1.1	1.08	102.6	1.5	0.80	103.7	0.9	0.48	37.3	0.5	0.61	26.4
	3月	1.2	1.60	165.9	0.5	1.89	81.6	0.8	1.45	100.2	0.6	1.06	55.0	0.9	1.87	145.4	1.1	0.60	57.0
年平均(※2)	1.3	1.28	154.8	0.9	0.95	61.4	0.9	1.13	76.3	0.9	0.91	65.8	0.8	0.78	54.0	0.9	0.83	63.4	

※1: 流量については各月の調査にて複数回測定を行っていることから、それらの平均値を月平均とした。

※2: 年間における全測定値の平均から年平均値を算出した。

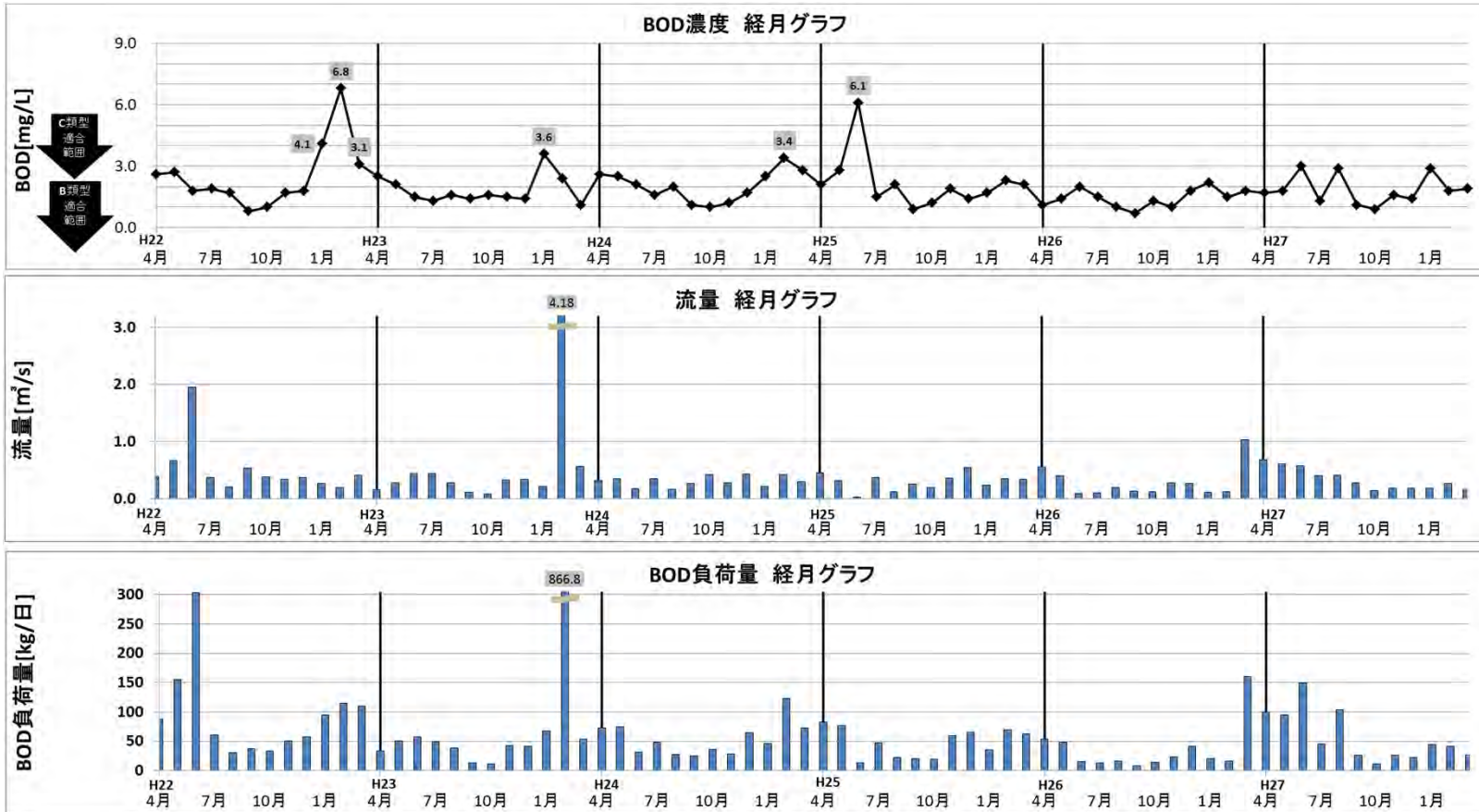


⑦ 佐備川 測定地点名:大伴橋【環境基準点】

BOD濃度、流量及びBOD汚濁負荷量の月別データ

	H22年度			H23年度			H24年度			H25年度			H26年度			H27年度(速報値)			
	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	
月平均(※1)	4月	2.6	0.39	87.6	2.5	0.16	34.6	2.6	0.32	71.9	2.1	0.46	83.5	1.1	0.56	53.2	1.7	0.68	99.9
	5月	2.7	0.67	156.3	2.1	0.28	50.8	2.5	0.35	75.6	2.8	0.32	77.4	1.4	0.40	48.4	1.8	0.61	94.9
	6月	1.8	1.95	303.3	1.5	0.45	58.3	2.1	0.17	30.8	6.1	0.03	15.8	2.0	0.09	15.6	3.0	0.58	150.3
	7月	1.9	0.37	60.7	1.3	0.44	49.4	1.6	0.36	49.8	1.5	0.37	48.0	1.5	0.10	13.0	1.3	0.40	44.9
	8月	1.7	0.21	30.8	1.6	0.28	38.7	2.0	0.16	27.6	2.1	0.13	23.6	1.0	0.20	17.3	2.9	0.42	105.2
	9月	0.8	0.54	37.3	1.4	0.11	13.3	1.1	0.27	25.7	0.9	0.26	20.2	0.7	0.14	8.5	1.1	0.28	26.6
	10月	1.0	0.38	32.8	1.6	0.09	12.4	1.0	0.42	36.3	1.2	0.19	19.7	1.3	0.13	14.6	0.9	0.15	11.7
	11月	1.7	0.35	51.4	1.5	0.33	42.8	1.2	0.28	29.0	1.9	0.37	60.7	1.0	0.28	24.2	1.6	0.19	26.3
	12月	1.8	0.37	57.5	1.4	0.34	41.1	1.7	0.44	64.6	1.4	0.55	66.5	1.8	0.27	42.0	1.4	0.18	21.8
	1月	4.1	0.27	95.6	3.6	0.22	68.4	2.5	0.22	47.5	1.7	0.24	35.3	2.2	0.11	20.9	2.9	0.18	45.1
	2月	6.8	0.20	117.5	2.4	4.18	866.8	3.4	0.42	123.4	2.3	0.35	69.6	1.5	0.13	16.8	1.8	0.27	42.0
	3月	3.1	0.41	109.8	1.1	0.56	53.2	2.8	0.30	72.6	2.1	0.35	63.5	1.8	1.03	160.2	1.9	0.16	26.3
	年平均(※2)	2.5	0.51	95.1	1.8	0.62	110.8	2.0	0.31	54.6	2.2	0.30	48.6	1.4	0.29	36.2	1.9	0.34	57.9

※1: 流量については各月の調査にて複数回測定を行っていることから、それらの平均値を月平均とした。
 ※2: 年間における全測定値の平均から年平均値を算出した。

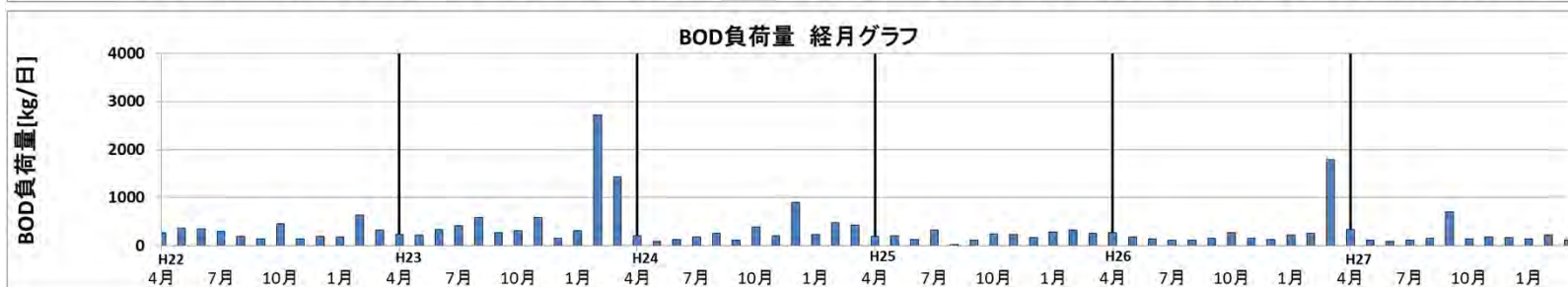
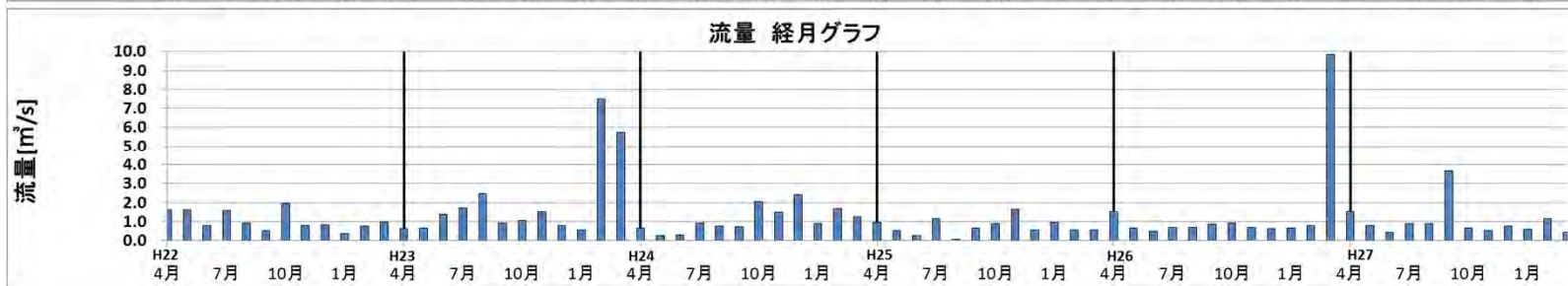
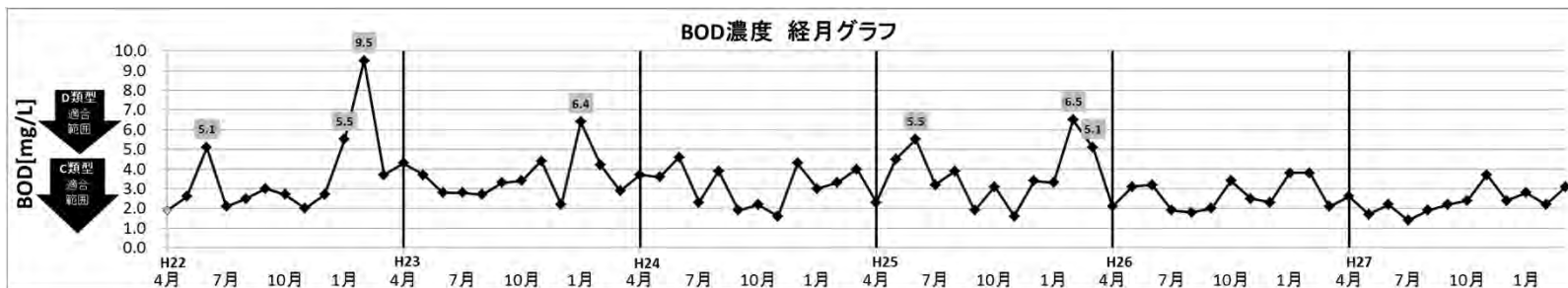


⑧ 大津川下流 測定地点名:大津川橋【環境基準点】

BOD濃度、流量及びBOD汚濁負荷量の月別データ

	H22年度			H23年度			H24年度			H25年度			H26年度			H27年度(速報値)			
	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	BOD濃度 [mg/L]	流量 [m³/s]	BOD負荷量 [kg/日]	
月平均(※1)	4月	1.9	1.63	267.6	4.3	0.64	237.8	3.7	0.66	211.0	2.3	0.96	190.8	2.1	1.52	275.8	2.6	1.52	341.5
	5月	2.6	1.63	366.2	3.7	0.69	220.6	3.6	0.27	84.0	4.5	0.53	206.1	3.1	0.68	182.1	1.7	0.81	119.0
	6月	5.1	0.80	352.5	2.8	1.39	336.3	4.6	0.31	123.2	5.5	0.27	128.3	3.2	0.49	135.5	2.2	0.43	81.7
	7月	2.1	1.61	292.1	2.8	1.71	413.7	2.3	0.93	184.8	3.2	1.16	320.7	1.9	0.70	114.9	1.4	0.91	110.1
	8月	2.5	0.92	198.7	2.7	2.49	580.9	3.9	0.77	259.5	3.9	0.07	23.6	1.8	0.72	112.0	1.9	0.90	147.7
	9月	3.0	0.54	140.0	3.3	0.95	270.9	1.9	0.73	119.8	1.9	0.68	111.6	2.0	0.88	152.1	2.2	3.68	699.5
	10月	2.7	1.95	454.9	3.4	1.07	314.3	2.2	2.06	391.6	3.1	0.92	246.4	3.4	0.94	276.1	2.4	0.69	143.1
	11月	2.0	0.81	140.0	4.4	1.54	585.4	1.6	1.51	208.7	1.6	1.66	229.5	2.5	0.72	155.5	3.7	0.55	175.8
	12月	2.7	0.84	196.0	2.2	0.80	152.1	4.3	2.42	899.1	3.4	0.59	173.3	2.3	0.64	127.2	2.4	0.79	163.8
	1月	5.5	0.39	185.3	6.4	0.56	309.7	3.0	0.89	230.7	3.3	0.98	279.4	3.8	0.66	216.7	2.8	0.59	142.7
	2月	9.5	0.78	640.2	4.2	7.49	2718.0	3.3	1.68	479.0	6.5	0.58	325.7	3.8	0.79	259.4	2.2	1.17	222.4
	3月	3.7	1.00	319.7	2.9	5.76	1443.2	4.0	1.25	432.0	5.1	0.59	260.0	2.1	9.85	1787.2	3.1	0.44	117.8
年平均(※2)	3.6	1.07	296.1	3.6	2.09	631.9	3.2	1.12	301.9	3.7	0.75	208.0	2.7	1.55	316.2	2.4	1.04	205.4	

※1: 流量については各月の調査にて複数回測定を行っていることから、それらの平均値を月平均とした。
 ※2: 年間における全測定値の平均から年平均値を算出した。



大阪府内河川に生息している魚類

資料 2

● 淀川水系

水系	河川水域名	現在の類型		平成20年までの魚類の調査結果			平成21年以降の魚類の調査結果		
		BOD等	水生生物	確認された魚類等	出典	調査年	確認された魚類等	出典	調査年
淀川	淀川下流(1)	B/A	B-I						
	淀川下流(2)	C-I	B-I						
	船橋川	B/A	B-I	ギンブナ、モツゴ	淀川水系淀川左岸ブロック河川整備計画参考資料	H13	ギンブナ、モツゴ、タモロコ、ドジョウ	平成24年度第4回大阪府河川整備審議会資料	H24
	穂谷川	B/A	B-I	コイ、ギンブナ、タモロコ、ドジョウ、カワヨシノボリ	淀川水系淀川左岸ブロック河川整備計画参考資料	H13	コイ、ギンブナ、オイカワ、モツゴ、タモロコ、ドジョウ、メダカ、ドンコ	平成24年度第4回大阪府河川整備審議会資料	H24
							コイ、ギンブナ、オイカワ、モツゴ、タモロコ、ドジョウ、ドンコ	府河川室資料	
	檜尾川	B-I	B-I	オイカワ、カワムツ、カワヨシノボリ	淀川水系淀川右岸ブロック河川整備計画参考資料	H9	コイ、ギンブナ、カネヒラ、オイカワ、オイカワ属、カワムツ、モツゴ、タモロコ、ドジョウ、メダカ類、ドンコ、カワヨシノボリ、オオクチバス	府河川室資料	H25
	天野川	B/A	B-I	ウナギ、コイ、ギンブナ、オイカワ、カワムツ、モツゴ、タモロコ、イトモロコ、カマツカ、ニゴイ、ドジョウ、ギギ、ナマス、ドンコ、カワヨシノボリ、キンギョ、ブルーギル、オオクチバス	淀川水系淀川左岸ブロック河川整備計画参考資料	H13	コイ、ギンブナ、オイカワ、カワムツ、ヌマムツ、モツゴ、タモロコ、カマツカ、ニゴイ、コウライニゴイ、ドジョウ、※アユ、メダカ、ドンコ、ブルーギル	平成24年度第4回大阪府河川整備審議会資料	H24
	芥川(1) 【上流】	A-I	A-I	オイカワ、カワムツ、タカハヤ、ドンコ、カワヨシノボリ、トウヨシノボリ、オオヨシノボリ	淀川水系淀川右岸ブロック河川整備計画参考資料	H8	オイカワ、カワムツ、ドンコ、カワヨシノボリ、ニジマス	府河川室資料	H25
	芥川(2) 【下流】	A-I	B-I	ギンブナ、オイカワ、カマツカ、ニゴイ、コウライモロコ、ドンコ、カワヨシノボリ	「大阪府下の川と魚」(平成20年3月、大阪府環境農林水産部水産課)	H19	オイカワ、カワムツ、タモロコ、カマツカ、ドジョウ、オオシマドジョウ、カワヨシノボリ、ニッコウイワナ、ニジマス	芥川モニタリング(地独 大阪府立環境農林水産総合研究所)	H24-27
	水無瀬川	A-I	A-I	ギンブナ、オイカワ、カワムツ、アブラハヤ、ドンコ、カワヨシノボリ	淀川水系淀川右岸ブロック河川整備計画参考資料	H9	カダヤシ	府河川室資料	H25
ギンブナ、オイカワ、カワムツ、アブラハヤ、タカハヤ、ムギツク、カマツカ、ドンコ、カワヨシノボリ				「大阪府下の川と魚」(平成20年3月、大阪府環境農林水産部水産課)	H19	カワムツ、ヌマムツ、タカハヤ、ムギツク、ナマス、ドンコ、カワヨシノボリ	2012年 河川漁業権実態調査報告書	H24	

● 神崎川水系

水系	河川水域名	現在の類型		平成20年までの魚類の調査結果			平成21年以降の魚類の調査結果		
		BOD等	水生生物	確認された魚類等	出典	調査年	確認された魚類等	出典	調査年
神崎川	神崎川	B口	B-I						
	天竺川	-	-						
	安威川上流	A-I	A-I	オイカフ、カワムツ、タカハヤ、カマツカ、 ドジョウ 、 アジメドジョウ 、アカザ、ドンコ、カワヨシノボリ	「大阪府下の川と魚」（平成20年3月、大阪府環境農林水産部水産課）	H19	ニホンウナギ、ウナギ、コイ、フナ、 オイカフ 、カワムツ、モツゴ、タモロコ、イトモロコ、ムギツク、カマツカ、 ドジョウ 、シマドジョウ、 アジメドジョウ 、ギギ、 ナマス 、アカザ、※アユ、アユはみあと、メダカ、ドンコ、カワヨシノボリ	安威川ダム魚類採捕調査（地独 大阪府立環境農林水産総合研究所）	H25-27
	安威川下流(1)	A-I	B-I	オイカフ、 ナマス	茨木市教育研究所ホームページ http://www.educ.city.ibaraki.osaka.jp/nature/index.htm		フナ類、 オイカフ 、カワムツ、タカハヤ、イトモロコ、ムギツク、カマツカ、 アジメドジョウ 、 アマゴ 、カワヨシノボリ	安威川・余野川調査（地独 大阪府立環境農林水産総合研究所）	H25-27
	安威川下流(2)	A-I	B-I	オイカフ、 ナマス	茨木市教育研究所ホームページ http://www.educ.city.ibaraki.osaka.jp/nature/index.htm		カワムツ、ギギ、 ナマス 、カワヨシノボリ	府河川室資料	H25
	安威川下流(3)	B口	B-I	オイカフ、 ナマス	茨木市教育研究所ホームページ http://www.educ.city.ibaraki.osaka.jp/nature/index.htm		コイ科、 ギンブナ 、 オイカフ 、カワムツ、モツゴ、タモロコ、カマツカ、カワヨシノボリ	府河川室資料	H25
	安威川下流(4)	A-I	B-I	オイカフ、 ナマス	茨木市教育研究所ホームページ http://www.educ.city.ibaraki.osaka.jp/nature/index.htm		コイ、フナ、 オイカフ 、カワムツ、モツゴ、タモロコ、イトモロコ、カマツカ、 ドジョウ 、 ナマス 、 カシカ 、ドンコ、カワヨシノボリ、タイリクバラタナゴ、オオクチバス	安威川ダム魚類採捕調査（地独 大阪府立環境農林水産総合研究所）	H25-27
	佐保川及び茨木川	A-I	B-I	カマツカ、 ドジョウ 、ドンコ	淀川水系神崎川ブロック河川整備計画参考資料		コイ（飼育品種）、 ギンブナ 、ハス、ボラ、マハゼ、アベハゼ、カダヤシ	府河川室資料	H25
	大正川	A-I	B-I	メダカ、 オオヨシノボリ	淀川水系神崎川ブロック河川整備計画参考資料		オイカフ 、カワムツ、タモロコ、ムギツク、 ドジョウ 、ドンコ、アベハゼ	府河川室資料	H25
	勝尾寺川	A口	B-I	タモロコ、メダカ、ドンコ、 オオヨシノボリ	淀川水系神崎川ブロック河川整備計画参考資料		ギンブナ 、カネヒラ、 オイカフ 、モツゴ、ニゴイ属、スゴモロコ属、 ボラ 、マハゼ、タイリクバラタナゴ、カダヤシ、ブルーギル	府河川室資料	H25
	猪名川上流	A-I	B-I				オイカフ 、カワムツ、モツゴ、タモロコ、 ドジョウ 、メダカ類、ドンコ、カワヨシノボリ	府河川室資料	H25
	猪名川下流(2)	D-I	B-I						
	箕面川(1)	A-I	A-I	フナ、 オイカフ 、ドンコ、カワヨシノボリ	「大阪府下中小河川の生息魚種と水質について」（水産増殖36巻2号、1988）	S60、S61	カワムツ、カワヨシノボリ	府河川室資料	H23
	箕面川(2)	A-I	B-I				オイカフ 、カワムツ、ムギツク、ドンコ、カワヨシノボリ	府河川室資料	H23
	余野川	A-I	A-I	ギンブナ 、 オイカフ 、カワムツ、タカハヤ、モツゴ、カマツカ、 ドジョウ 、シマドジョウ、※アユ、メダカ、ドンコ、カワヨシノボリ、オオクチバス	「大阪府下の川と魚」（平成20年3月、大阪府環境農林水産部水産課）	H19	オイカフ 、カワムツ、タカハヤ、カマツカ、 ドジョウ 、オオシマドジョウ、※アユ、ミナミメダカ、ドンコ、カワヨシノボリ、 ニジマス	安威川・余野川調査（地独 大阪府立環境農林水産総合研究所）	H25-27
	千里川	A-I	B-I	フナ、 オイカフ 、モツゴ、 ドジョウ 、 ナマス	「大阪府下中小河川の生息魚種と水質について」（水産増殖36巻2号、1988）	S60、S61	オイカフ 、カワムツ、シマドジョウ、ギギ、 ナマス 、ドンコ、カワヨシノボリ	府河川室資料	H23
	田尻川	A-I	A-I	コイ、フナ類、 オイカフ 、カワムツ、タモロコ、ムギツク、カマツカ、 ドジョウ 、ギギ、※アユ、メダカ、ドンコ、カワヨシノボリ、 オオヨシノボリ	「大阪府下の川と魚」（平成20年3月、大阪府環境農林水産部水産課）	H19	ウナギ 、 ギンブナ 、フナ属、 オイカフ 、カワムツ、モツゴ、カマツカ、ニゴイ、コウライモロコ、 ドジョウ 、 ナマス 、ドンコ、カワヨシノボリ、ウキゴリ、カダヤシ、ブルーギル、タイワンドジョウ	漁業権漁場実態調査（地独 大阪府立環境農林水産総合研究所）	H24
	一庫・大踏次川	A-I	A-I	コイ、フナ類、 オイカフ 、カワムツ、タモロコ、イトモロコ、ムギツク、カマツカ、 ドジョウ 、シマドジョウ、ギギ、マナマス、アカザ、※アユ、ドンコ、カワヨシノボリ	「大阪府下の川と魚」（平成20年3月、大阪府環境農林水産部水産課）	H19	コイ 、 オイカフ 、カワムツ、タモロコ、カマツカ、ギギ、 ナマス 、メダカ、ドンコ、カワヨシノボリ	府河川室資料	H23
	一庫・大踏次川	A-I	A-I	ギンブナ 、 オイカフ 、カワムツ、イトモロコ、ムギツク、カマツカ、シマドジョウ、※アユ、ドンコ、カワヨシノボリ、 シマヨシノボリ	淀川水系猪名川上流ブロック河川整備計画参考資料		フナ 類、 オイカフ 、カワムツ、ムギツク、カマツカ、 ドジョウ 、オオシマドジョウ、ギギ、 ナマス 、※アユ、ドンコ、カワヨシノボリ、ブルーギル	河川漁業権実態調査報告書 2012年調査（大阪府環境農林水産部水産課）	H24
	山辺川	A-I	A-I	フナ類、 オイカフ 、カワムツ、タカハヤ、ムギツク、 ドジョウ 、シマドジョウ、アカザ、 カシカ 、ドンコ、カワヨシノボリ、オヤニラミ	「大阪府下の川と魚」（平成20年3月、大阪府環境農林水産部水産課）	H19	コイ、 ギンブナ 、 オイカフ 、カワムツ、モツゴ、イトモロコ、ムギツク、カマツカ、 ドジョウ 、シマドジョウ、 ナマス 、メダカ、 カシカ 太卵型、ドンコ、カワヨシノボリ	府河川室資料	H23
山辺川	A-I	A-I	フナ類、 オイカフ 、カワムツ、タカハヤ、ムギツク、 ドジョウ 、シマドジョウ、アカザ、 カシカ 、ドンコ、カワヨシノボリ、オヤニラミ	「大阪府下の川と魚」（平成20年3月、大阪府環境農林水産部水産課）	H19	オイカフ 、カワムツ、タカハヤ、ムギツク、 ドジョウ 、オオシマドジョウ、 アマゴ 、ドンコ、カワヨシノボリ、オヤニラミ	漁業権漁場実態調査（地独 大阪府立環境農林水産総合研究所）	H24	

● 寝屋川水系・大阪市内河川

水系	河川水域名	現在の類型		平成20年までの魚類の調査結果				平成21年以降の魚類の調査結果			
		BOD等	水生生物	確認された魚類等	出典	調査年	確認された魚類等	出典	調査年		
寝屋川	寝屋川(1) 【上流】	Cイ	Bロ				コイ、ギンブナ、オイカワ 、モツゴ、タモロコ、コウライモロコ、 ドジョウ 、メダカ、カワヨシノボリ、カダヤシ、グッピー、ブルーギル、タウナギ	府河川室資料			
	寝屋川(2) 【下流】	Dロ	-	コイ、フナ属 、コウライニゴイ、 ボラ 、カダヤシ	大阪市魚類生息状況調査（平成18年度）	H18	フナ属 、モツゴ、コウライモロコ、※アユ、 ボラ 、カダヤシ	大阪市内河川魚類生息状況調査	H23		
	恩智川	Dロ	-	ギンブナ、オイカワ 、タモロコ、 ドジョウ 、カダヤシ	寝屋川水系寝屋川流域水環境改善緊急行動計画参考資料（平成16年5月、寝屋川流域協議会）		コイ、フナ類、オイカワ 、モツゴ、タモロコ、カマツカ、コウライニゴイ、コウライモロコ、 ナマス 、 ボラ 、カダヤシ、オオクチバス	水生生物生息状況調査（地独 大阪府立環境農林水産総合研究所）	H26		
	古川	Dロ	-	カダヤシ	寝屋川水系寝屋川流域水環境改善緊急行動計画参考資料（平成16年5月、寝屋川流域協議会）						
	第二寝屋川	Dイ	-	コイ、フナ属 、モツゴ、 ボラ 、カダヤシ	大阪市魚類生息状況調査（平成18年度）	H18	コイ、フナ属、ボラ 、カダヤシ	大阪市内河川魚類生息状況調査	H23		
	平野川分水路	Dイ	-	コイ、フナ属、オイカワ 、モツゴ、タモロコ、 ボラ 、カダヤシ	大阪市魚類生息状況調査（平成18年度）	H18	コイ、フナ属 、モツゴ、コウライモロコ、 ボラ 、カダヤシ	大阪市内河川魚類生息状況調査	H23		
	平野川	Dイ	-	フナ属 、モツゴ、 ボラ 、カダヤシ	大阪市魚類生息状況調査（平成18年度）	H18	コイ、オイカワ 、モツゴ、 ドジョウ 、 ボラ 、カダヤシ	水生生物生息状況調査（地独 大阪府立環境農林水産総合研究所）	H26		
大阪市内河川	大川	Bイ	Bイ	フナ属 、ハス、 オイカワ 、カマツカ、ニゴイ属、カワヒガイ、コウライモロコ、 ボラ 、スズキ、マハゼ	大阪市魚類生息状況調査（平成18年度）	H18	オイカワ 、ワタカ、カマツカ、カワヒガイ、コウライモロコ、※アユ、 ボラ 、スズキ、マハゼ、ワカサギ、タイリクバラタナゴ、ブルーギル、オオクチバス	大阪市魚類生息状況調査（平成23年度）	H23		
	堂島川	Bイ	Bイ	フナ属、オイカワ 、ニゴイ属、 ボラ 、スズキ、マハゼ	大阪市魚類生息状況調査（平成18年度）	H18	※アユ、 ボラ 、スズキ、スズキ属、マハゼ、ヒメハゼ、オオクチバス	大阪市魚類生息状況調査（平成23年度）	H23		
	土佐堀川	Cイ	Bイ	フナ属 、コウライニゴイ、ニゴイ属、 ボラ 、スズキ、マハゼ、カダヤシ	大阪市魚類生息状況調査（平成18年度）	H18	コイ、ボラ 、マハゼ、ヒメハゼ	大阪市魚類生息状況調査（平成23年度）	H23		
	道頓堀川	Bイ	Bイ	フナ属、オイカワ 、コウライモロコ、 ボラ 、マハゼ、ワカサギ、ブルーギル、ブラックバス	大阪市魚類生息状況調査（平成18年度）	H18	コイ、フナ属 、コウライモロコ、※アユ、マハゼ、ブルーギル、オオクチバス	大阪市魚類生息状況調査（平成23年度）	H23		
	正蓮寺川	Bイ	Bイ	ボラ	淀川水系正蓮寺川ブロック河川整備計画参考資料						
	六軒家川	Bイ	Bイ								
	安治川	Bイ	Bイ	フナ属、ボラ 、メナダ、スズキ、キチヌ、コトヒキ、マハゼ、ヒメハゼ、ブルーギル、サツバ、セスジボラ、イシガレイ、マコガレイ、シマフグ	大阪市魚類生息状況調査（平成18年度）	H18	※アユ、 ボラ 、スズキ、マハゼ、ウキゴリ、イケカツオ属、カタクチイワシ、コノシロ、サヨリ	大阪市魚類生息状況調査（平成23年度）	H23		
	尻無川	Bイ	Bイ	ボラ 、メナダ、スズキ、キチヌ、マハゼ、ヒメハゼ、サツバ	大阪市魚類生息状況調査（平成18年度）	H18	※アユ、 ボラ 、スズキ、キチヌ、マハゼ、ウキゴリ属、サツバ、マアジ	大阪市魚類生息状況調査（平成23年度）	H23		
	木津川	Bイ	Bイ	ボラ 、スズキ、クロダイ、マハゼ、ヒメハゼ、カタクチイワシ	大阪市魚類生息状況調査（平成18年度）	H18	※アユ、 ボラ 、スズキ、クロダイ、マハゼ、サツバ、カタクチイワシ、サヨリ	大阪市魚類生息状況調査（平成23年度）	H23		
	木津川運河	Bイ	Bイ								
住吉川	Bロ	Bイ									
東横堀川	Bイ	Bイ									

● 大和川水系

水系	河川水域名	現在の類型		平成20年までの魚類の調査結果				平成21年以降の魚類の調査結果			
		BOD等	水生生物	確認された魚類等	出典	調査年	確認された魚類等	出典	調査年		
大和川	石川【高橋より上流】	B-I	B-I	オイカフ、カワムツ、タカハヤ、タモロコ、ドジョウ、※アユ、カワヨシノボリ、オオクチバス	「大阪府下の川と魚」（平成20年3月、大阪府環境農林水産部水産課）	H19	コイ、ギンブナ、オイカフ、カワムツ、アブラハヤ、モツゴ、タモロコ、カマツカ、ニゴイ属、ドジョウ、ナマス、※アユ、ドンコ、カワヨシノボリ、ブルーギル、オオクチバス	平成25年度第8回大阪府河川整備審議会資料	H24		
	石川【下流】			コイ、ギンブナ、ゲンゴロウブナ、オイカフ、カワムツ、タモロコ、カマツカ、ドジョウ、マナマス、カワヨシノボリ、オオクチバス	「大阪府下の川と魚」（平成20年3月、大阪府環境農林水産部水産課）	H19	コイ、カワムツ、ヌマムツ、タカハヤ、モツゴ、タモロコ、カマツカ、ドジョウ、ギギ、ナマス、※アユ、カワヨシノボリ、キンギョ、ブルーギル、オオクチバス	漁業種漁場実態調査（地独 大阪府立環境農林水産総合研究所）	H24		
	千早川	A-I	B-I	オイカフ、カワムツ、タカハヤ、メダカ、カワヨシノボリ	「大和川の自然」（大阪市立自然史博物館2006第35回特別展）		オイカフ、カワムツ、タカハヤ、カマツカ、カワヨシノボリ	平成25年度第8回大阪府河川整備審議会資料	H24		
	天見川	B-I	B-I	カワムツ、タカハヤ、カワヨシノボリ	「大和川の自然」（大阪市立自然史博物館2006第35回特別展）		オイカフ、カワムツ、カマツカ、ドジョウ、カワヨシノボリ	平成25年度第8回大阪府河川整備審議会資料	H24		
	石見川			A-I	A-I	カワムツ、タカハヤ、カワヨシノボリ	「大和川の自然」（大阪市立自然史博物館2006第35回特別展）		コイ、フナ類、オイカフ、カワムツ、タカハヤ、カマツカ、コウライニゴイ、オオシマドジョウ、ナマス、カワヨシノボリ	「河川における水生生物生息状況等調査データ集積」平成26年度進捗報告書 地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所	H26
	飛鳥川	C-O	B-I	カマツカ、ドジョウ、メダカ、ドンコ、カワヨシノボリ、トウヨシノボリ	「大和川の自然」（大阪市立自然史博物館2006第35回特別展）		カワムツ、タカハヤ、ヨシノボリ類	地域自然史と保全2014	H21-H25		
	梅川			A-I	B-I	モツゴ、タモロコ、カマツカ、ナマス、メダカ、ドンコ、カワヨシノボリ、トウヨシノボリ	「大和川の自然」（大阪市立自然史博物館2006第35回特別展）		カワムツ、タカハヤ、カワヨシノボリ、ニジマス	石見川調査（地独 大阪府立環境農林水産総合研究所）	H28
	佐備川	C-I	B-I	カワムツ、タカハヤ、ドンコ、カワヨシノボリ、トウヨシノボリ	「大和川の自然」（大阪市立自然史博物館2006第35回特別展）		ギンブナ、オイカフ、カワムツ、タカハヤ、モツゴ、タモロコ、カマツカ、ドジョウ、メダカ、ドンコ、カワヨシノボリ	平成25年度第8回大阪府河川整備審議会資料	H24		
	大和川中流			C-H	B-I	オイカフ、カワムツ、タカハヤ、ドンコ、カワヨシノボリ	大和川水系・石川の魚類の現状（自然史研究2010大阪自然史博物館）	H16-H18	ギンブナ、オイカフ、カワムツ、タカハヤ、モツゴ、タモロコ、カマツカ、ドジョウ、メダカ、ドンコ、カワヨシノボリ	大和川水系石川ブロック河川整備計画参考資料	H24
	大和川下流	D-H	B-I								
	東条川	C-O	B-O	モツゴ、オオクチバス	大和川水系西条川ブロック河川整備計画参考資料	H12	コイ、ギンブナ、オイカフ、モツゴ、カマツカ、コウライモロコ、ナマス、※アユ、ボラ、メダカ、マハゼ、カワヨシノボリ、ゴクラクハゼ、ウキゴリ、キンギョ、ヌマチチブ、カダヤシ、ブルーギル、オオクチバス、カムルチー	平成25年度第10回大阪府河川整備審議会資料	H23		
	西条川(1) 【狭山池より上流】	B-O	B-I	オイカフ、カワムツ、モツゴ、カマツカ、ドジョウ、ドンコ、カワヨシノボリ	大和川水系西条川ブロック河川整備計画参考資料	H12	ゲンゴロウブナ、ギンブナ、オイカフ、カワムツ、ヌマムツ、モツゴ、タモロコ、ドジョウ、ドンコ、ウキゴリ、カワヨシノボリ	平成25年度第10回大阪府河川整備審議会資料	H23		
	西条川(2)【下流】			D-O	-	フナ、コイ、オイカフ、モツゴ、タモロコ、ナマス、メダカ、ヨシノボリ、ブルーギル、オオクチバス	「大阪府下中小河川の生態魚種と水質について」（水産増殖36巻2号、1988）	S60、S61	ウナギ、コイ、ギンブナ、オイカフ、モツゴ、ニゴイ、ドジョウ、ボラ、マハゼ、カワヨシノボリ、ゴクラクハゼ、ウキゴリ、ヌマチチブ、カダヤシ、ブルーギル、オオクチバス	平成25年度第10回大阪府河川整備審議会資料	H23

● 泉州諸河川①

水系	河川水域名	現在の類型		平成20年までの魚類の調査結果				平成21年以降の魚類の調査結果			
		BOD等	水生生物	確認された魚类等	出典	調査年	確認された魚类等	出典	調査年		
泉州諸河川	石津川	Dイ	-	コイ、ギンブナ、ボラ	石津川水系河川整備基本方針(H14.4大阪府)		ウナギ、コイ、フナ属、オイカフ、ヌマムツ、タモロコ、ドジョウ、ボラ、セスジボラ、メダカ、ドンコ、マハゼ、ヨシノボリ属、トウヨシノボリ(縞鱈型)、ブルーギル、オオクチバス、ダニオ亜科	平成25年度第4回大阪府河川整備審議会資料	H22		
							ウナギ、コイ、フナ類、オイカフ、カワムツ、ヌマムツ、モツゴ、タモロコ、カマツカ、ドジョウ、ナマス、※アユ、ボラ、メナダ、ミナミメダカ、ドンコ、マハゼ、チチブ、ヨシノボリ属の一種、カワヨシノボリ、ゴクラクハゼ、シマヒレヨシノボリ、ウキゴリ属、キンギョ、ヌマチチブ、カダヤシ、ブルーギル、オオクチバス	堺市平成26年度河川水生生物調査(魚類)	H26		
	和田川	Cロ	Bイ	コイ、フナ、ドジョウ	石津川水系河川整備基本方針(H14.4大阪府)		コイ、ギンブナ、オイカフ、タモロコ、ドジョウ、カダヤシ、オオクチバス	平成25年度第4回大阪府河川整備審議会資料			
	大津川上流	Bロ	Bイ	ウナギ、コイ、フナ、オイカフ、カマルチー	「大阪府下中小河川の生息魚種と水質について」(水産増殖36巻2号、1988)	S60、S61	ニホンウナギ、オイカフ、カワムツ、モツゴ、ドジョウ、マハゼ、クロヨシノボリ、ゴクラクハゼ、シマヒレヨシノボリ	水生生物生息状況調査(地独 大阪府立環境農林水産総合研究所)	H25		
	大津川下流	Dイ	-	コイ、ギンブナ、ゲンゴロウブナ、ボラ	大津川水系河川整備計画参考資料	H9					
				ウナギ、コイ、オイカフ、モツゴ、タモロコ、メナダ、スズキ、メダカ、クロダイ、カワアナゴ、マハゼ、チチブ、ゴクラクハゼ、ブルーギル	大津川水系河川整備計画参考資料	H19					
	牛滝川	Bロ	Bイ	ウナギ、フナ、オイカフ、モツゴ、タモロコ、ツチフキ、コトヒキ、ボウスハゼ、キンギョ、タイリクバラタナゴ	「大阪府下中小河川の生息魚種と水質について」(水産増殖36巻2号、1988)	S60、S61	ギンブナ、オオギンブナ、オイカフ、モツゴ、タモロコ、ギギ、ボラ、クロサギ、キチヌ、シマイサギ、カワアナゴ、マハゼ、チチブ、ゴクラクハゼ、ウロハゼ、ヒメハゼ、ブルーギル	水生生物生息状況調査(地独 大阪府立環境農林水産総合研究所)	H25		
				コイ科の稚魚、ギンブナ、カワムツ、アブラハヤ、モツゴ、ヨシノボリ属の一種	大津川水系河川整備計画参考資料	H3					
				コイ、ギンブナ、オイカフ、カワムツ、タカハヤ、コウライモロコ、ドジョウ、カワヨシノボリ	大津川水系河川整備計画参考資料	H17					
	松尾川	Bハ	Bイ	フナ、オイカフ、モツゴ、タモロコ	「大阪府下中小河川の生息魚種と水質について」(水産増殖36巻2号、1988)	S60、S61					
				ギンブナ、オイカフ、カワムツ、モツゴ	大津川水系河川整備計画参考資料	H8	コイ、ギンブナ、オイカフ、カワムツ、モツゴ、ドジョウ、オオクチバス	平成25年度第4回大阪府河川整備審議会資料	H13		
	横尾川	Bイ	Bイ	ウナギ、フナ、オイカフ、モツゴ、タモロコ、ヨシノボリ	「大阪府下中小河川の生息魚種と水質について」(水産増殖36巻2号、1988)	S60、S61					
	横尾川	Bイ	Bイ	ギンブナ、オイカフ、カワムツ、モツゴ、タモロコ、シマドジョウ、ギギ、メダカ、カワヨシノボリ、トウヨシノボリ	大津川水系河川整備計画参考資料	H9	コイ、ギンブナ、オイカフ、カワムツ、モツゴ、タモロコ、ドジョウ、シマドジョウ、ギギ、メダカ、トウヨシノボリ、ブルーギル、オオクチバス	平成25年度第4回大阪府河川整備審議会資料	H19		
	父鬼川	Aイ	Bイ		「大阪府下中小河川の生息魚種と水質について」(水産増殖36巻2号、1988)	S60、S61	カワムツ、タカハヤ、カワヨシノボリ、ニジマス	父鬼川調査(地独 大阪府立環境農林水産総合研究所)	H28		
春木川	Dイ	-	フナ、オイカフ、カワムツ、タカハヤ	「大阪府下中小河川の生息魚種と水質について」(水産増殖36巻2号、1988)	S60、S61						
			ウナギ、コイ、ギンブナ、モツゴ、タモロコ、ドジョウ、ボラ、スズキ、カワアナゴ、マハゼ、カワヨシノボリ、トウヨシノボリ、ブルーギル、オオクチバス	春木川水系河川整備計画参考資料	H15	コイ、ギンブナ、モツゴ、タモロコ、ドジョウ、ボラ、メナダ、スズキ、メダカ、マハゼ、アベハゼ、トウヨシノボリ、ウロハゼ、ブルーギル、オオクチバス、タウナギ、マイワシ、カクチイワシ	平成26年度第4回大阪府河川整備審議会資料	H21			
			ギンブナ	大阪府泉南地域河川環境管理基本計画(H8.3)							

● 泉州諸河川②

水系	河川水域名	現在の類型		平成20年までの魚類の調査結果			平成21年以降の魚類の調査結果		
		BOD等	水生生物	確認された魚類等	出典		確認された魚類等	出典	
						調査年			調査年
泉州諸河川	津田川	Eイ	-	ウナギ、ギンブナ、フナの一種、モツゴ、タモロコ、ドジョウ、メダカ、ヨシノボリの一種	津田川水系河川整備計画参考資料	H7、H12	ニホンウナギ、コイ、ギンブナ、フナ属、オイカフ、カワムツ、タカハヤ、モツゴ、タモロコ、ドジョウ、ボラ、ミナミメダカ、ドンコ、マハゼ、カワヨシノボリ、ゴクラクハゼ、トウヨシノボリ、ウキゴリ、ウロハゼ、カダヤシ、オオクチバス、タウナギ	平成27年度第2回大阪府河川整備審議会資料	H26
	近木川上流	Bイ	Bイ	カワムツ、アブラハヤ、アマゴ	大阪府東南地域河川環境管理基本計画(H8.3)	-	-	府河川室資料	H21
				カワムツ、ドンコ、カワヨシノボリ	「大阪府下中小河川の生息魚種と水質について」(水産増殖36巻2号、1988)	S60、S61	-	-	
	近木川下流	Dイ	-	ギンブナ、オイカフ、モツゴ、タモロコ、ボラ、ドンコ	大阪府東南地域河川環境管理基本計画(H8.3)	-	ウナギ、コイ、ゲンゴロウブナ、ギンブナ、フナ属、オイカフ、モツゴ、タモロコ、ボラ、メダカ、ドンコ、カワアナゴ、ミミズハゼ、ウキゴリ、トウヨシノボリ、ヌマチチブ、クサフグ、ニシン科	府河川室資料	H21
				コイ、オイカフ、モツゴ、タモロコ、※アユ、ドンコ、カワヨシノボリ、トウヨシノボリ、Crassius属の一種	近木川水系河川整備計画参考資料	-	-	-	
	見出川	Eイ	-	フナ、メダカ	「大阪府下中小河川の生息魚種と水質について」(水産増殖36巻2号、1988)	S60、S61	-	-	-
				ウナギ、コイ、ギンブナ、オイカフ、カワムツ、モツゴ、タモロコ、ボラ、メダカ、カワアナゴ、カワヨシノボリ	「平成19年度大阪府見出川流域における健全な水循環の構築に向けた計画策定調査業務報告書」(平成20年3月、財団法人大阪府みどり公社)	-	-	-	
	佐野川	Eイ	-	ウナギ、ギンブナ	佐野川水系河川整備計画参考資料	-	ウナギ、モツゴ、ボラ、コトヒキ、カワアナゴ、マハゼ、アベハゼ、トウヨシノボリ、ブルーギル	平成25年度第11回大阪府河川整備審議会資料	H23
	樫井川上流	Bイ	Bイ	ギンブナ、オイカフ、カワムツB型、ドンコ、ヨシノボリ属、カワヨシノボリ、シマヨシノボリ、トウヨシノボリ、ブラックバス	樫井川水系河川整備計画参考資料	H4、H9	オイカフ、カワムツ、タカハヤ、ドンコ、カワヨシノボリ	平成26年度第7回大阪府河川整備審議会資料	H23、26
				フナ、ゲンゴロウブナ、モツゴ、タモロコ、ツチフキ	「大阪府下中小河川の生息魚種と水質について」(水産増殖36巻2号、1988)	S60、S61	-	-	
樫井川下流	Eイ	-	オイカフ、カワムツ、ヨシノボリ属、オオクチバス	大阪府東南地域河川環境管理基本計画(H8.3)	-	ギンブナ、フナ属、オイカフ、カワムツ、モツゴ、タモロコ、ナマズ、メダカ、ゴクラクハゼ、タイリクバラタナゴ、ブルーギル	平成26年度第7回大阪府河川整備審議会資料	H23、26	
			コイ、ギンブナ、ゲンゴロウブナ、フナ属、オイカフ、タモロコ、ハゼ科、ヨシノボリ属、ブラックバス	樫井川水系河川整備計画参考資料	H4、H9	-	-		
			フナ、ゲンゴロウブナ、ボラ	「大阪府下中小河川の生息魚種と水質について」(水産増殖36巻2号、1988)	S60、S61	-	-		

● 泉州諸河川③

水系	河川水域名	現在の類型		平成20年までの魚類の調査結果			平成21年以降の魚類の調査結果		
		BOD等	水生生物	確認された魚类等	出典	調査年	確認された魚类等	出典	調査年
泉州諸河川	男里川	Aイ	Bロ	ギンブナ、ヨシノボリ	大阪府泉南地域河川環境管理基本計画（H8.3）		ニホンウナギ、オイカワ、カワムツ、※アユ、ボラ、ミナミメダカ、クロホシフエダイ、ミミズハゼ、マハゼ、シマヨシノボリ、ゴクラクハゼ、コモンフグ、クサフグ、ヌマチチブ、ブルーギル	水生生物生息状況調査（地独 大阪府立環境農林水産総合研究所）	H25
							コイ、オイカワ、カワムツ、カマツカ、メダカ、カワヨシノボリ	府河川室資料	H23
	金熊寺川	Aイ	Bイ	コイ、ギンブナ、フナ属、オイカワ、カワムツ、ヨシノボリ	大阪府泉南地域河川環境管理基本計画（H8.3）		オイカワ、カワムツ、シマドジョウ、カワヨシノボリ、ヌマチチブ	水生生物生息状況調査（地独 大阪府立環境農林水産総合研究所）	H25
	菟碓川	Aイ	Bイ	ウナギ、フナ、オイカワ、カワムツ、モツゴ、ドジョウ、ドンコ	「大阪府下中小河川の生息魚種と水質について」（水産増殖36巻2号、1988）	S60、S61			
	山中川	Aイ	Bイ	コイ、フナ、オイカワ、カワムツ、タモロコ、ヨシノボリ、ブルーギル	「大阪府下中小河川の生息魚種と水質について」（水産増殖36巻2号、1988）	S60、S61			
	番川	Aイ	Bイ	ウナギ、カワムツ、※アユ、ヨシノボリ、カワヨシノボリ	「大阪府下中小河川の生息魚種と水質について」（水産増殖36巻2号、1988）	S60、S61	カワムツ、カワヨシノボリ	府河川室資料	H23
	大川	Aイ	Bイ	ウナギ、フナ、カワムツ、※アユ、ドンコ、オオクチバス	「大阪府下中小河川の生息魚種と水質について」（水産増殖36巻2号、1988）	S60、S61			
				コイ、ギンブナ、カワムツ、※アユ、ボラ、スズキ、ヒイラギ、カワヨシノボリ、クサフグ	平成18年度第6回大阪府河川整備委員会資料（大川水系河川整備基本方針関係）	H17			
	東川	Aイ	Bイ	ウナギ、フナ、オイカワ、カワムツ、※アユ、ドンコ、マハゼ、ボウスハゼ、ヨシノボリ	「大阪府下中小河川の生息魚種と水質について」（水産増殖36巻2号、1988）	S60、S61	ボラ、クロダイ、キチヌ、コトヒキ、シマイサキ、マハゼ、アバハゼ、チチブ、ヒメハゼ、クサフグ	水生生物生息状況調査（地独 大阪府立環境農林水産総合研究所）	H25
	西川	Aイ	Bイ	ウナギ、オイカワ、ドンコ、マハゼ、ヨシノボリ、カワヨシノボリ、ウキゴリ	「大阪府下中小河川の生息魚種と水質について」（水産増殖36巻2号、1988）	S60、S61	ニホンウナギ、ギンブナ、オオギンブナ、オイカワ、カワムツ、ドジョウ、※アユ、ボラ、クロダイ、ドンコ、カワアナゴ、チチブ、カワヨシノボリ、シマヨシノボリ、ゴクラクハゼ、スミウキゴリ、クサフグ	水生生物生息状況調査（地独 大阪府立環境農林水産総合研究所）	H25

（注）網掛けは国が指定する水域。
 ゴシック+下線表記は生物A類型に対応する主な魚種、ゴシック表記は生物B類型に対応する主な魚種。
 代表的な指標としてアユに※を付した。

《参 考》

- 1 河川の水質環境基準（生活環境の保全に関する項目） . . . 参 1
- 2 審議経過 . . . 参 2
- 3 水質部会委員 . . . 参 3
- 4 河川水質環境基準に係る類型指定について（諮問）（写） . . . 参 4

1. 河川の水質環境基準（生活環境の保全に関する項目）

① BOD等5項目

類型	利用目的の 適 応 性	基 準 値				
		水素イオン 濃 度 (pH)	生物化学的 酸素要求量 (BOD)	浮遊物質 量 (S S)	溶 存 酸素量 (DO)	大腸菌群数
AA	水道1級、自然環境保全及びA以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	1mg/L 以下	25mg/L以下	7.5mg/L 以上	50MPN/100mL 以下
A	水道2級、水産1級、水浴及びB以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	2mg/L 以下	25mg/L以下	7.5mg/L 以上	1,000MPN/100mL 以下
B	水道3級、水産2級及びC以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	3mg/L 以下	25mg/L以下	5mg/L 以上	5,000MPN/100mL 以下
C	水産3級、工業用水1級及びD以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	5mg/L 以下	50mg/L以下	5mg/L 以上	—
D	工業用水2級、農用水及びE以下の欄に掲げるもの	6.0以上 8.5以下	8mg/L 以下	100mg/L以下	2mg/L 以上	—
E	工業用水3級、環境保全	6.0以上 8.5以下	10mg/L 以下	ごみ等の浮遊が認め られないこと	2mg/L 以上	—

評価方法 1 基準値は、日間平均値とする。
 2 農業利用水点については、水素イオン濃度6.0以上7.5以下、溶存酸素量5mg/L以上とする。
 3 類型指定された水域におけるBODの環境基準達成状況の年間評価については、当該水域の環境基準点において、日間平均値の75%値が当該水域があてはめられた類型の環境基準に適合している場合に、当該水域が環境基準を達成しているものと判断する。複数の環境基準点をもつ水域においては、当該水域内のすべての環境基準点において、環境基準に適合している場合に、当該水域が環境基準を達成しているものと判断する。

- (注) 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
 2 水道1級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
 // 2級：沈澱ろ過等による通常の浄水操作を行うもの
 // 3級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
 3 水産1級：ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用
 // 2級：サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産3級の水産生物用
 // 3級：コイ、フナ等、β-中腐水性水域の水産生物用
 4 工業用水1級：沈澱等による通常の浄水操作を行うもの
 // 2級：薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの
 // 3級：特殊の浄水操作を行うもの
 5 環境保全：国民の日常生活(沿岸の遊歩等を含む。)において不快感を生じない限度

② 水生生物の保全に関する項目

類型	水生生物の生息状況の適応性	基 準 値		
		全亜鉛	ノニルフェノール	直鎖アルキル ベンゼンスルホン酸 及びその塩(LAS)
生物A	イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/L 以下	0.001mg/L 以下	0.03mg/L 以下
生物特A	生物Aの水域のうち、生物Aの欄に掲げる水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L 以下	0.0006mg/L 以下	0.02mg/L 以下
生物B	コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域	0.03mg/L 以下	0.002mg/L 以下	0.05mg/L 以下
生物特B	生物A又は生物Bの水域のうち、生物Bの欄に掲げる水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L 以下	0.002mg/L 以下	0.04mg/L 以下

評価方法 1 基準値は、年間平均値とする。

2. 審議経過

	開催日等	審議事項
第53回 環境審議会	平成28年 3月25日	○河川水質環境基準に係る類型指定について(諮問)
第8回部会	4月26日	○府内河川の状況について ○類型指定の基本的な考え方について
第9回部会	7月22日	○河川水質環境基準に係る類型指定案について
平成28年 8月10日～9月8日		「河川水質環境基準に係る類型指定(案)」に対する府民意見等の募集(意見2件)
第10回部会	平成28年 9月26日	○府民意見等の募集結果について ○河川水質環境基準に係る類型指定について(報告素案)
第11回部会	平成28年 11月14日	○府民意見等の募集結果及び水質部会の見解について ○河川水質環境基準に係る類型指定について(報告案)

3. 水質部会委員

氏 名	役 職	備 考
池 道彦	大阪大学大学院教授	部会長
島田 洋子	京都大学大学院准教授	
益田 晴恵	大阪市立大学大学院教授	
以上 環境審議会委員 計3名		
石川 宗孝	大阪工業大学特任教授	部会長代理
岸本 直之	龍谷大学教授	
西村 文武	京都大学大学院准教授	
以上 環境審議会専門委員 計3名		
合 計 6名		

4. 河川水質環境基準に係る類型指定について（諮問）（写）



環 保 第 2415 号
平成 28 年 3 月 25 日

大阪府環境審議会
会長 奥野 武俊 様

大阪府知事 松井 一郎



河川水質環境基準に係る類型指定について（諮問）

河川水質環境基準に係る類型指定にあたり、水質汚濁防止法（昭和 45 年法律第 138 号）第 21 条第 1 項の規定に基づき、貴審議会の意見を求めます。

(説 明)

水質汚濁に係る環境基準については、環境基本法（平成5年法律第91号）第16条第1項の規定に基づき、昭和46年環境庁告示第59号「水質汚濁に係る環境基準について」により、人の健康の保護及び生活環境の保全に関する環境基準が定められています。

このうち、生活環境の保全に関する環境基準は、水域の利用目的に対応して、生物化学的酸素要求量（BOD）等と水生生物の保全に関する項目ごとに複数の類型が設けられており、これらのいずれかの類型を当てはめ、水域の類型を指定することとなっています。

類型指定については、2以上の都道府県の区域にわたる水域であって政令で定められたものについては政府が、それ以外の水域については都道府県知事がそれぞれ水域の利用目的や水質汚濁の状況等を勘案して行うとともに、これらの事情の変化に応じて適宜改定することとされています。

現在、府内河川では、BOD等は67河川81水域に対し、水生生物の保全に関する項目は58河川63水域に対し、それぞれ類型指定を行っています。

類型指定については、平成21年6月に見直しを行い、見直した類型に基づく評価を平成22年度に開始してから5年が経過しており、より一層の水質保全を図るため、水域の利用目的や水質汚濁の状況等の事情の変化を踏まえて、適切な見直しを行う必要があります。

このため、水質汚濁防止法第21条第1項の規定に基づき、府内河川の類型指定について貴審議会の意見を求めるものです。